

—君津市—

# 上湯江遺跡IV

トマト栽培施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

株式会社 君津とまとガーデン  
君津市教育委員会



— 君津市 —

かみ ゆ え  
上湯江遺跡IV

トマト栽培施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

株式会社 君津とまとガーデン  
君津市教育委員会



# 序 文

県内 2 位の広大な市域を有する君津市は、現在も豊かな自然が多く残り、市内を流れる二大河川の小糸川・小櫃川流域を中心に、数多くの遺跡が所在しております。先人たちの生活の痕跡は、様々な歴史を物語ってくれます。これらの貴重な遺跡を、私たちは後世へと伝え残していくかなくてはなりません。

しかしながら、経済発展や地域活性化のための開発行為など現代人の働きによって、遺跡が壊されてしまうことが多いのも実情です。このような状況のなか、開発と遺跡保存の一つの解決策として講じているのが、事前に発掘調査を実施し、その記録を報告書として後世へ残す「記録保存」という手段であります。

本報告書は、民間開発事業に伴い発掘調査を実施した上湯江遺跡の成果をまとめたものです。今回の調査では、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物跡など、人々が生活していた痕跡を見つけたほか、古代の水滴の可能性がある小型平瓶もみつかり、当地区を考える上で重要な成果を得ることができました。

本書が学術資料、教育資料として活用されるとともに、市民をはじめ多くの皆様の目にとまり、遺跡というものがごく身近にも存在しているということを認識していただく契機となり、埋蔵文化財の保護を推進することができれば幸いです。

結びにご指導・ご助言いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課、発掘調査・整理作業に従事した調査補助員の方々、ご協力いただいた地域の方々、関係者の皆様に対しまして、心から感謝の意を表します。

平成 31 年 3 月

君津市教育委員会  
教育長 山口 喜弘

## 例　　言

1. 本書は、平成 28・29 年度調査実施の千葉県君津市上湯江 1287-1 他に所在する上湯江遺跡IVの成果を収録した発掘調査報告書である。

2. 調査は、千葉県教育委員会の指導のもと、君津市教育委員会が実施した。

3. 事業名および発掘調査の期間・面積、整理期間は以下のとおりである。

トマト栽培施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

(確認調査) 平成 28 年 11 月 21 日～平成 29 年 1 月 19 日 1,230 m<sup>2</sup> / 40,748 m<sup>2</sup>

平成 29 年 5 月 8 日～同年 6 月 22 日 997 m<sup>2</sup> / 27,763 m<sup>2</sup>

(本調査) 平成 29 年 7 月 10 日～同年 12 月 27 日 8,980 m<sup>2</sup>

(整理作業) 平成 30 年 6 月 5 日～平成 31 年 3 月 15 日

4. 発掘調査は、平成 28 年度曾我真実子・豊巻幸正、平成 29 年度曾我が担当した。整理作業・原稿執筆・編集は曾我が担当した。

5. 発掘調査で使用した遺跡コードは、上湯江遺跡 : KT 056 である。なお、遺物注記の際には、コードの次に調査地点を付した（例 : KT 056 IV）。

6. 遺構・遺物の縮尺は各実測図に明記した。方位は座標北であり、測量地は世界測地系による。

7. 今回の調査に伴う遺物・図面・写真等の記録類は、君津市教育委員会で保管する。

8. 調査組織は下記のとおりである。

《君津市教育委員会》

平成 28 年度

教育長：山口喜弘 教育部長：鈴木盛一

生涯学習文化課長：矢野淳一 副主幹（事）文化振興係長：當眞紀子

文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子 文化財主事（再任用）：豊巻幸正

平成 29 年度

教育長：山口喜弘 教育部長：鈴木盛一

生涯学習文化課長：矢野淳一 副主幹（事）文化振興係長：當眞紀子

文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子

平成 30 年度

教育長：山口喜弘 教育部長：加藤美代子

生涯学習文化課長：矢野淳一 副主幹（事）文化振興係長：當眞紀子

文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子

9. 発掘調査から本書の刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい（敬称略・五十音順）。

浅野健太、伊藤拓郎、稲葉昭智、稲葉理恵、岡山亮子、鎌田望里、川田航平、佐粧和也、多田あゆ美、能城秀喜、牧武尊、松本勝、宮本敬一、君津地方社会教育研究会文化部会

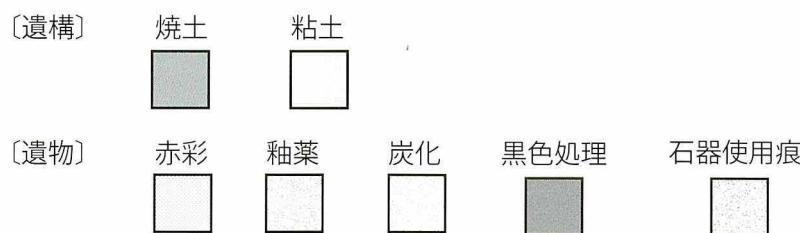
## 凡　　例

1. 本書で使用した地形図は、第 1 図 地形図「鹿野山」(1:25,000) 国土地理院発行、第 2 図 君津市地形図「D-5」(1:2,500) 君津市発行である。

2. 遺構番号については各遺構ごとに通して番号を付した。ピットについては、図示する遺物が出土したもののみ記載し、図示する遺物が出土していないピットについては表にまとめた。
3. 一括して記載した遺物については、番号脇の（ ）内に遺構番号を記した。
4. 整理作業時に遺構の性格を検討した結果、遺構番号を変更した遺構がある。出土遺物には、発掘調査時の遺構番号で注記を行った。遺構番号の新旧対応は以下のとおりであり、各遺構の記載にも旧遺構番号を記載した。

(新) SE-002 → (旧) SK-001  
 SE-003 → SK-005  
 SB-004 → P-51・52・55・57  
 SB-005 → SK-61・62・63・70・71、P-108

5. 遺構・遺物実測図のスクリーントーンは、下記のことを示す。



## 目 次

序 文・例 言・凡 例	
第1章 はじめに	1
1 調査にいたる経緯	1
2 地理的・歴史的環境	1
3 遺跡の概要	3
4 調査の方法	5
5 基本土層	5
第2章 調査成果	9
1 検出遺構	9
2 I 区	9
3 II 区	15
4 III 区	20
5 IV 区	31
6 V 区	50
7 その他出土遺物	67
第3章 まとめ	69

# 挿図目次

第1図	周辺の遺跡	2
第2図	上湯江遺跡調査区位置図	4
第3図	調査位置図	6
第4図	基本土層	6
第5図	確認調査トレンド配置図	7
第6図	上湯江遺跡IV遺構配置図	10
第7図	I区遺構配置図	11
第8図	SD-006・007、SK-002・003実測図	12
第9図	SZ-001実測図	14
第10図	セクション図及び出土遺物実測図	14
第11図	II区全体図	16
第12図	SK-011実測図	17
第13図	SE-003実測図	18
第14図	II区出土遺物実測図	19
第15図	セクション図	20
第16図	III区遺構配置図	21
第17図	SD-010実測図	22
第18図	SD-011～013、SK-012・013・019～021・023・030・037、P-5・7実測図	23
第19図	SD-015・016、SK-036実測図	24
第20図	IV区土坑実測図	26
第21図	III区出土遺物実測図	30
第22図	IV区遺構配置図	32
第23図	SB-001・002実測図	33
第24図	SB-003・004実測図	34
第25図	SD-007・017・019実測図	36
第26図	SD-020～025実測図	38
第27図	SK-043実測図	40
第28図	SK-044実測図	41
第29図	SK-051・052実測図	42
第30図	SK-053実測図	43
第31図	SK-054実測図	44
第32図	SK-056出土遺物実測図	44
第33図	SK-056遺構実測図	45
第34図	IV区土坑実測図	45
第35図	SE-005実測図	46
第36図	P-73・74実測図	48
第37図	IV区出土遺物実測図	49
第38図	V区遺構配置図	50
第39図	SI-001出土遺物実測図	51
第40図	SI-001遺構実測図	52
第41図	SI-002出土遺物実測図	53
第42図	SI-002遺構実測図	54
第43図	SI-003・004出土遺物実測図	55
第44図	SI-003・004遺構実測図	56
第45図	SI-005・006出土遺物実測図	57
第46図	SI-005・006遺構実測図	58
第47図	SI-007実測図	59
第48図	SB-005実測図	60
第49図	V区西部遺構実測図	62
第50図	SD-026～029出土遺物実測図	63
第51図	SK-058・059・065実測図	65
第52図	V区出土遺物実測図	66
第53図	その他出土遺物実測図	67
第54図	検出遺構配置図	70

# 表目次

表1	SD-007出土遺物観察表	13
表2	SZ-001出土遺物観察表	13
表3	SE-002出土遺物観察表	15
表4	I区ピット観察表	15
表5	SK-011出土遺物観察表	18
表6	SE-003出土遺物観察表	19
表7	II区出土遺物観察表	19
表8	SD-010出土遺物観察表	22
表9	SD-011・013出土遺物観察表	23
表10	SD-015出土遺物観察表	24
表11	III区ピット観察表	30
表12	III区出土遺物観察表	31
表13	SB-001～004出土遺物観察表	35
表14	SD-007・017・019出土遺物観察表	37
表15	SD-020～022・024出土遺物観察表	39
表16	SK-043出土遺物観察表	40
表17	SK-044出土遺物観察表	41
表18	SK-051出土遺物観察表	42
表19	SK-053出土遺物観察表	43
表20	SK-054出土遺物観察表	44
表21	SK-056出土遺物観察表	45
表22	SE-005出土遺物観察表	47

表23 P-73出土遺物観察表	47	表29 SI-005・006出土遺物観察表	58
表24 IV区ピット観察表(1)	48	表30 SI-007出土遺物観察表	59
IV区ピット観察表(2)	49	表31 SB-005出土遺物観察表	61
表25 IV区出土遺物観察表	49	表32 SD-026～029出土遺物観察表	63
表26 SI-001出土遺物観察表(1)	51	表33 V区ピット観察表	65
SI-001出土遺物観察表(2)	52	表34 V区出土遺物観察表	66
表27 SI-002出土遺物観察表	53	表35 その他出土遺物観察表(1)	67
表28 SI-003・004出土遺物観察表	56	その他出土遺物観察表(2)	68

## 図版目次

図版1～13 遺構写真

図版14～18 遺物写真



# 第1章 はじめに

## 1 調査にいたる経緯

平成28年10月20日付けで、株式会社君津とまとガーデンより文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」の提出があった。開発目的はトマト栽培施設建設で、開発予定面積は65,286m<sup>2</sup>である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内（上湯江遺跡）」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を事業者に説明した。協議の結果、計画どおり事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、平成28年11月21日から平成29年1月19日、平成29年5月8日から同年6月22日まで行った。確認調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代の溝跡や土坑、ピットが検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議し、本調査を行うこととした。本調査は、平成29年7月10日から同年12月27日まで行った。なお、調査はすべて君津市教育委員会で行った。

## 2 地理的・歴史的環境（第1図）

上湯江遺跡は、君津市上湯江に所在し、JR内房線君津駅の南東約1.5km地点にある。小糸川下流域の左岸の低位段丘に位置し、標高は約11m前後である。遺跡周辺の環境は、小糸川右岸はすでに市街化が進んでいるのに対して、左岸は水田が広がり自然が多く残っている。左岸の低地・丘陵上には多くの埋蔵文化財が所在しているが、調査例は少ないため様相は明らかではない。

発掘調査がされた周辺の遺跡をみると、同じ低地遺跡であり、区画整理の計画範囲に入っていた2. 富吉遺跡、7. 釜神遺跡、8. 中富遺跡がある<sup>(1)</sup>。

富吉遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居跡（以下住居跡）34軒、溝跡36条、古墳周溝1条、奈良・平安時代の掘立柱建物跡13棟のほか、古代の畦畔、中世の土坑などが検出され、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて集落が営まれていたことが判明した。また、近年の調査成果<sup>(2)</sup>では古墳時代中期の遺物や溝跡、住居跡を確認していることから、当該期の集落が存在する可能性も考えられる。釜神遺跡は小糸川の河道跡であり、近世の溝跡、畦畔が検出された。中富遺跡は、小糸川の河道跡に囲まれているが、中富地区の中心一帯は周囲よりも若干標高が高いので、遺構が存在している可能性が十分に考えられる。南東側約2.0kmに低地遺跡の25. 常代遺跡<sup>(3)</sup>や26. 郡条里遺跡<sup>(4)</sup>がある。常代遺跡は、弥生時代から奈良時代までの複合遺跡であり、弥生時代中期の方形周溝墓群、古墳時代中・後期の集落跡、掘立柱建物群などが調査され、弥生時代中期の河川跡からは多量の木製品が出土している。郡条里遺跡では、古代条里制と関係のある溝跡や水田跡を確認している。丘陵上には縄文時代から古墳時代までの包蔵地である33. 上野台遺跡、石製模造品を伴う祭祀関連遺跡の30. 下荘台遺跡<sup>(5)</sup>があるが、報告書未刊行のため詳細は不明である。古墳については、古墳時代後期の群集墳であるC. 元秋葉台古墳群<sup>(6)</sup>や、古墳時代終末の墓制であるD. 元秋葉台横穴群<sup>(7)</sup>で一部調査が行われており、遺存状態が良好な須恵器等の遺物が出土している。三舟山の麓には、中世の39. 鎌倉街道と推定される房総往還も残されており、古代から中世まで各時期の文化財が多くみられる地域である。

註(1)『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

『富吉遺跡群確認調査報告書Ⅱ』1997 君津市教育委員会



- |           |           |              |                |            |
|-----------|-----------|--------------|----------------|------------|
| 1. 上湯江遺跡  | 2. 富吉遺跡   | 3. 八幡西遺跡     | 4. 八幡前古墳       | 5. 貞元遺跡    |
| 6. 貞元塚田古墳 | 7. 釜神遺跡   | 8. 中富遺跡      | 9. 八崎遺跡        | 10. 下湯江陣屋跡 |
| 11. 天神遺跡  | 12. 南子安古墳 | 13. 南子安子安坂古墳 | 14. 寺の前古墳      | 15. 下迫古墳   |
| 16. 下道古墳  | 17. 馬門古墳  | 18. 子安陣屋跡    | 19. 垣田遺跡       | 20. 花輪堂古墳  |
| 21. 八幡東遺跡 | 22. 杉師古墳  | 23. 八幡神社古墳   | 24. 外箕輪遺跡      | 25. 常代遺跡   |
| 26. 郡条里遺跡 | 27. 八幡権現塚 | 28. 郡西遺跡     | 29. 元秋葉台遺跡     | 30. 下莊台遺跡  |
| 31. 下莊台古墳 | 32. 中莊台古墳 | 33. 上野台遺跡    | 34. 上湯江上野台古墳   | 35. 法木作遺跡  |
| 36. 法木作古墳 | 37. 陣所古墳  | 38. 三船台遺跡    | 39. 鎌倉街道(房総往還) | 40. 下三船古墳  |
| 41. 春日神社塚 | 42. 浅間塚   | C. 元秋葉台古墳群   | D. 元秋葉台横穴群     |            |
| A. 三船台古墳群 |           |              |                |            |
| B. 上野古墳群  |           |              |                |            |

※番号に○印のあるものは、すでに消滅

第1図 周辺の遺跡 (1 : 25,000)

『富吉遺跡群確認調査報告書III』1998 君津市教育委員会

(2) 『富吉遺跡II』2017 君津市教育委員会

『富吉遺跡V』2019 君津市教育委員会

『平成30年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2019 君津市教育委員会

(3) 『常代遺跡群確認調査報告書』1989 君津市教育委員会

『常代遺跡群』1996 財団法人君津郡市文化財センター

『常代遺跡II』1998 財団法人君津郡市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書－君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、

小山野遺跡－』2004 財団法人千葉県文化財センター

(4)『郡条里遺跡確認調査報告書』1988 君津市教育委員会

『郡条里遺跡発掘調査報告書』1990 君津市教育委員会

『郡条里遺跡II』1992 財団法人君津郡市文化財センター

『郡条里遺跡III』1994 財団法人君津郡市文化財センター

『国道127号 埋蔵文化財調査報告書－君津市常代遺跡六反免地区、郡条里遺跡、郡遺跡(2)、郡遺跡(3)、

小山野遺跡－』2004 財団法人千葉県文化財センター

(5)『千葉県君津郡君津町誌 後編』1973

(6)『元秋葉台32号墳発掘調査報告書』1977 君津市教育委員会、貞元・新御堂遺跡発掘調査会

(7)『平成6年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1995 君津市教育委員会

#### 参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図(4)－君津・夷隅・安房地区(改訂版)－』2000 千葉県教育委員会

### 3 遺跡の概要(第2図)

上湯江遺跡は、古墳時代等遺物包蔵地として周知の遺跡であり、君津市貞元土地区画整理組合による区画整理計画に伴い、平成6・7年度に確認調査<sup>(1)</sup>を実施している。平成6年度には遺跡北側の3か所、平成7年度には遺跡中央部の4か所の計7か所でトレンチを設定して調査した。平成6年度調査部分では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡を3棟以上確認し、8世紀代の土器が出土している。また、上湯江字市場において1964年の団地造成の際に採集された遺物の紹介をしており、該当資料も同様の時期を示すことから、古代の集落の存在を示唆している。このほか、中世の井戸跡と溝跡が検出され、出土陶磁器のなかにも12世紀末から13世紀前葉の龍泉窯系の輪花碗、初期かわらけがあり、鎌倉とのつながりのある在地領主層の屋敷跡があったとも考えられている。平成7年度調査部分では、沼沢地の様相を示し遺構は確認できなかった。平成23年度<sup>(2)</sup>には個人住宅建設に伴い確認・本調査を実施し、古墳時代後期から奈良・平安時代の溝跡、ピット、土坑を確認した。狭い調査面積であるが多量の土器が出土しており、なかには湖西窯産の須恵器壺もみられ集落の展開を検討する上で重要な成果となった。また、平成26年度<sup>(3)</sup>にも個人住宅建設に伴う確認・本調査を実施し、古墳時代後期の住居跡や溝跡、土坑、ピットを多数検出した。そのなかには、古墳の周溝と考えられる弧状の溝跡も見られた。従来、上湯江地区の低地部分には墳丘を有する古墳はないと言われていたが、調査によって、墳丘を失った古墳の周溝と同時期の住居を検出したことで、古墳時代後期の集落の存在を考える新たな成果が得られた。

また、上湯江は地名から周淮郡の「湯坐郷」の地と推定されている。



第2図 上湯江遺跡調査区位置図 (1:2,500)

註 (1)『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

(2)『平成 23 年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2012 君津市教育委員会

(3)『平成 26 年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2015 君津市教育委員会

#### 4 調査の方法（第3・5図）

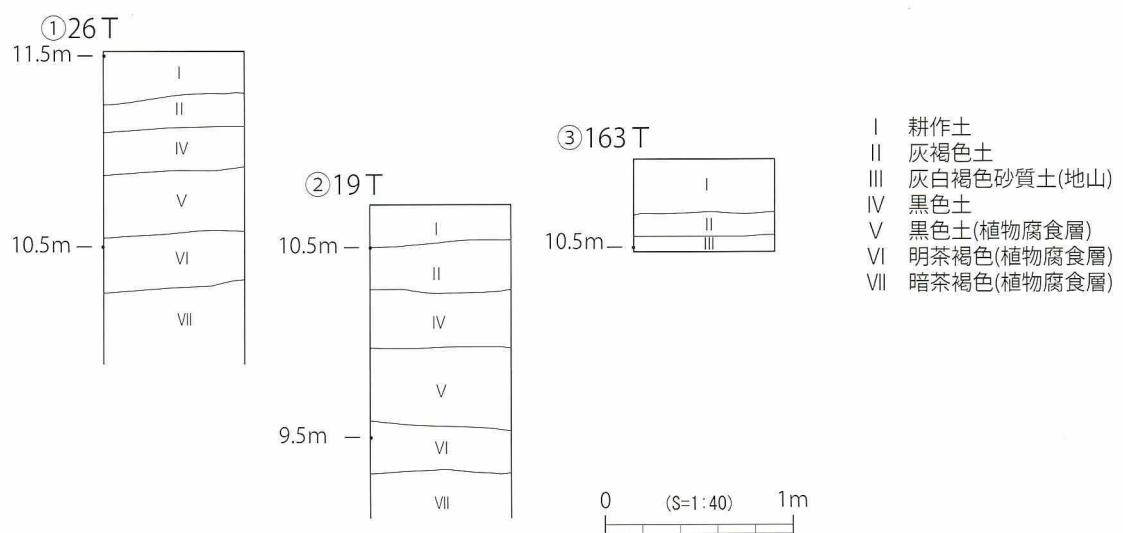
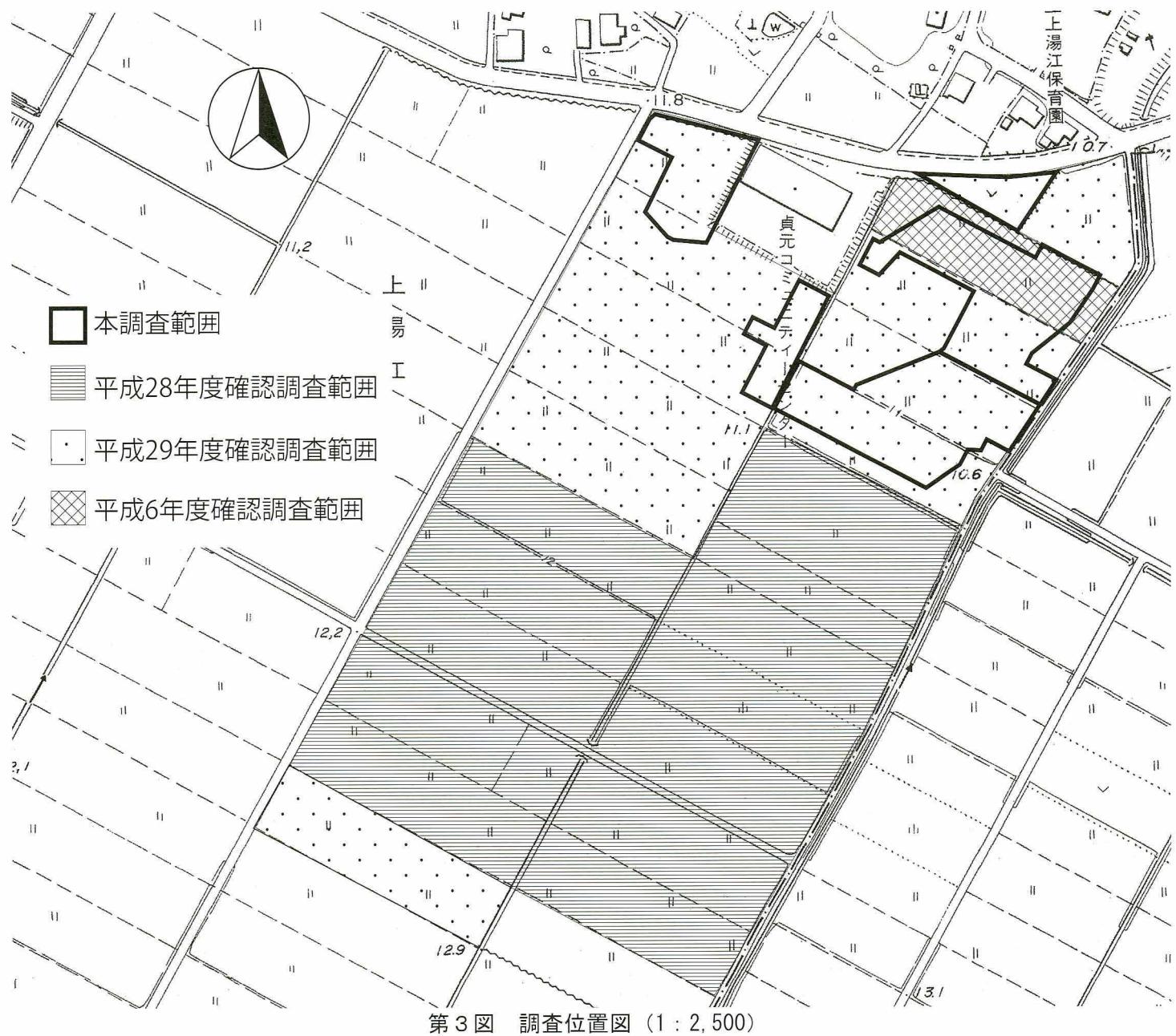
確認調査は対象地内における遺構の分布と種別を把握するため、対象地 65,286 m<sup>2</sup>に 2 × 5 m のトレーナーを 223 本設定した。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準点測量及び現況測量は専門業者が行った。写真撮影はデジタルカメラを使用した。

確認調査は、平成 28・29 年に実施した。平成 28 年度調査は 1,230/40,748 m<sup>2</sup>、平成 29 年度調査は 997/27,763 m<sup>2</sup>を確認した。遺構確認面までの表土を重機で除去した後、鋤簾を用いて人力により遺構検出作業を行った。現地表面から確認面（Ⅲ層上面）までは 0.25 ~ 1.34 m である。確認調査の結果、古墳時代溝跡 6 条・土坑 4 基、奈良・平安時代溝跡 16 条・土坑 4 基・ピット 9 基が検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで協議し、本調査を実施することとなった。

本調査範囲を決定するにあたり、平成 28・29 年度確認調査 (68,511 m<sup>2</sup>) と平成 6 年度確認調査 (2,756 m<sup>2</sup>) の成果を踏まえ、本調査範囲 (8,980 m<sup>2</sup>) を決定した。本調査範囲は地形や現況から I ~ V 区に分け、番号順に調査を実施した。遺構確認面までの表土は重機により除去し、本調査範囲の遺構検出作業、覆土掘り下げは人力で行った。公共座標に基づく基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて実測作業を行った。出土した遺物は遺構ごとに取り上げた。遺構の平面図は基準杭を用いて平板測量を行った。Ⅲ・Ⅳ 区調査中の平成 29 年 10 月は台風等の影響で雨量が多く、調査区が冠水することが何度かあったが、水中ポンプで汲み上げを実施した。調査終了後は重機により排土を埋め戻して現状復帰し、現地作業を終了した。

#### 5 基本土層（第4・5図）

現況は、水田及び畑であり、南北が高く中心に向かってゆるやかに下がる地形である。基本土層は調査区南側の①・②、北側の③で記録した。地山層はⅢ層の灰白褐色砂質土で、③で確認し、南側では確認されなかった。地山層は、現地表から深さ 5 ~ 134 cm で検出する。調査区北東側では現表下から深さ 5 ~ 10 cm と浅く、これは、調査実施前まで耕作をしており、上面は削平を受けていたと考えられる。地山層が確認できたのは本調査範囲である調査区の北側のみで、それより南側では確認面（Ⅲ層）が検出されず、植物腐食層が厚く堆積し、その下面から青灰色砂質土を検出した。南側では、地盤が弱かったため、水田耕作時に沈まないように、多量の砂や木片を入れてある箇所があり、昔から地盤が脆弱であったことが分かる。また、調査区全体で湧水が激しく、特に確認面が検出されなかったトレーナーでは常に水が溜まっており、沼地のような状況であったことが想定される。



第4図 基本土層

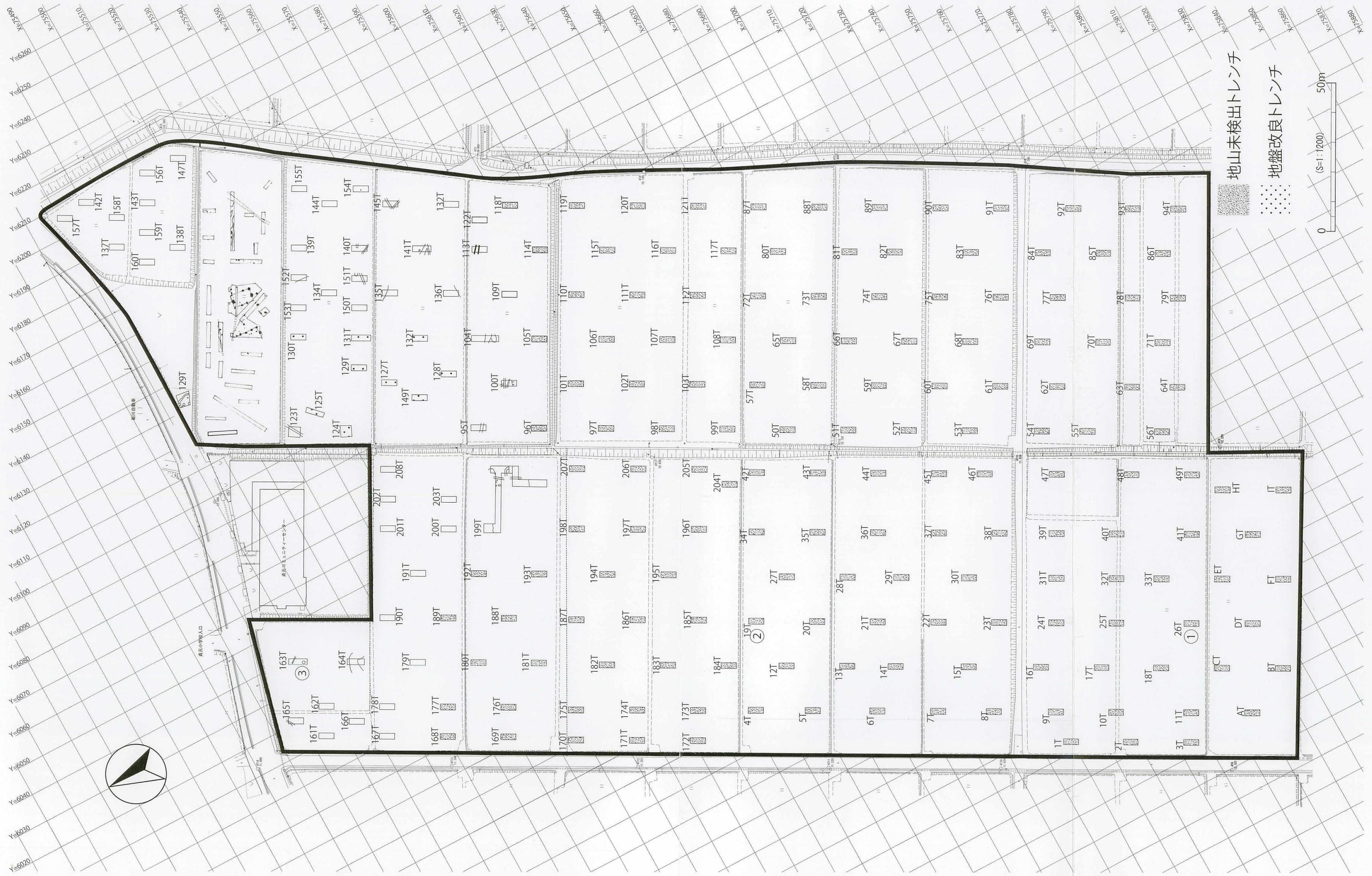


図5 確認調査トレシチ配置



## 第2章 調査成果

### 1 検出遺構（第6図）

今回の調査では、本調査範囲を地形や現況から5区画に分け、調査を実施した。調査成果も各区画ごとに報告する。検出した遺構は、古墳時代堅穴住居跡1軒・溝跡10条・土坑11基・ピット6基、奈良・平安時代堅穴住居跡6軒・掘立柱建物跡6棟・溝跡24条・土坑50基・井戸3基・ピット136基・性格不明遺構1基、中世井戸1基、近世溝跡1条・井戸1基・墓跡1基・性格不明遺構1基である。

### 2 I区（第7図～第10図）

#### 溝跡

SD-001（第7・10図）

重複関係 (新)SD-002・003、SE-002 → (旧)SD-001

規模・形態・構造 幅1.0～1.3m、深さ0.4m、検出部分の長さは12.2m。直角に曲がる溝で、断面形はU字状である。

遺物 土師器片が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-002（第7・10図）

重複関係 (新)SD-002・003 → (旧)SD-001

規模・形態・構造 幅0.4～0.6m、深さ0.4m、検出部分の長さは9.2m。北東～南西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 なし

SD-003（第7・10図）

重複関係 (新)SD-002・003 → (旧)SD-001

規模・形態・構造 幅0.4～0.6m、深さ0.2m、検出部分の長さは9.2m。北東～南西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 なし

SD-004（第7・10図）

重複関係 (新)SE-001 → (旧)SD-004

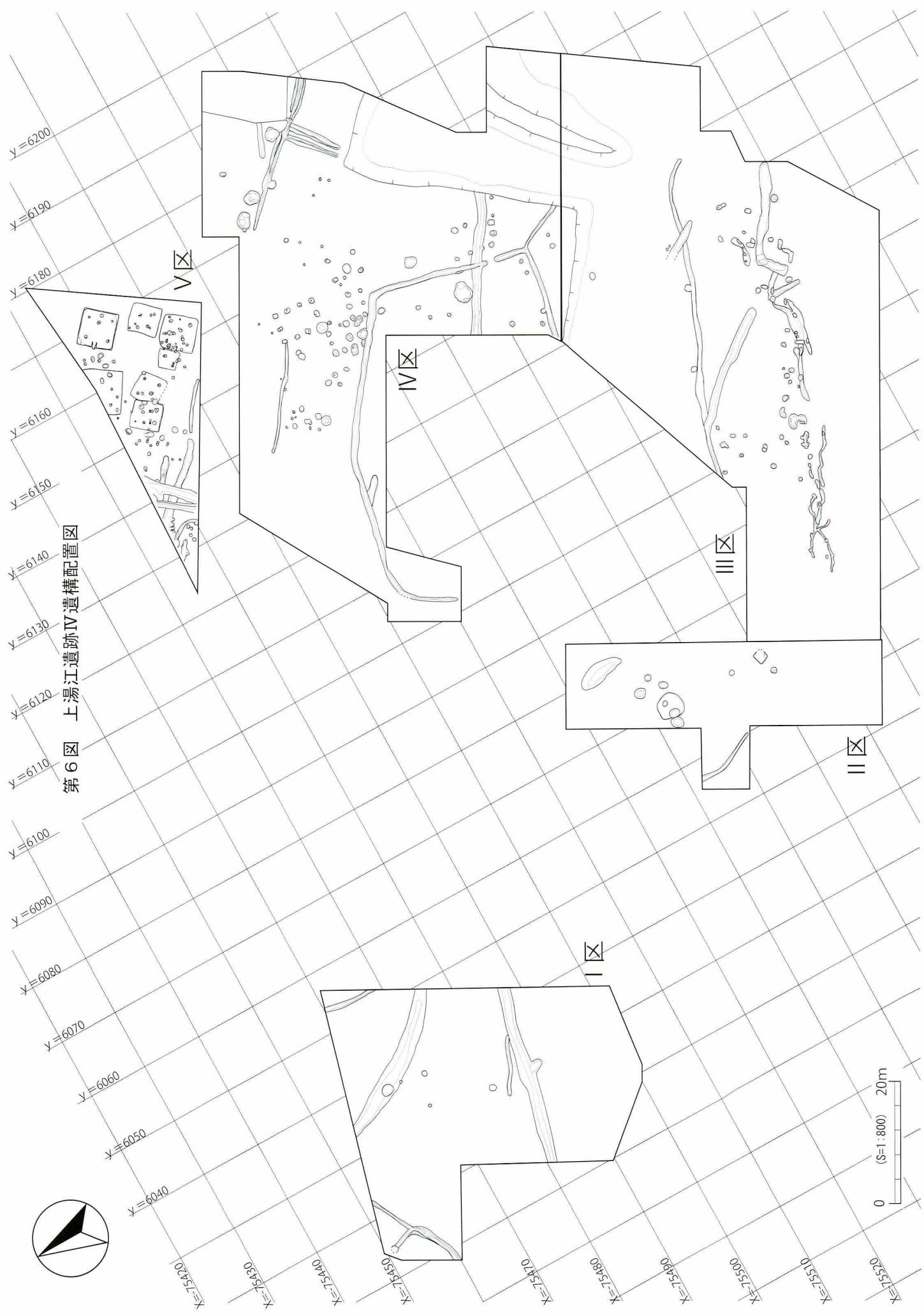
規模・形態・構造 幅3.2m、深さ0.2m、検出部分の長さは24.5m。北西～南東方向に蛇行した溝で、断面形は皿状である。

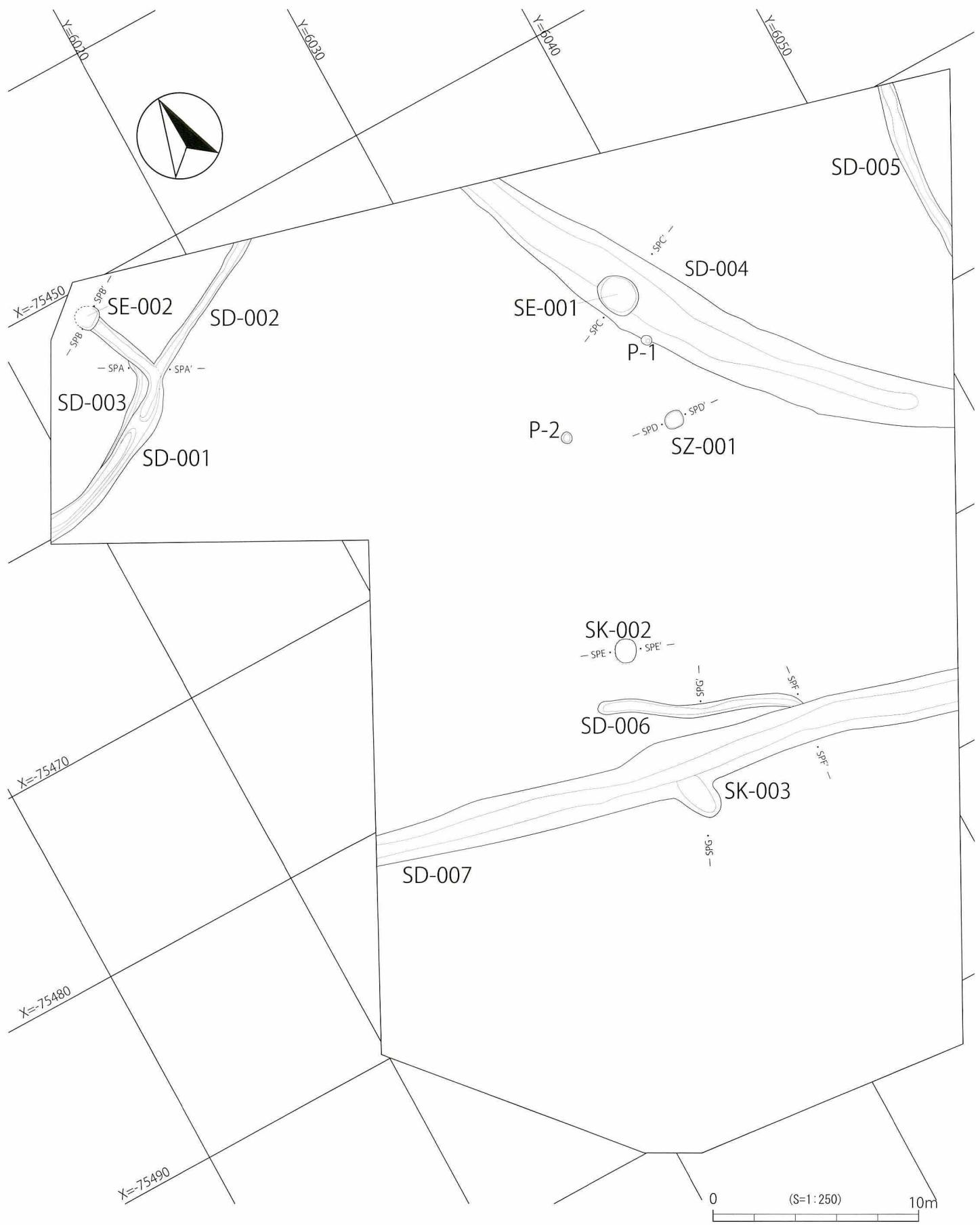
遺物 なし

SD-005（第7・10図）

重複関係 なし

第6図 上湯江遺跡IV遺構配置図





第7図 I区遺構配置図

規模・形態・構造 幅 0.8 m、深さ 0.2 m、検出部分の長さは 7 m。南北方向に走る溝で、断面形は皿状である。

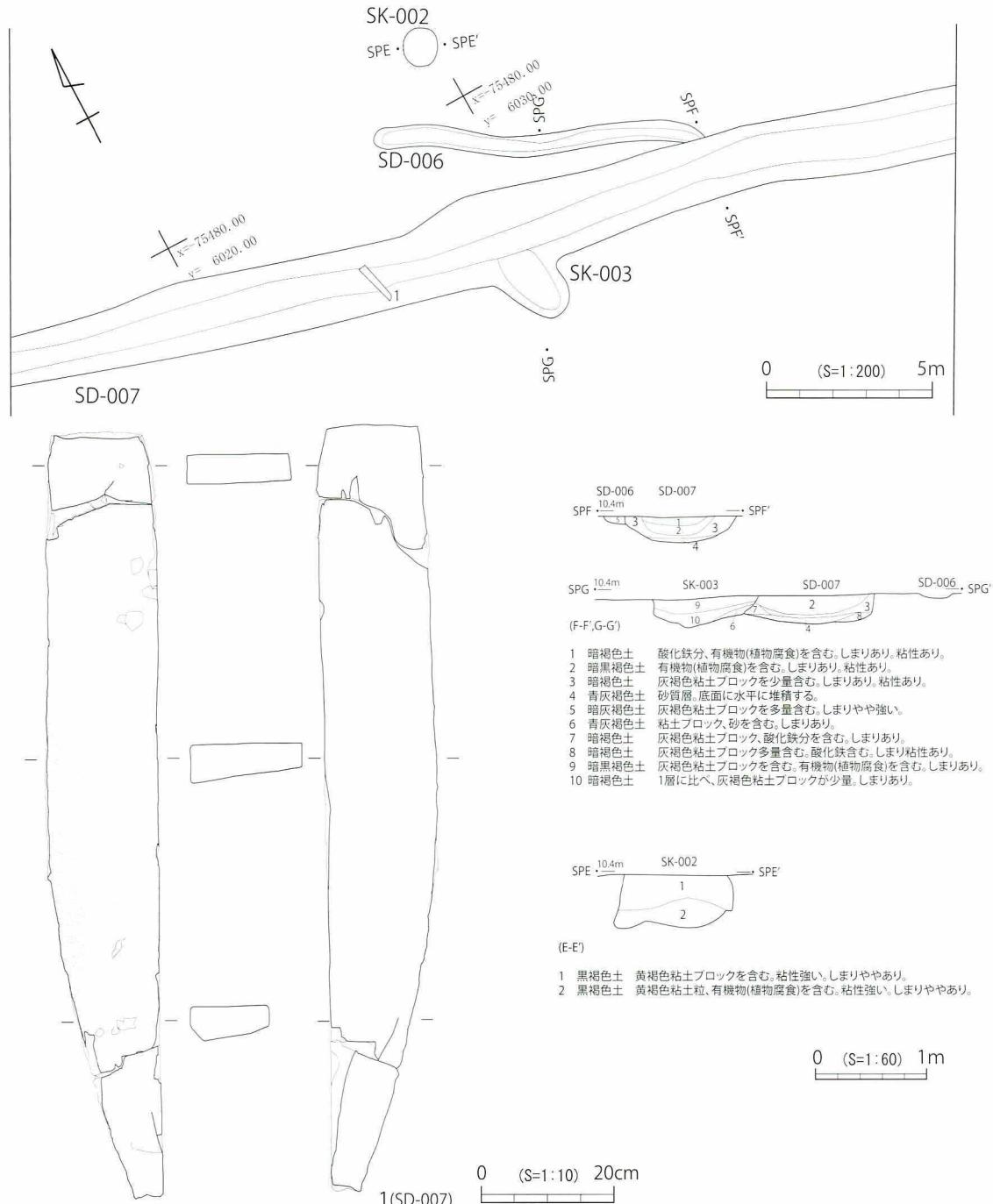
遺物 なし

SD-006(第7・8図)

重複関係 (新)SD-007 → (旧)SD-006

規模・形態・構造 幅 0.8 m、深さ 0.2 m、検出部分の長さは 9.5 m。北西—南東方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 なし



第8図 SD-006・007、SK-002・003 実測図

## SD-007(第8図)

重複関係 (新)SK-003 → SD-007 → (旧)SD-006

規模・形態・構造 幅2.3m、深さ0.5m、検出部分の長さは29.0m。西一東方向に走行する溝で、断面形は、逆台形状である。南東方向のIV区で同一幅の溝を確認しており、同一遺構とした。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。加工痕のある板状木製品が出土した。

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	板状木製品		長さ116.2cm 最大幅17.3cm 最大厚5.8cm	表面全面に工具痕があり、平滑にしている。文字や掘り込みは確認できない。下部と中央部が炭化している。		

表1 SD-007 出土遺物観察表

## 土坑

### SK-002(第8図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径1.8m、深さ1.0m。平面形は円形である。若干であるが両側に抉り込みがある。

遺物 なし

## 座棺

### SZ-001(第9図)

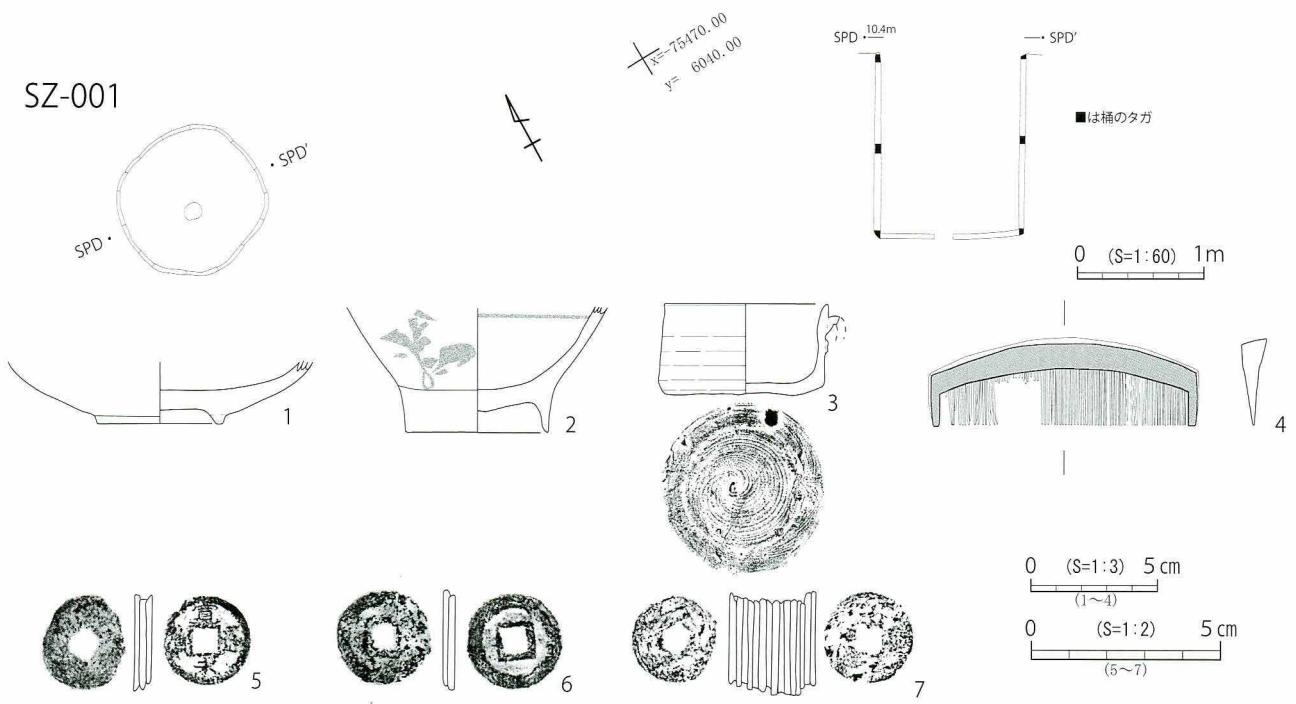
重複関係 なし

規模・形態・構造 直径1.2m、深さ1.4m。平面形は円形である。棺は、厚さ3.0cmの板を16枚組み合わせて作られている。底面には水抜きの穴が開いており、検出した際には水抜きの穴に木材で栓が閉められていた。

遺物 18世紀後半から19世紀の陶磁器、古銭、櫛が出土した。図化はしなかつたが、遺構覆土から縦5.5cm、横20.5cm、高さ6.5cm、重量634.05gの礫が出土した。また、古銭の孔に通してあつた麻紐が残っており、遺存長は33.5cmである。

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	皿(磁器)	体部～底部 1/6	底径 5.0cm 現存高 2.4cm	染付。		細かい。黒色粒
2	碗(磁器)	体部～底部 1/6	底径 5.6cm 現存高 4.9cm	染付。広東碗。草花文。		細かい。黒色粒
3	餌猪口	把手のみ破損	口径 6.5cm 底径 6.7cm 器高 3.5cm	内面、外面体部に灰釉が施釉。右回転糸切り。		粗い。石英粒
4	櫛(木製)	一部欠損	横幅 10.9cm 高さ 3.5cm 最大厚 1.0cm	外面は黒色。装飾は確認できない。		
5	古銭	完形	直径 2.2cm 重量 9.34g	1点は寛永通寶。その他2点は不明。劣化が激しく、3枚が錆着している。		
6	古銭	完形	直径 2.5cm 重量 6.34g	不明。劣化が激しく、2枚が錆着している。		
7	古銭	完形	直径 2.3cm 重量 47.36g	不明。劣化が激しく、15枚が錆着している。		

表2 SZ-001 出土遺物観察表



第9図 SZ-001 実測図

## 井戸

SE-001(第7・10図)

重複関係 (新)SE-001 → (旧)SD-004

規模・形態・構造 直径 1.6 m、深さは 0.8 mまで掘削し、調査した。現表面から 30 cm掘り下げた高さから激しく湧水があり、完掘はできなかった。平面形は円形である。

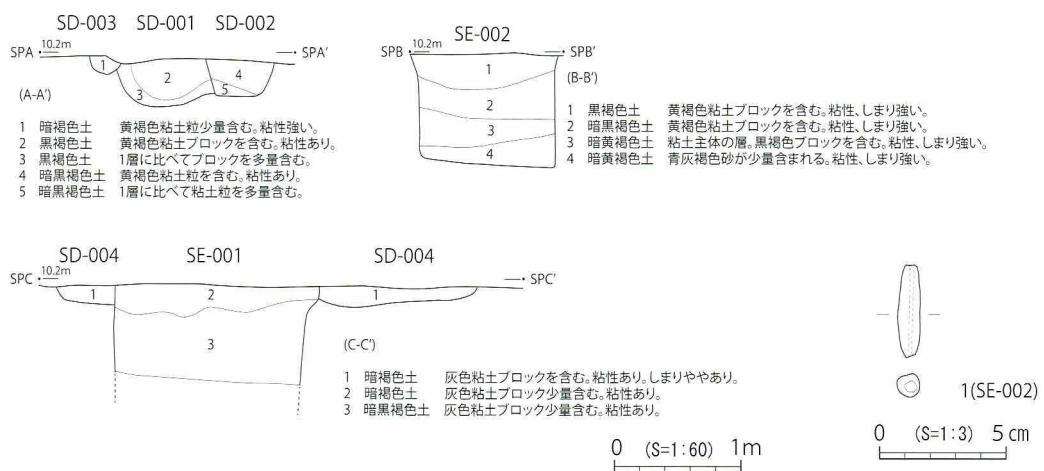
遺物 なし

SE-002 (旧) SK-001(第7・10図)

重複関係 (新)SE-002 → (旧)SD-001

規模・形態・構造 直径 1.2 m、深さ 0.9 m。現地表面から 40 cm掘り下げた高さから湧水がある。

遺物 土錐が出土した。



第10図 セクション図及び出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調	胎土
1	土錐	完形	最大幅 0.9 cm 長さ 3.5 cm 孔径 0.2 cm		にぶい黄褐色	黒色粒

表3 SE-002 出土遺物観察表

## ピット

遺構	重複	規模・形態・構造	出土遺物
P-1	なし	直径 0.5 m、深さ 0.1 m。平面形は円形で柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

表4 I 区ピット観察表

## 3 II 区 (第 11 図～第 15 図)

### 溝跡

SD-008 (第 11・14・15 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅 0.5 m、深さ 0.2 m、検出部分の長さは 10.5 m。北-南東方向に走行する溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 弥生土器、土師器が出土した。弥生土器は SD-008 の覆土から出土したが、1 点のみしか確認できず、出土遺物の多くは土師器であったため、遺構の時期を示すものではないと考えられる。

### 土坑

SK-004 (第 11 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 1.1 m、深さ 0.6 m。平面形は円形である。両壁はゆるやかに立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 なし

SK-006 (第 11・15 図)

重複関係 (新)SX-002 → (旧)SK-006

規模・形態・構造 長軸 1.7 m、短軸 1.4 m、深さ 0.3 m。平面形は橢円形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

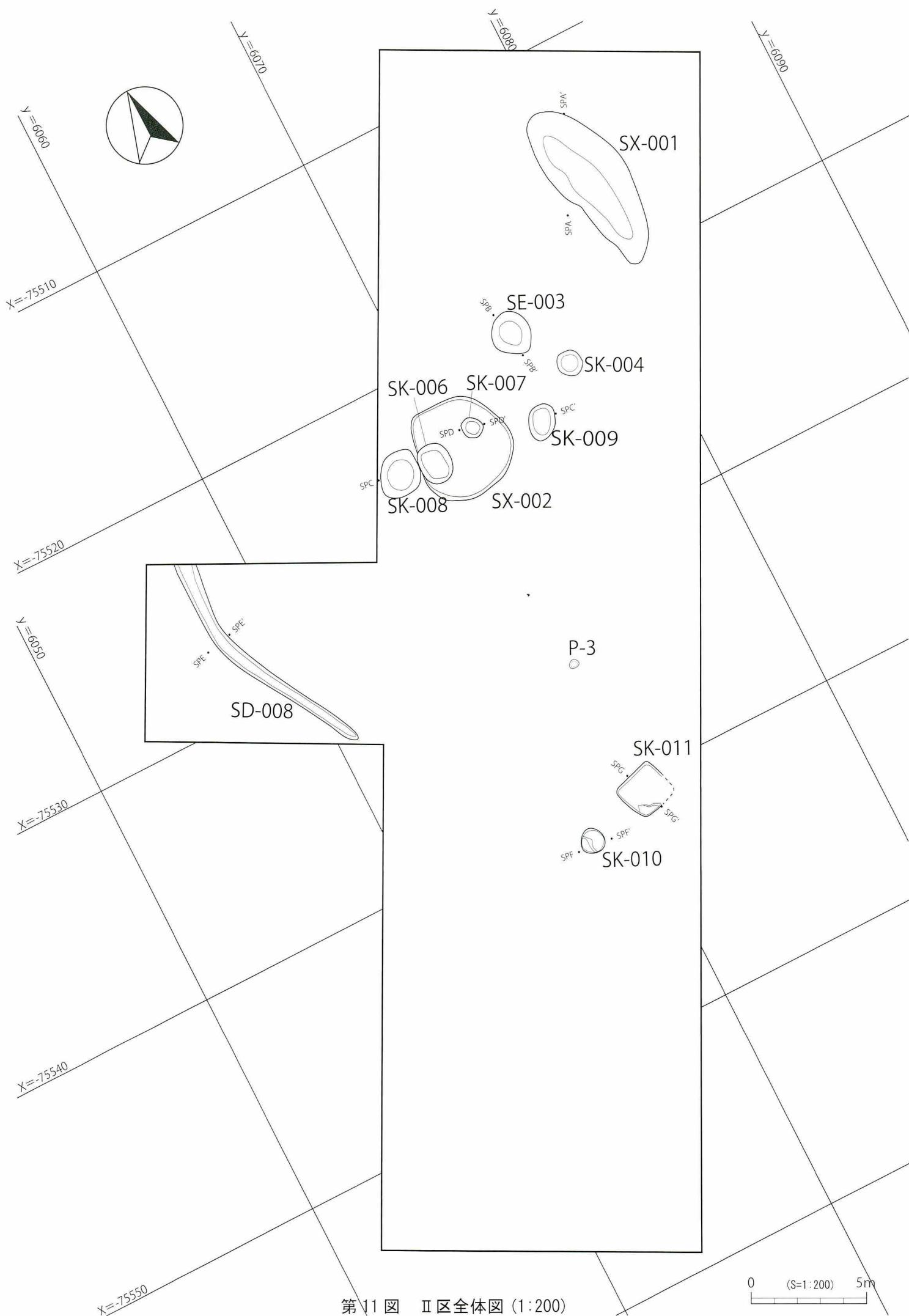
遺物 なし

SK-007 (第 11・15 図)

重複関係 (新)SX-002 → (旧)SK-007

規模・形態・構造 直径 0.9 m、深さ 0.6 m。平面形は円形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 なし



第11図 II区全体図 (1:200)

SK-008(第11・14・15図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸2.05m、短軸1.7m、深さ0.7m。平面形は橢円形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器、桃の種子が出土した。

SK-009(第11・15図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径1.5m、深さ0.3m。平面形は橢円形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 なし

SK-010(第11・15図)

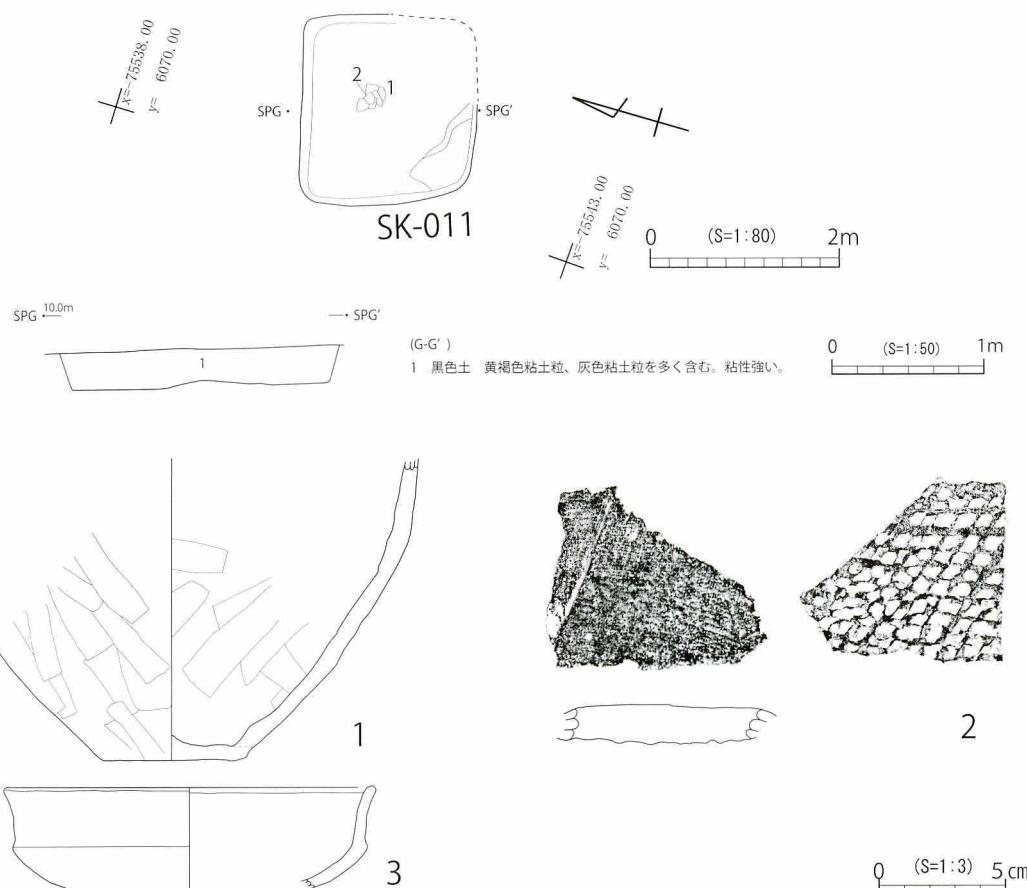
重複関係 なし

規模・形態・構造 直径1.05m、深さ0.3m。平面形は円形である。断面形は西側にテラスをもち、底面は平坦である。

遺物 なし

SK-011(第12図)

重複関係 なし



第12図 SK-011 実測図

**規模・形態・構造** 長軸 2.0 m、短軸 1.8 m、深さ 0.23 m。平面形は方形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、南西側にテラスをもち、底面は平坦である。南東コーナーの壁は後世の攪乱のため検出できなかつた。

**遺物** 土師器、瓦が出土した。中央の底面直上から 1 甕が、その下方から 2 瓦が出土した。

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕（土師器）	胴部～底部 2/3	底径 6.0 cm 現存高 12.2 cm	板状粘土に粘土紐積上げで成形。内外面ともにケズリで、外面は下方向に調整を行う。	浅黄色 良好	白色粒・小石・石英
2	平瓦		最大厚 1.5 cm	凹面布目痕、凸面格子状叩き痕	灰色 良好	白色粒・小石
3	壺（土師器）	口縁部 1/5	口径 14.8 cm 現存高 4.1 cm	内外面ともに摩耗激しく調整不明。	浅黄色 良好	細かい。赤色粒・白色粒

表 5 SK-011 出土遺物観察表

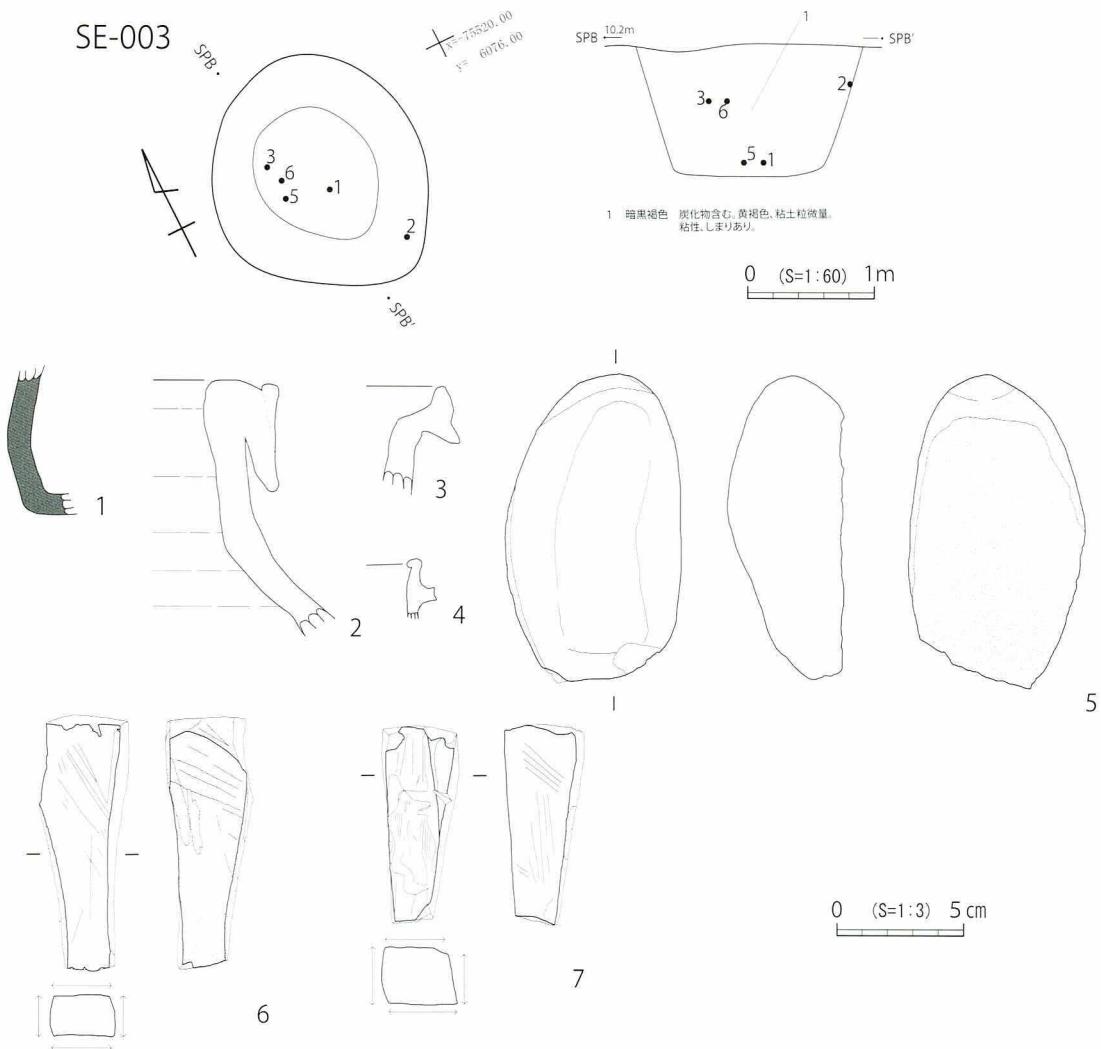
## 井戸

SE-003（旧）SK-005（第 13 図）

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 直径 1.7 m、深さ 0.64 m。平面形は円形である。現表面から 20 cm 堀り下げる高さから湧水する。

**遺物** 須恵器、中世陶器、砥石、礫が出土した。砥石、礫は被熱している。



第 13 図 SE-003 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(須恵器)	頸部片	現存高 5.3 cm	ロクロ成形。内外面ともに自然釉付着。	灰色 良好	白色粒・石英・黒色粒
2	大甕(陶器)	口縁部～頸部	現存高 10.3 cm	常滑。ロクロ成形。外面に緑釉、内面に鉄釉を施す。	灰白色 良好	白色粒・小石・砂
3	甕(陶器)	口縁部片	現存高 4.4 cm	内外面ともに鉄釉。内面上部に緑釉。	暗赤褐色 良好	小石・石英粒
4	羽釜(陶器)	口縁部片	現存高 2.4 cm	口唇部に指ナデの痕跡あり。一部ススが付着。	浅黄色 良好	白色粒・小石・石英
5	礫	下面欠損	最大長 12.0 cm 最大幅 7.2 cm 最大厚 4.7 cm 重量 619.2g	上面に摩耗痕あり。下面欠損後、側面と下面にススが付着している。		
6	砥石	完形	最大長 9.9 cm 最大幅 2.7 cm 最大厚 3.1 cm 重量 146.54g	4面に砥石面をもつ。5面にススが付着。被熱している。安山岩。		
7	砥石	完形	最大長 7.6 cm 最大幅 2.8 cm 最大厚 2.8 cm 重量 86.89g	4面に砥石面をもつ。2面にススが付着。安山岩。		

表6 SE-003出土遺物観察表

## 性格不明遺構

SX-001(第11・14・15図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 7.9 m、短軸 2.9 m、深さ 0.35 cm。平面形は不整な橢円形で、断面形は皿状である。覆土に植物腐食土が含まれており、出土遺物の多くは中近世の陶磁器であることから中世以降の遺構と考える。現表面から 20 cm 堀り下げた高さから湧水する。

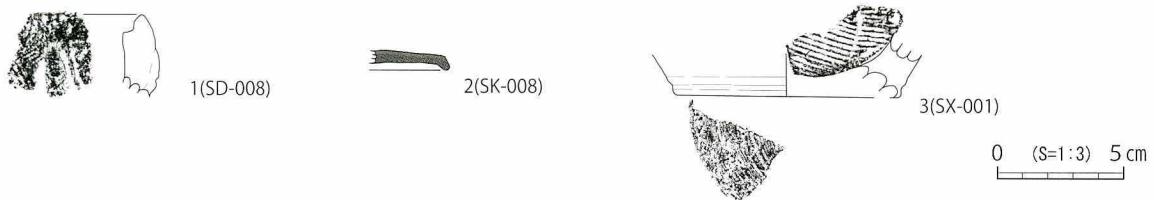
遺物 土師器、中近世の陶磁器が出土した。

SX-002(第11・15図)

重複関係 (新)SX-002 → (旧)SK-006・007

規模・形態・構造 長軸 1.6 m、短軸 1.4 m、深さ 0.2 m。平面形は不整な方形である。掘り込みは浅く、西壁はほぼ垂直に立ち上がり、東壁はゆるやかに立ち上がる。底面は平坦である。

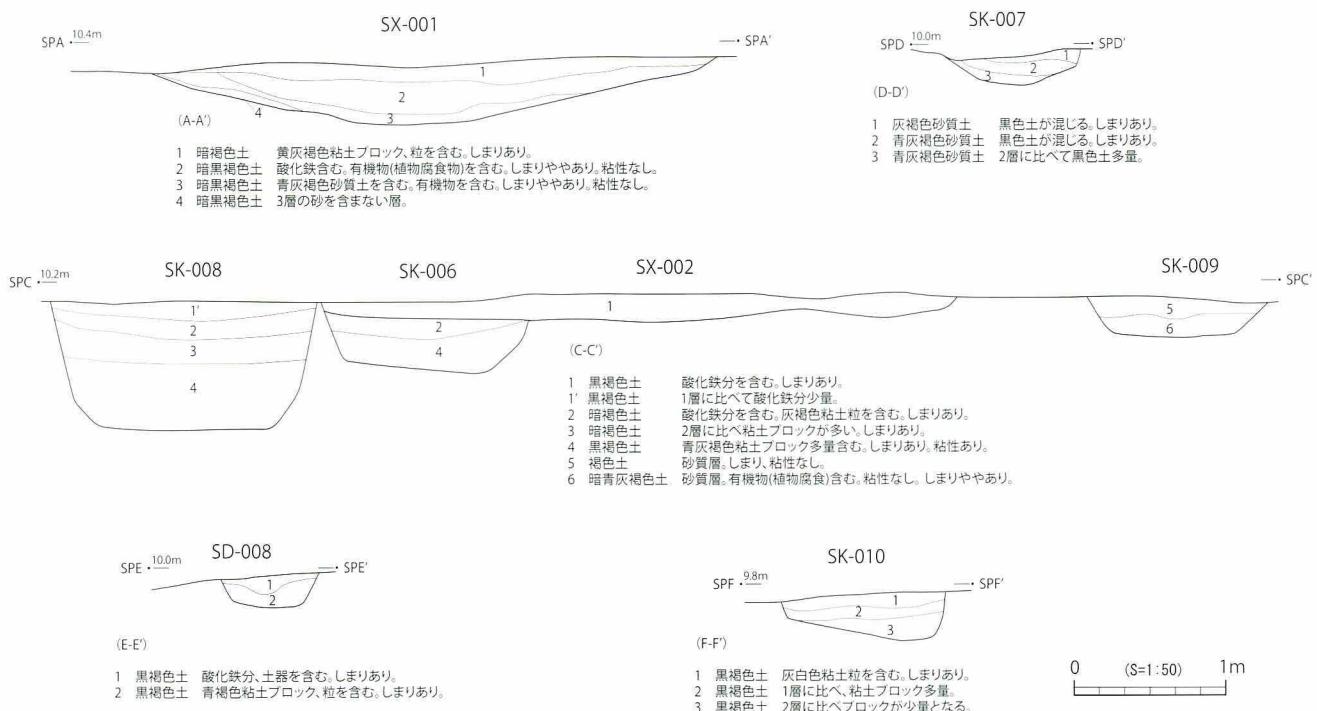
遺物 土師器片が出土した。小片のため図示し得るものはない。



第14図 II区出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(弥生土器) SD-008	口縁部片	残存高 3.4 cm	棒状浮文をもつ。縄文を施した後、沈線、その後、装飾を施す。	浅黄色 良好	石英粒・石勝粒・黒色粒
2	蓋(須恵器) SK-008	口縁部片	器高 0.6 cm	ロクロ成形。外面に自然釉が付着。	灰色 良好	細かい。白色粒・黒色粒
3	すり鉢(陶器) SX-001	底部1/8	残存高 1.7 cm 底径 8.8 cm	ロクロ成形。内外面に鉄釉を施す。底部に糸切痕。	(釉)赤黒色 (地色)灰白色 良好	赤色粒・砂粒

表7 II区出土遺物観察表



第15図 セクション図

#### 4 III区 (第16図~第21図)

##### 溝跡

SD-010 (第17図)

重複関係 (新)SD-010 → (旧)SD-012

規模・形態・構造 幅 1.3 ~ 1.6 m、深さ 0.2 ~ 0.35 m、長さ 17.2 m。南東-北西方向に走行し、直角に曲がる。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。鉄滓が 5 点出土し、総重量は 1,330.1g である。

SD-011 (第18図)

重複関係 (新)SD-011・023、P-7 → (旧)SK-020・030

規模・形態・構造 幅 1.1 ~ 0.6 m、深さ 0.18 ~ 0.25 m、長さ 16.8 m。南東-北西方向に蛇行する。

断面形はU字状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。須恵器蓋片を含むが、小片のため図示し得るものはない。

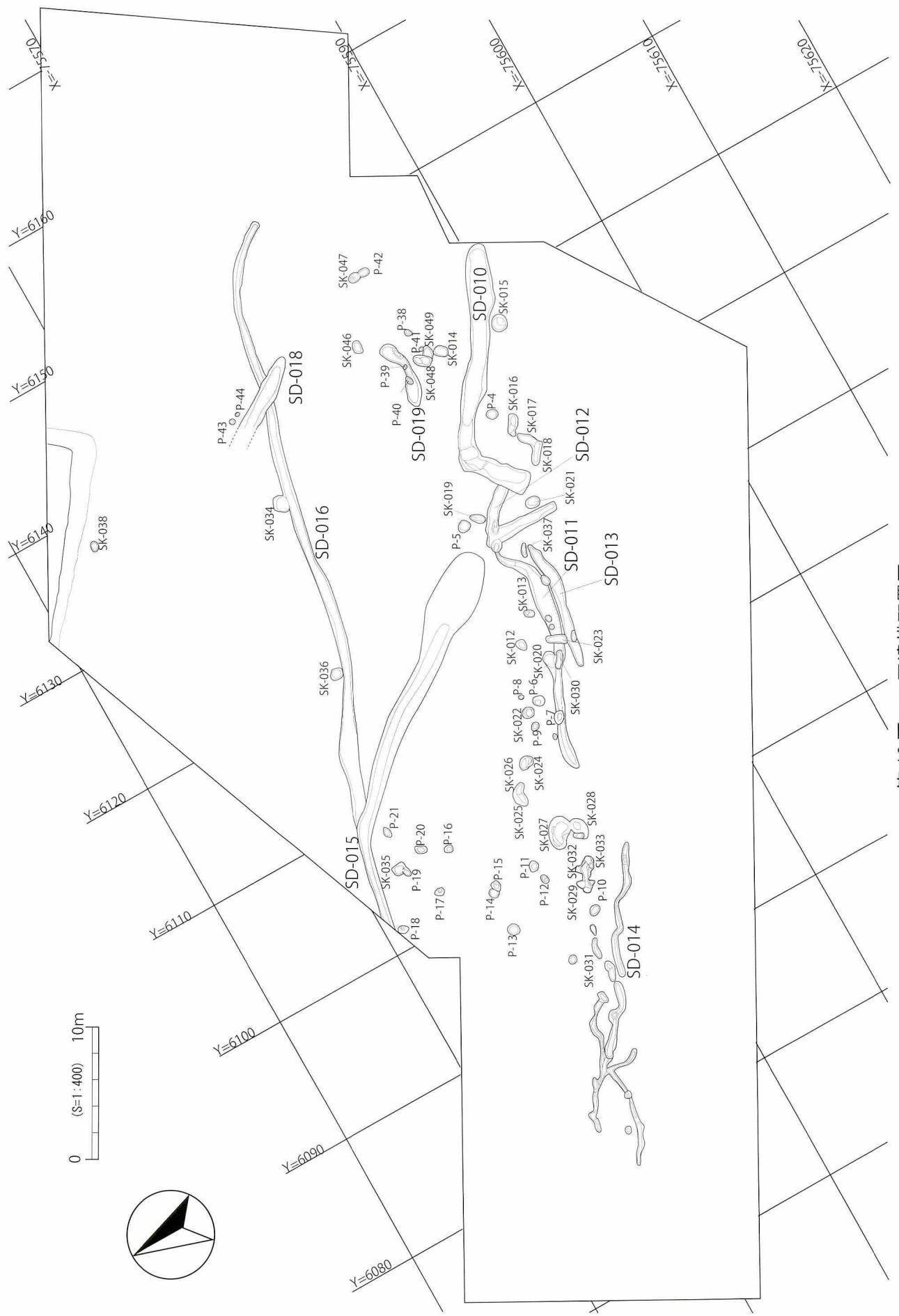
SD-012 (第18図)

重複関係 (新)SD-011・010 → (旧)SD-012

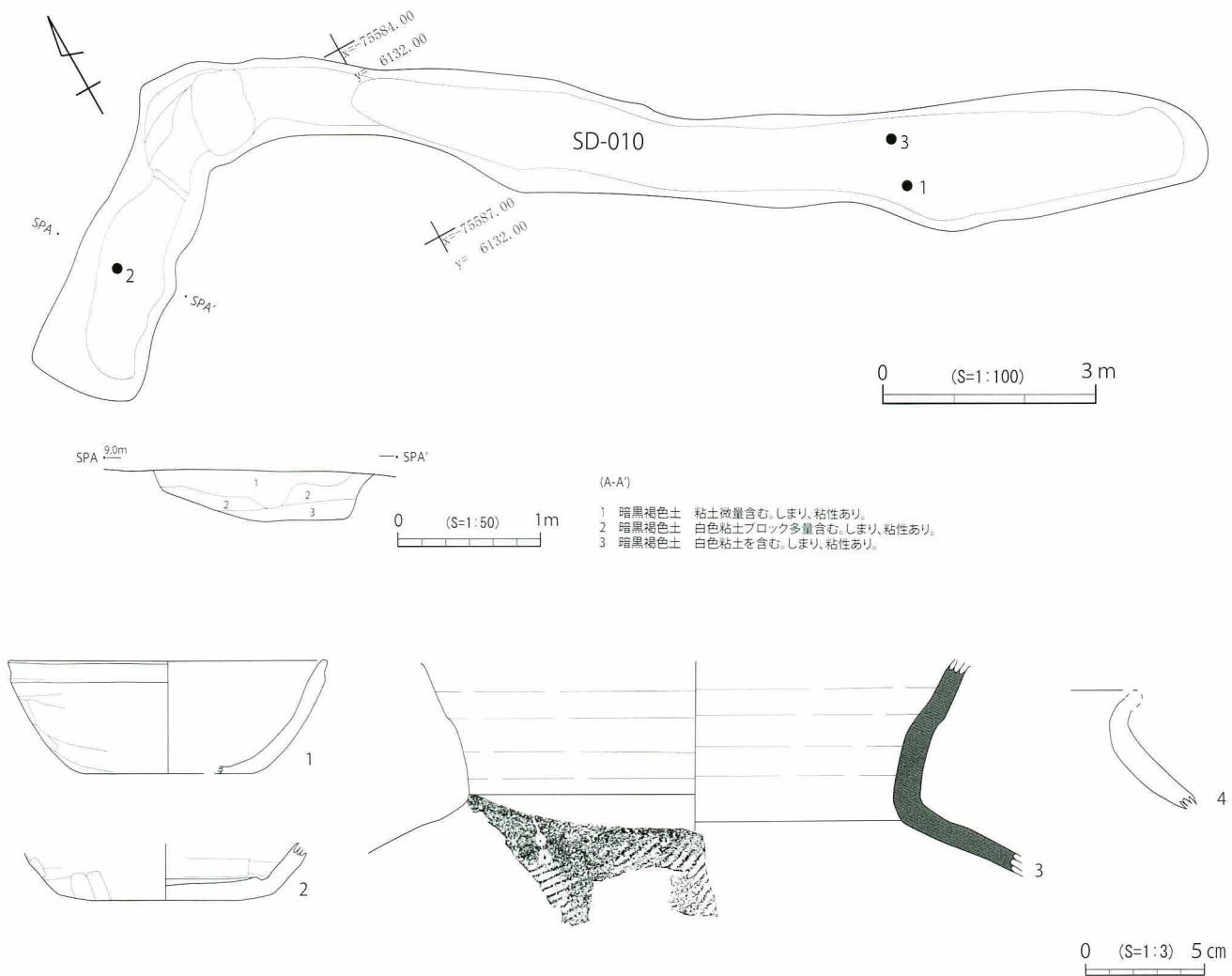
規模・形態・構造 幅 0.9 ~ 1.5 m、深さ 0.15 ~ 0.2 m、長さ 8.7 m。南-南西方向に直角に曲がる溝である。

断面形は逆台形状である。

遺物 なし



第16図 Ⅲ区遺構配置図



第17図 SD-010 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(土師器)	全体の1/6	口径 13.4 cm 底径 8.0 cm 器高 8.0 cm	外面はヘラケズリ、底部はヘラケズリ。内面は摩耗のため不明。	明赤褐色 不良	細かい。白色粒・石英粒
2	壺(土師器)	底部1/2	底径 9.0 cm 現存高 2.4 cm	外面・底部はヘラケズリ。内面は丁寧にヨコナデ。	(内) 橙色 (外) 浅黄橙色 良好	小石・白色粒・石英粒
3	甕(須恵器)	頸部1/6	現存高 9.2 cm 頸径 19.0 cm	胴部に平行タタキ。頸部に自然釉が付着。	灰色 良好	粗く白色粒・黒色粒・石英粒
4	甕(土師器)	口縁部片	現存高 4.5 cm	摩耗激しく調整不明	浅黄橙色 不良	白色粒・赤色粒

表8 SD-010 出土遺物観察表

SD-013(第18図)

重複関係 なし

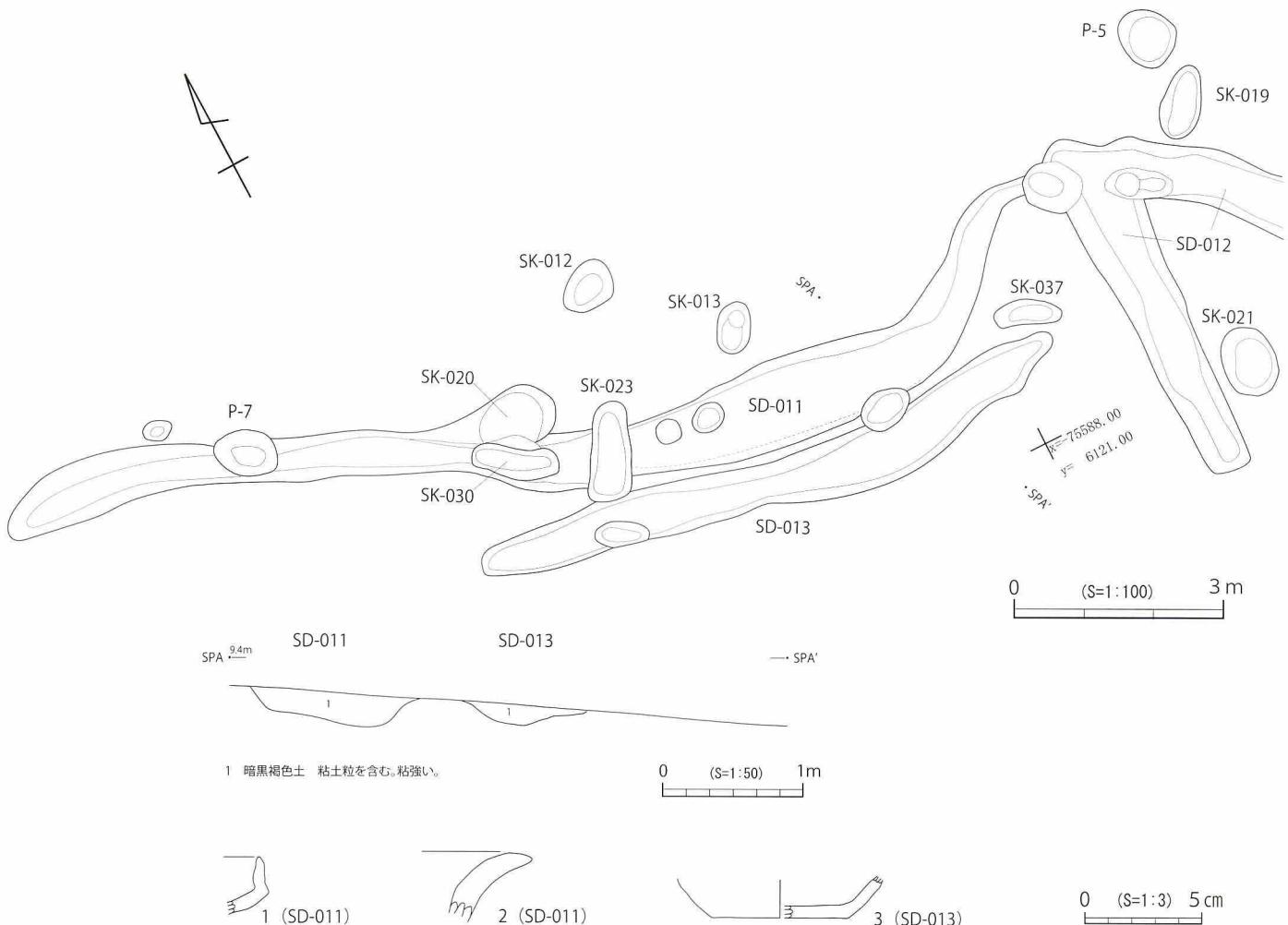
規模・形態・構造 幅0.7~1m、深さ0.12m、長さ8.9m。南東-北西方向の溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器が多数出土した。

SD-014(第16図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅1.75~2.9m、深さ0.3m、長さ7.9m。南東-北西方向に蛇行した溝で、断面形は皿状である。



第18図 SD-011～013、SK-012・013・019～021・023・030・037、P-5・7 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(土師器) SD-011	口縁部片	現存高 2.5 cm	内外面ともケズリ後、ナデ。	淡赤橙色 良好	白色粒・赤色粒
2	甕(土師器) SD-011	口縁部片	現存高 3.0 cm	摩耗激しく調整不明。	淡黄色 不良	赤色粒・砂粒
3	甕(土師器) SD-013	底部 1/5	底径 1.8 cm 現存高 6.0 cm	摩耗激しく調整不明。	にぶい黄橙色 良好	赤色粒・砂粒

表9 SD-011・013 出土遺物観察表

遺物 須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-015(第19図)

重複関係 (新)SD-015 → (旧)SD-016

規模・形態・構造 幅 0.6～1.5 m、深さ 0.18～0.23 m、検出部分の長さは 28.5 m。北西～南東方向の溝で、断面形は皿状である。

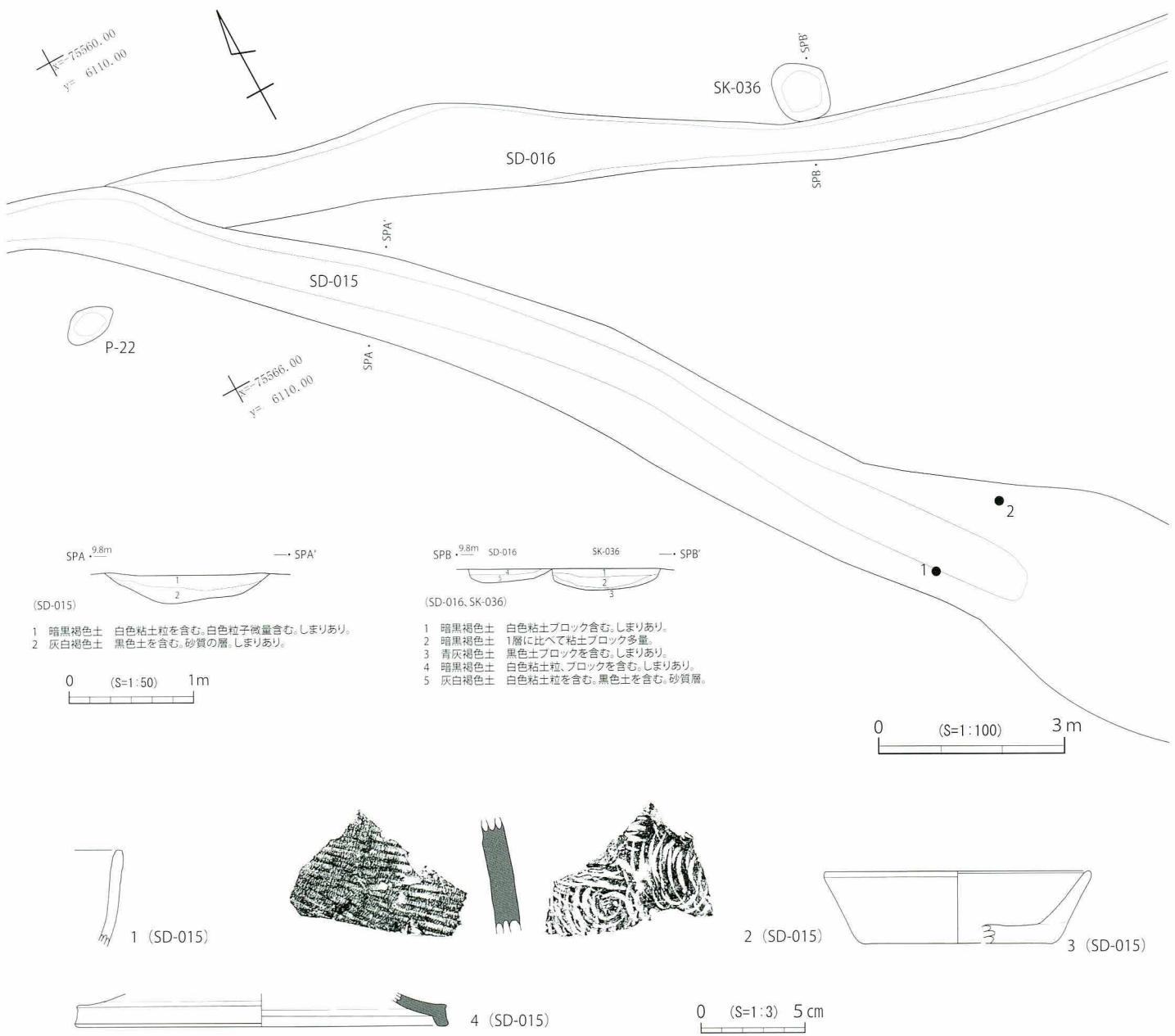
遺物 土師器、須恵器が出土した。覆土内から鉄滓が 1 点出土し、重量は 0.5g である。

SD-016(第19図)

重複関係 (新)SD-015 → (旧)SD-016

規模・形態・構造 南西～北東方向の溝で幅 0.5～1.3 m、長さ 39.9 m。断面形はおわん状である。

遺物 須恵器、土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。覆土中から獸骨が出土した。



第19図 SD-015・016、SK-036 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(土師器)	口縁部片	現存高 4.4 cm	ロクロ成形。	(上) 橙色 (下) 灰色 良好	白色粒・赤色粒
2	甕(須恵器)	胴部片	現存高 5.6 cm	外面は平行タタキ。内面はあて具痕が残る。	灰色 良好	小石・白色粒
3	壺(土師器)	口縁部～底 部1/6	口径 12.6 cm 底径 9.4 cm 器高 3.5 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	白色粒・小石
4	蓋(須恵器)	口縁部1/8	口径 18.0 cm 現存高 1.6 cm	ロクロ成形。外面ヨコナデ。	灰色 良好	白色粒

表10 SD-015出土遺物観察表

SD-018(第16図)

重複関係 (新)SD-018 → (旧)SD-016

規模・形態・構造 幅0.9m、深さ0.38m、検出部分の長さ3.8m。南-北方向の溝で、北側にも続い

ていると考えられるが、掘り込みが浅く検出できなかった。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-019(第16図)

重複関係 (新)SD-019 → (旧)P-39・40

規模・形態・構造 幅1.75～2.9m、深さ0.15m、長さ3.6m。東～西方向に蛇行する溝で、断面形は皿状である。

遺物 なし

## 土坑

SK-012(第18図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸0.9m、短軸0.6m、深さ0.3m。平面形は橢円形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。壺もしくは甕の頸部片が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SK-013(第18図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.34m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、南東側にテラスをもつ。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SK-014(第20図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.3m。平面形は方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 なし

SK-015(第20図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径0.95m、深さ0.25m。平面形は円形である。西壁は垂直に、東壁はゆるやかに立ち上がる。底面は平坦である。

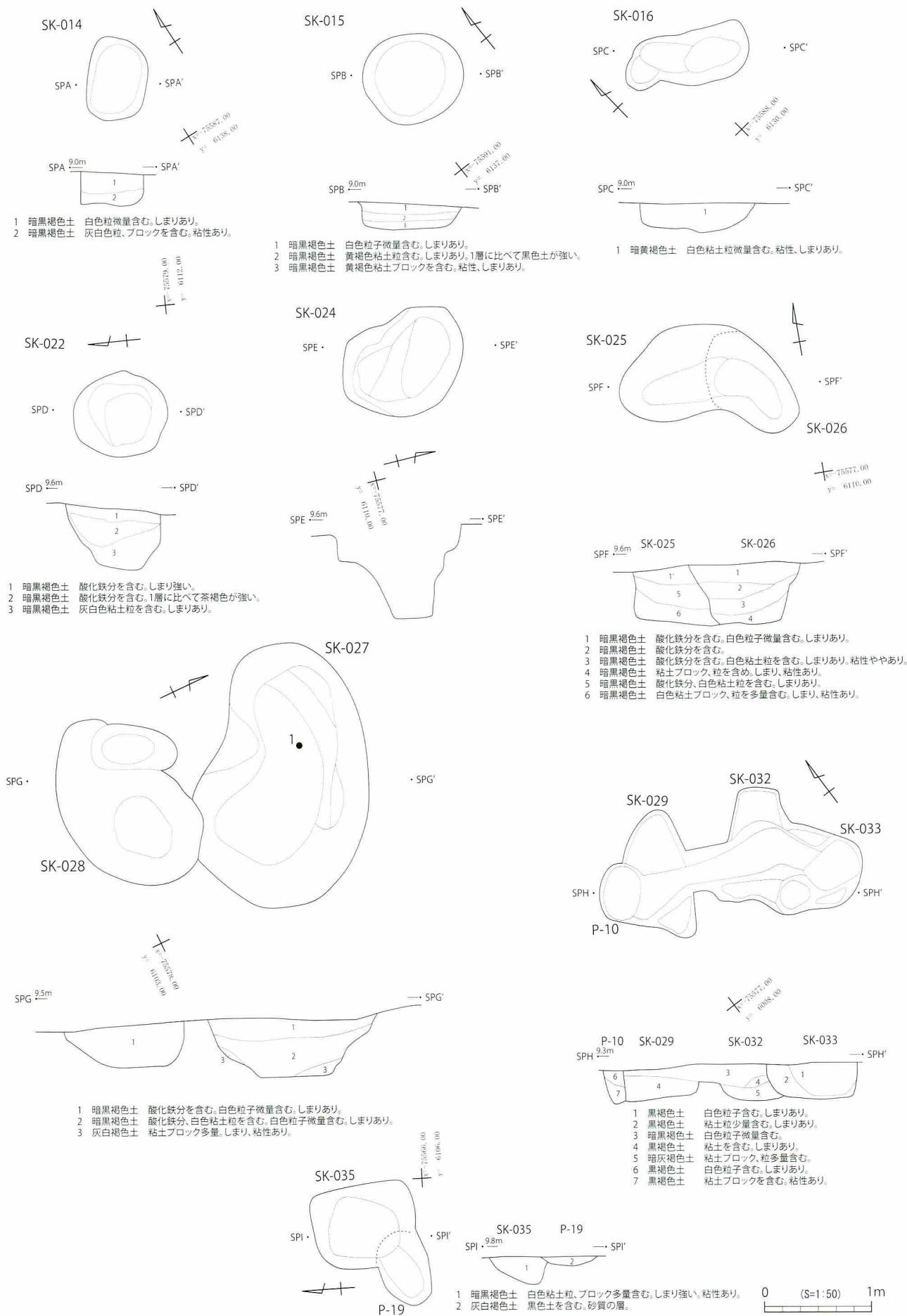
遺物 なし

SK-016(第20図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.2m、短軸0.5m、深さ0.26m。平面形は不整な橢円形である。北西壁はほぼ垂直に立ち上がる。北西側にテラスをもち、南東壁はゆるやかに立ち上がる。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。



第 20 図 IV区土坑実測図

## SK-017・018(第16図)

重複関係 (新)SK-018 → (旧)SK-017

規模・形態・構造 (SK-017) 長軸 1.3 m、短軸 0.6 m、深さ 0.4 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。 (SK-018) 長軸 1.5 m、短軸 0.5 m、深さ 0.3 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

## SK-019(第18図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ 0.3 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

## SK-020(第18・21図)

重複関係 (新)SD-011 → (旧)SK-020

規模・形態・構造 直径 1.2 m、深さ 0.24 m。平面形は円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。

## SK-021(第18図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 0.6 m、短軸 0.3 m、深さ 0.2 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

## SK-022(第20図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.9 m、深さ 0.6 m。平面形は円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、北側にテラスをもつ。底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。須恵器蓋片が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

## SK-023(第18・21図)

重複関係 (新)SD-011 → (旧)SK-023

規模・形態・構造 長軸 1.2 m、短軸 0.5 m、深さ 0.3 m。平面形は隅丸長方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。

## SK-024(第20・21図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 1.1 m、短軸 0.8 m、深さ 0.8 m。平面形は不整な橢円形である。両側にテラスを数段もち、中央は深くなる。底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。

SK-025・026(第20・21図)

重複関係 (新)SK-026 → (旧)SK-025

規模・形態・構造 (SK-025) 長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.5m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。(SK-026) 長軸0.9m、短軸0.6m、深さ0.5m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SK-027・028(第20・21図)

重複関係 (新)SK-028 → (旧)SK-027

規模・形態・構造 (SK-027) 長軸2.5m、短軸1.3m、深さ0.55m。平面形は橢円形である。両壁にテラスをもち、特に北側にテラス状の段をもつ。底面は平坦である。(SK-028) 長軸1.75m、短軸1.0m、深さ0.4m。平面形は橢円形である。南壁はゆるやかに、北壁はほぼ垂直に立ち上がる。西側の底面をピット状に掘り込む。

遺物 (SK-027) 土師器、須恵器が出土した。(SK-028) 土師器が出土した。坏片が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SK-029・032・033(第20・21図)

重複関係 (新)P-10、SK-033 → (旧)SK-029・032

規模・形態・構造 (SK-029) 長軸1.2m、短軸0.6m、深さ0.28m。平面形は橢円形である。南西壁はP-10に切られているが、西壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。(SK-032) 長軸1.1m、短軸0.5m、深さ0.35m。平面形は隅丸長方形である。検出できた西壁はゆるやかに立ち上がる。底面は平坦である。(SK-033) 長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.35m。平面形は橢円形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、南西壁にテラスをもつ。底面は平坦である。

遺物 調査時、遺物は一括で取り上げた。土師器、須恵器が出土した。鉄滓は10点出土し、総重量は230gである。小片のため図示し得るものはない。

SK-030(第18図)

重複関係 (新)SD-011 → (旧)SK-030

規模・形態・構造 長軸1.35m、短軸0.4m、深さ0.5m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。上総型坏の底部片が含まれるが、小片のため図示し得るものない。

SK-031(第16図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.5m、短軸0.5m、深さ0.5m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SK-034(第16図)

重複関係 (新)SD-016 → (旧)SK-034

**規模・形態・構造** 直径 1.4 m、深さ 0.13 m。平面形は円形である。東西壁はゆるやかに立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

**SK-035( 第 20 図 )**

**重複関係** (新)P-19 → (旧)SK-035

**規模・形態・構造** 長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.25 m。平面形は長方形である。北壁はゆるやかに立ち上がり、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

**遺物** なし

**SK-036( 第 19 図 )**

**重複関係** (新)SD-016 → (旧)SK-036

**規模・形態・構造** 長軸 0.9 m、短軸 0.6 m、深さ 0.5 m。平面形は不整な橢円形である。壁はゆるやかに立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

**SK-037( 第 18・21 図 )**

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 長軸 0.85 m、短軸 0.35 m、深さ 0.2 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器が出土した。

**SK-038( 第 16 図 )**

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 直径 0.85 m、深さ 0.2 m。平面形は円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** なし

**SK-046( 第 16 図 )**

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 長軸 0.7 m、短軸 0.4 m、深さ 0.17 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** なし

**SK-047( 第 16 図 )**

**重複関係** (新)P-42 → (旧)SK-047

**規模・形態・構造** 長軸 0.7 m、短軸 0.5 m、深さ 0.26 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、北側の底面をピット状に掘り込む。

**遺物** 土師器、須恵器が出土した。土師器壺の口縁部が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

**SK-048・049( 第 16・21 図 )**

**重複関係** (新)SK-048 → (旧)SK-049

**規模・形態・構造** (SK-048) 長軸 1.0 m、短軸 0.5 m、深さ 0.52 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、北東側に一段掘り込みをもつ。底面は平坦である。 (SK-049) SK-048 に東側を切られているため、検出部分は短軸 0.5 m、深さ 0.1 m。平面形は橢円形である。断面形は皿状である。

**遺物** (SK-048) 土師器、須恵器が出土した。

## ピット

P-5(第 18・21 図)

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 直径 0.7 m、深さ 0.16 m。平面形は円形で、柱痕は確認できなかった。

**遺物** 土師器が出土した。

P-9(第 16・21 図)

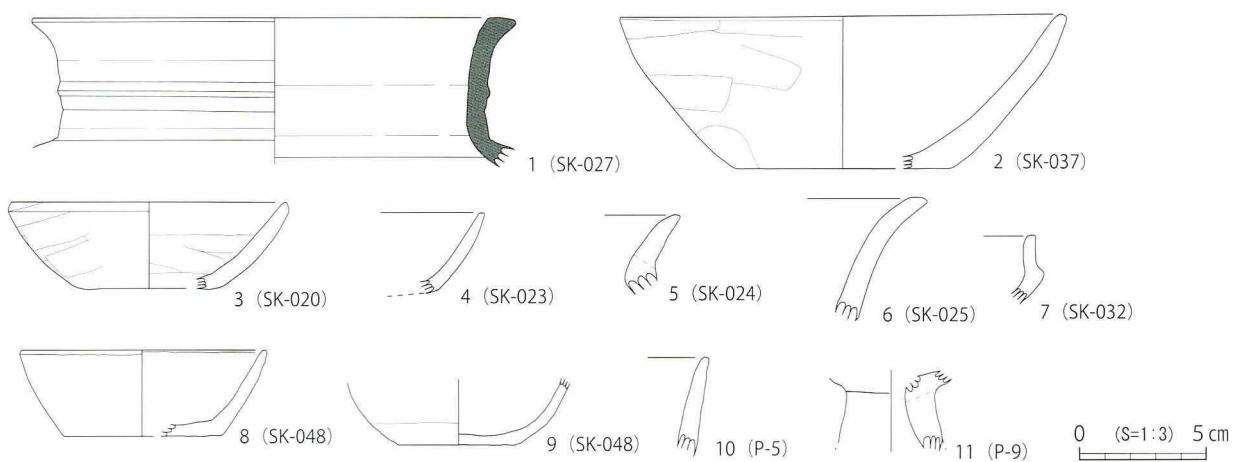
**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 長軸 0.7 m、短軸 0.5 m、深さ 0.15 m。平面形は橢円形で、柱痕は確認できなかった。

**遺物** 土師器が出土した。

遺構	重複	規模・形態・構造	出土遺物
P-4	なし	直径 0.7 m、深さ 0.1 m。平面形は円形で柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-6	なし	直径 0.8 m、深さ 0.3 m。平面形は円形で柱痕は確認できなかった。	土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-7	(新)SD-011 → (旧)P-7	直径 0.7 m、深さ 0.5 m。平面形は円形で柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-8	なし	直径 0.4 m、深さ 0.15 m。平面形は円形で柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-38	なし	直径 0.4 m、深さ 0.16 m。平面形は円形で柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-39	(新)SD-019 → (旧)P-39	直径 0.2 m、深さ 0.2 m。平面形は円形で柱痕は確認できなかった。	土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

表 11 III区ピット観察表



第 21 図 III区出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(須恵器) SK-027	口縁部～頸部1/6	口径 18.8 cm 現存高 5.7 cm	口クロ成形。	灰色 良好	白色粒・黒色粒
2	壺(土師器) SK-037	口縁部1/6	口径 11.8 cm 底径 6.0 cm 器高 4.1 cm	外面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ及びナデ。 内面は摩耗激しく調整不明。	橙色 良好	赤色粒・小石・石英粒・ 白色粒
3	壺(土師器) SK-020	口縁部～底部1/6	口径 10.8 cm 底径 3.4 cm 器高 5.6 cm	外面はヘラケズリ、ヨコナデ。内面はナデ	灰黄色 良好	黒色粒・石英粒
4	壺(土師器) SK-023	口縁部片	現存高 3.2 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 良好	石英粒・白色粒
5	甕(土師器) SK-024	口縁部片	現存高 3.1 cm	摩耗激しく調整不明。	にぶい橙色 不良	赤色粒・白色粒
6	甕(土師器) SK-025	口縁部片	現存高 5.5 cm	内外面ともヨコナデ。	にぶい黄橙色 良好	白色粒・赤色粒
7	壺(土師器) SK-032	口縁部片	現存高 2.7 cm	摩耗激しく調整不明。	にぶい黄橙色 不良	赤色粒・小石
8	壺(土師器) SK-048	底部1/6	口径 9.8 cm 底径 6.4 cm 器高 3.3 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	小石・赤色粒・白色 粒
9	壺(土師器) SK-048	口縁部～底部1/6	底径 4.8 cm 現存高 2.5 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	小石・砂粒・赤色粒・ 白色粒
10	壺(土師器) P-5	口縁部片	現存高 3.9 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	白色粒・石英粒
11	高杯(土師器) P-9	頸部1/6	現存高 3.2 cm	脚部と壺部は別で成形後、合わせている。摩耗激 しく調整不明。	橙色 不良	白色粒・赤色粒

表 12 Ⅲ区出土遺物観察表

## 5 IV区(第22図～第37図)

### 掘立柱建物跡

SB-001(第23図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 桁行2間、梁行1間。柱間は桁行で1.2～1.4m、梁行で1.5mである。桁行を基準に主軸は、N=72°～Wである。柱穴の平面形は橢円形及び方形である。a・cで確認した柱痕から直径20cm程の柱を想定できる。また、aでは、柱材の痕跡も断面で確認した。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SB-002(第23図)

重複関係 (新)SE-005→(旧)SB-002

規模・形態・構造 桁行3間、梁行2間。柱間は桁行で1.1～1.6m、梁行で1.1～1.5mである。桁行を基準に主軸は、N=9°～Eである。柱穴の平面形は橢円形及び方形である。b・h・jで確認した柱痕から直径15～20cm程の柱を想定できる。fは、上面及び断面では確認できなかった。

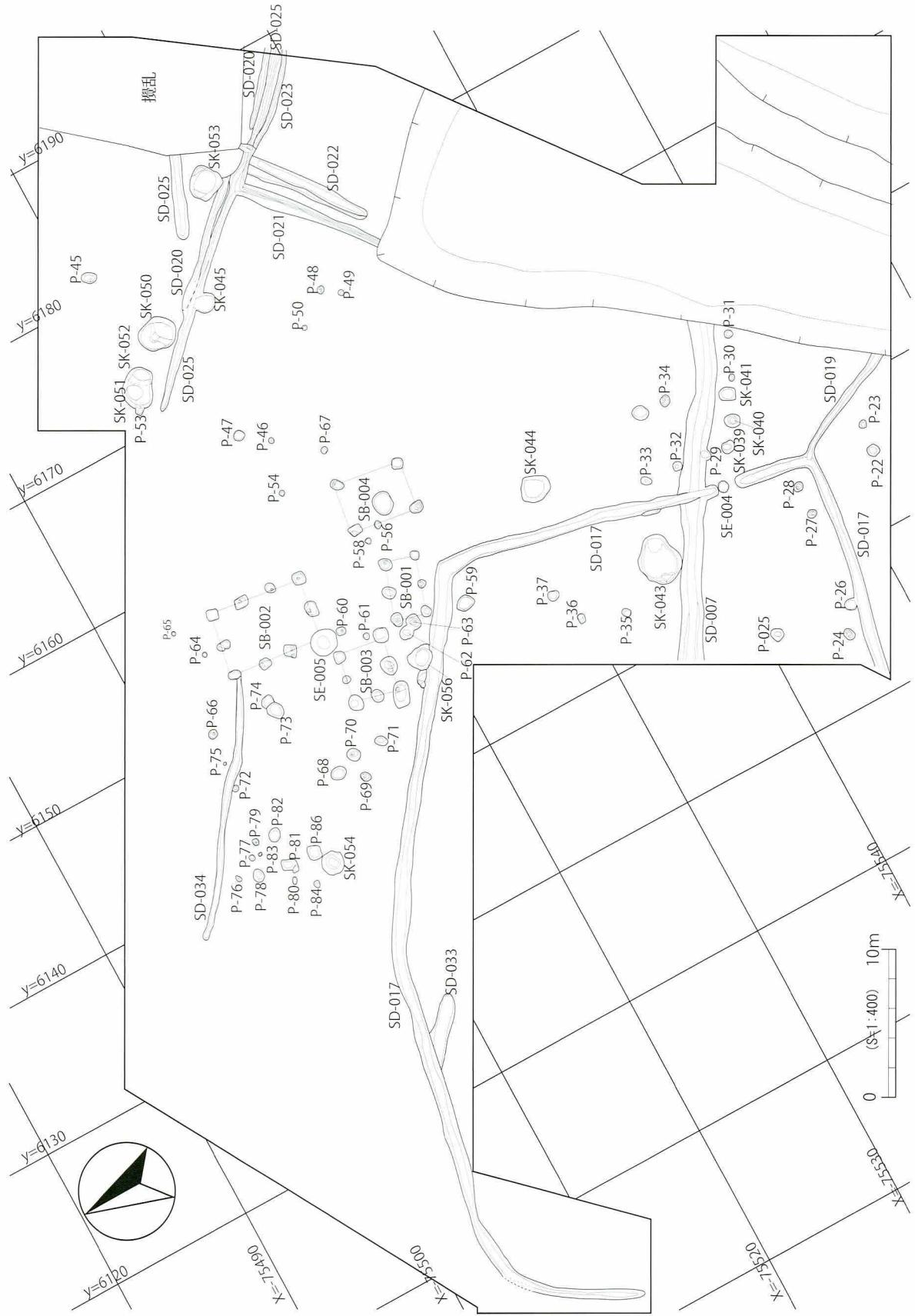
遺物 土師器、須恵器が出土した。

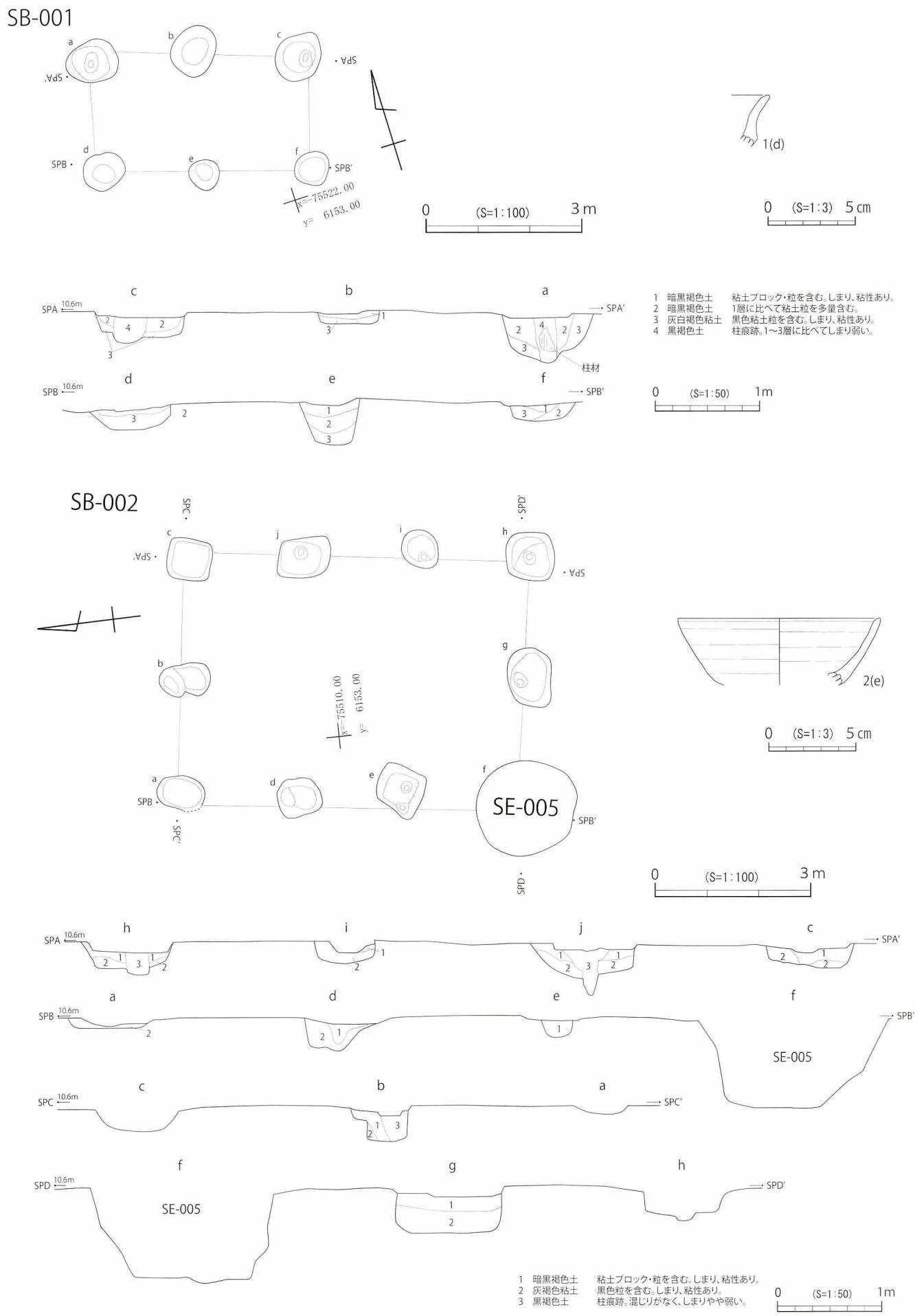
SB-003(第24図)

重複関係 なし

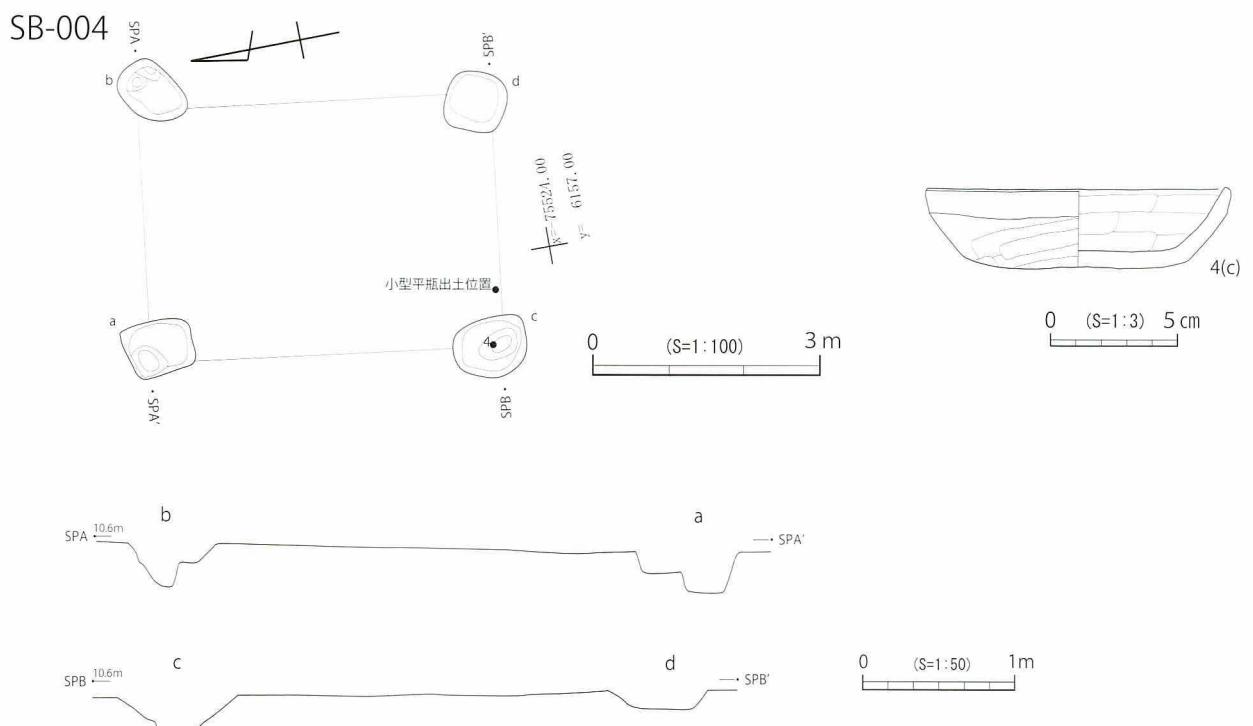
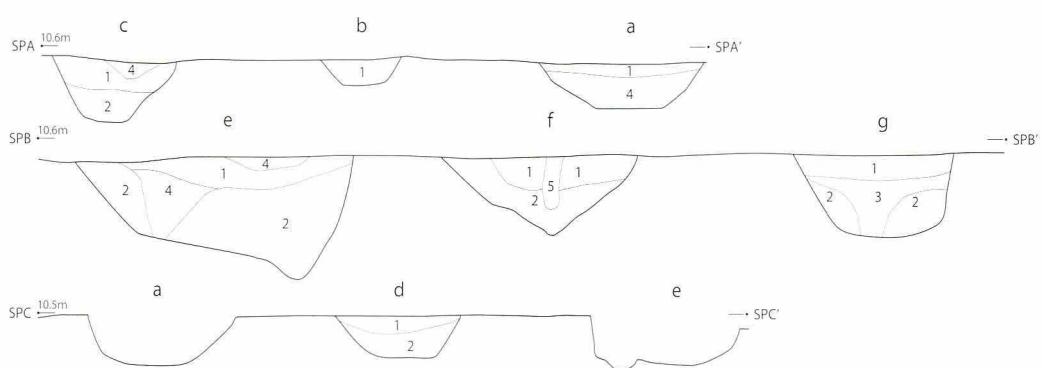
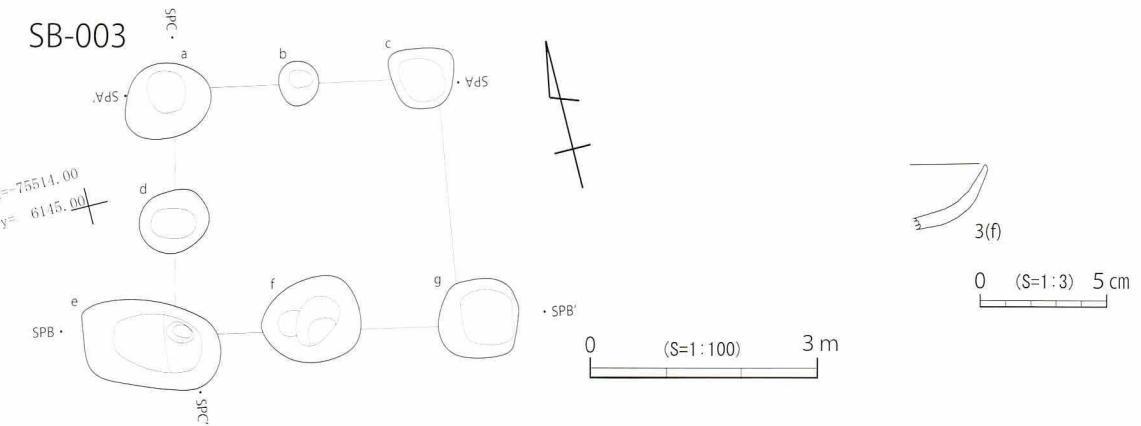
規模・形態・構造 桁行2間、梁行2間。柱間は桁行で1.0～1.5m、梁行で0.8mである。桁行を基準に主軸は、N=79°～Wである。柱穴の平面形は橢円形及び円形である。fで確認した柱痕から直径10～15cm程の柱を想定できる。

第22図 IV区遺構配置図





第 23 図 SB-001・002 実測図



第24図 SB-003・004実測図

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SB-004 (旧)P-51・P-52・P-55・P-57(第24図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 柱行1間、梁行1間。柱間は柱行で3.5m、梁行で2.5~2.8mである。柱行を基準に主軸は、N-7°-Eである。柱穴の平面形は橢円形及び円形である。

遺物 奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土した。後述するが、SB-004付近で小型平瓶が出土している。

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(土師器) SB-001	口縁部片	現存高 3.0cm	摩耗激しく調整不明。	明赤褐色 不良	赤色粒・砂・石英粒
2	壺(土師器) SB-002	口縁部1/6	口径 11.8cm 残存高 3.7cm	口クロ成形。	橙色 不良	小石・赤色粒・金雲母
3	壺(土師器) SB-003	口縁部片	残存高 2.3cm	摩耗激しく調整不明。	にぶい黄橙色 不良	細かい。赤色粒・石英
4	壺(土師器) SB-004	口縁部~底 部1/3	口径 12.1cm 底径 9.2cm 器高 3.2cm	口縁部ヨコナデ。外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	橙色 良好	石英粒・白色粒

表13 SB-001~004出土遺物観察表

## 溝跡

SD-007(第25図)

重複関係 (新)SD-007→(旧)SD-017

規模・形態・構造 幅1.6~2.0m、深さ0.38m、IV区で検出した長さは23.6m。断面形は皿状である。I区で検出した溝跡と幅、方向、断面形が同じため同一遺構とした。

遺物 土師器、須恵器が出土した。1は確認面直下で、2は底面から15cm上の高さで出土した。

SD-017(第25図)

重複関係 (新)SK-056、SD-007・019・033→(旧)SD-017

規模・形態・構造 幅1.5~2.0m、深さ0.39m、検出部分の長さ112m。一部途切れる部分もあるが、IV区の南側を取り囲むようにまわる溝である。断面形は逆台形状で、底面から20cm上での湧水する。各遺構と切り合いを確認したが、SD-017が全体の中で最も古い。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SD-019(第25図)

重複関係 (新)SD-019→(旧)SD-017

規模・形態・構造 幅0.4~0.8m、深さ0.39m、検出部分の長さ8.6m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

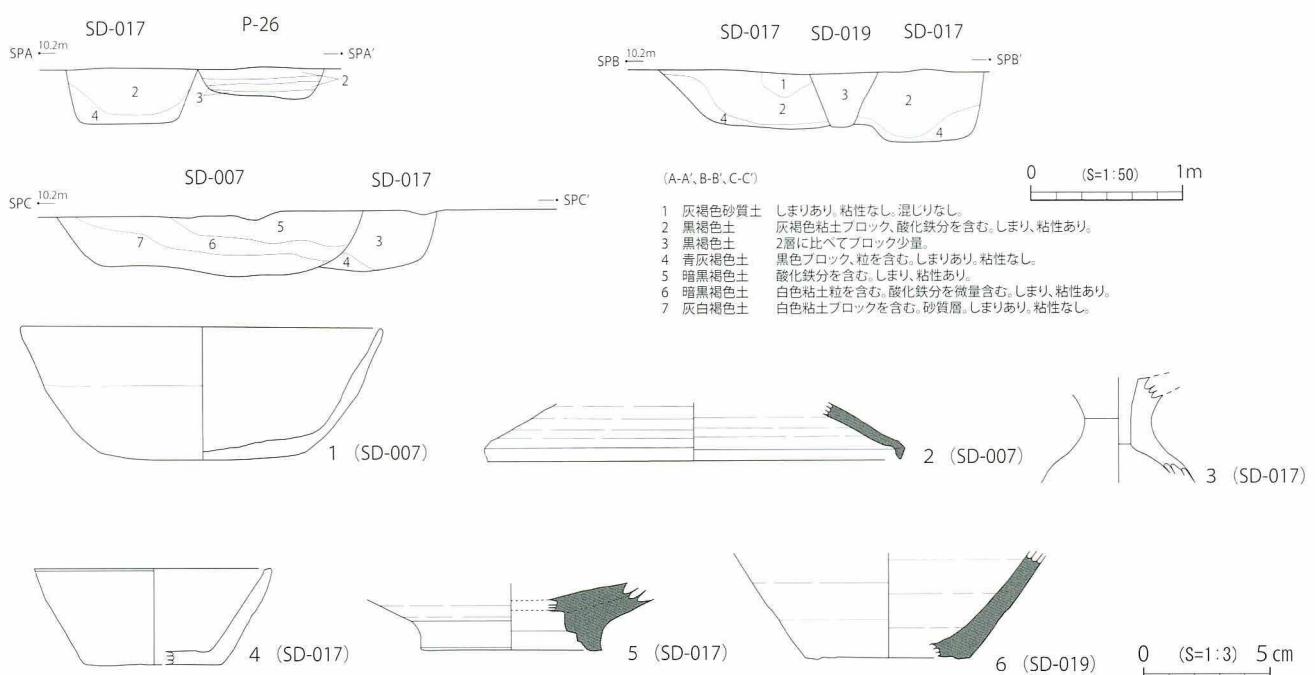
遺物 土師器、須恵器が出土した。鉄滓が6点出土し、総重量は290gである。

SD-020(第26図)

重複関係 (新)SD-025→(旧)SD-020

規模・形態・構造 幅0.3~0.6m、深さ0.15~0.2m、検出部分の長さ19.2m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 中世以降の陶磁器、古銭が出土した。



第25図 SD-007・017・019 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(土師器) SD-007	口縁部～底 部1/2	口径 14.5 cm 底径 8.2 cm 器高 5.1 cm	摩耗激しい。一部でヨコナデを確認できる。	橙色 不良	赤色粒・小石
2	蓋(須恵器) SD-007	口縁部1/8	口径 16.6 cm 現存高 2.3 cm	ロクロ成形。	灰色 不良	白色粒・黒色粒
3	器台(土師器) SD-017	脚部1/3	頭径 2.8 cm 現存高 4.1 cm	摩耗激しく調整不明。中央に約0.8cmの穴があく。 上部に巻き付けるように脚を接着。	にぶい橙色 不良	赤色粒・石英粒・小石
4	壺(土師器) SD-017	口縁部～底 部1/6	口径 9.6 cm 底径 5.4 cm 器高 3.8 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	細かい。赤色粒・砂
5	高台付壺(須恵器) SD-017	底部1/8	底径 7.3 cm 現存高 2.5 cm	ロクロ成形。高台部分は、後付けしている。	灰色 良好	白色粒・黒色粒
6	壺(須恵器) SD-018	底部1/8	底径 6.6 cm 現存高 4.1 cm	ロクロ成形。底部調整時の工具痕が残る。	灰白色 良好	白色粒・黒色粒

表 14 SD-007・017・019 出土遺物観察表

#### SD-021(第26図)

重複関係 (新)SD-021 → SD-025 → (旧)SD-022

規模・形態・構造 幅0.6～1.2m、深さ0.26～0.5m、検出部分の長さ13.0m。南西～北東方向に走り、直角に曲がる溝である。段掘りをし、両側にテラスがある。南北で高低差があり、水路であった可能性が高い。

遺物 土師器、陶磁器が出土した。遺物は上層に多く、陶磁器が多い。断面形は箱型である。遺構の形態や遺物の年代などから、SD-021は近世以降の時期が考えられる。

#### SD-022(第26図)

重複関係 (新)SD-021 → SD-025 → (旧)SD-022

規模・形態・構造 幅0.8～1.2m、深さ0.18m、検出部分の長さ8.7m。南西～北東方向に走る溝で、掘り込みは浅く、断面形は皿状である。

遺物 土師器、須恵器、陶器が出土した。

#### SD-023(第26図)

重複関係 (新)SD-021 → SD-025 → (旧)SD-023

規模・形態・構造 幅0.25～0.65m、深さ0.16m、検出部分の長さ7.4m。南東～北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 なし

#### SD-024(第26図)

重複関係 なし

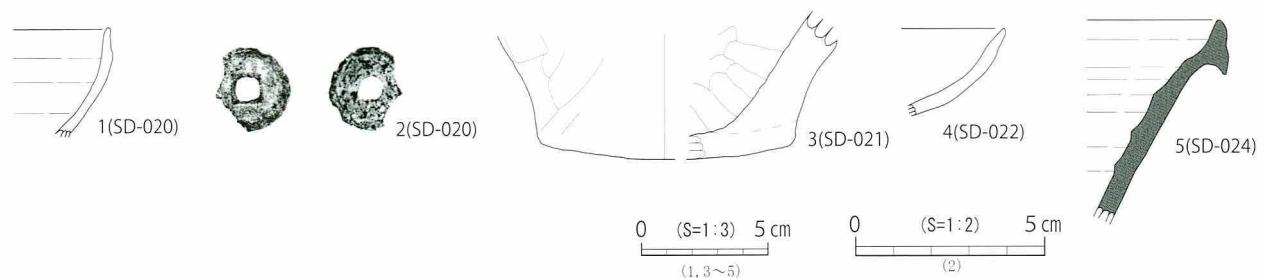
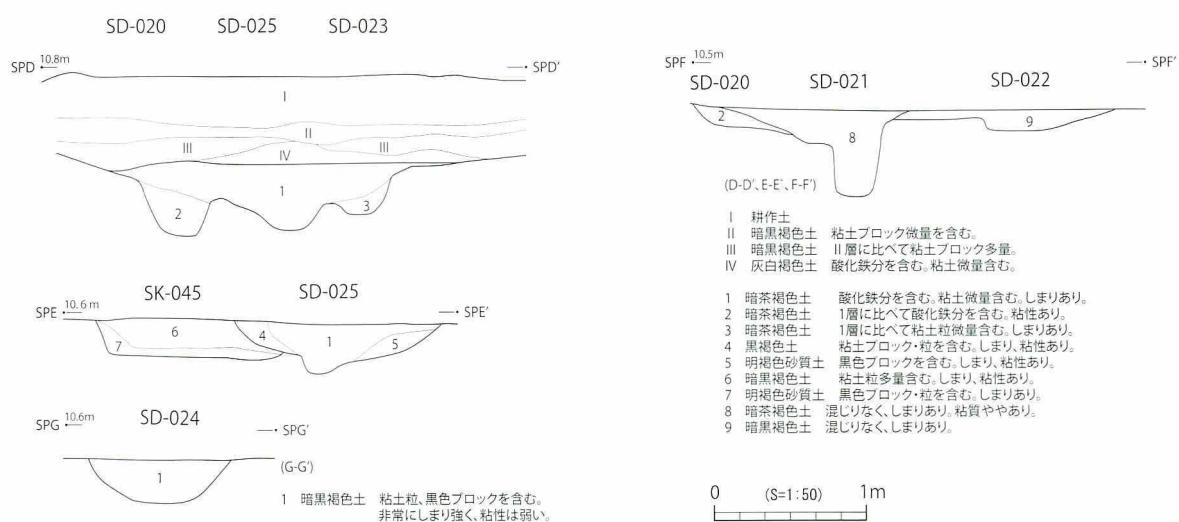
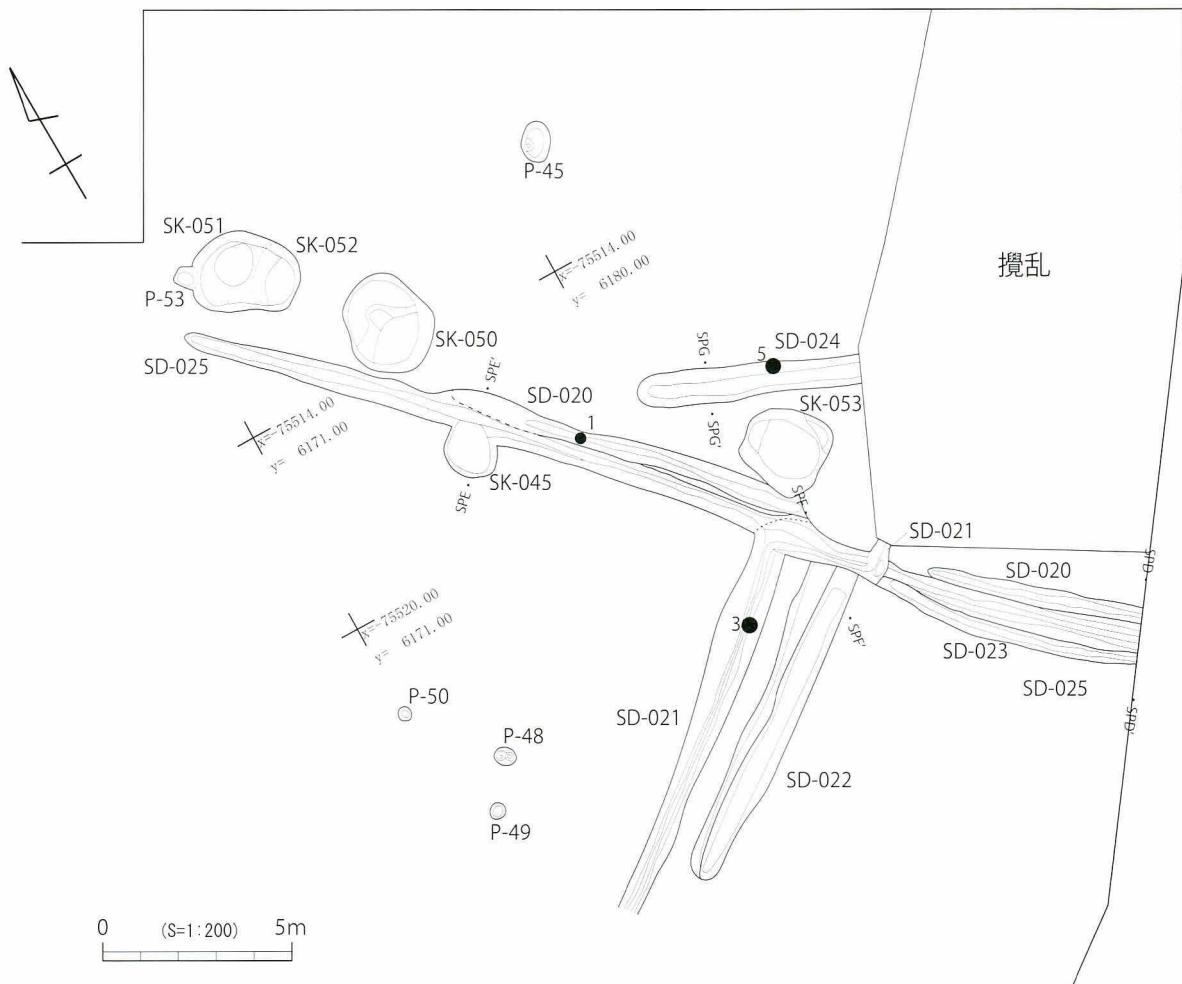
規模・形態・構造 幅1.15～1.4m、深さ0.33m、検出部分の長さ6.0m。南東～北西方向に走る溝で、南東側は攪乱がある。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。平底の壺も含まれるが、小片のため図示し得るものはない。鉄滓は3点出土し、総重量は160gである。

#### SD-025(第26図)

重複関係 (新)SD-021 → SD-025 → (旧)SD-022・023、SK-045

規模・形態・構造 幅0.5～0.7m、深さ0.15～0.4m、検出部分の長さ26.4m。南東～北西方向に走



第26図 SD-020～025実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	碗(陶器) SD-020	口縁部片	現存高 3.8 cm	内外面とも釉薬が施釉。 良好	明緑灰色 良好	黒色粒
2	古鏡 SD-021	2/3 残存	直径 2.3 cm 重量 1.52g	摩耗激しく字面判別できない。		
3	甕(陶器) SD-021	底部 1/6	底径 10.2 cm 現存高 4.7 cm	内外面ともにハケ状工具でケズリ。	淡黄色 良好	白色粒・小石
4	壺(土師器) SD-022	口縁部片	現存高 3.0 cm	口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面は摩耗激しく 調整不明。	橙色 良好	黒色粒
5	甕(須恵器) SD-024	口縁部～頸部	現存高 8.3 cm	口クロ成形。外面に黒色釉が施釉。	(外) 暗灰色 (内) 灰色 良好	白色粒・小石

表 15 SD-020 ~ 022・024 出土遺物観察表

る溝で、断面形は皿状である。

遺物 なし

SD-033(第 22・37 図)

重複関係 (新)SD-033 → (旧)SD-017

規模・形態・構造 幅 0.6 ~ 1.3 m、深さ 0.21 m、長さ 5.2 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。

SD-034(第 22 図)

重複関係 (新)SD-034 → (旧)SB-002a、P-72

規模・形態・構造 幅 0.25 ~ 0.5 m、深さ 0.1 m、長さ 19 m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 なし

## 土坑

SK-039(第 34 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 1.85 m、短軸 1.3 m、深さ 0.28 m。平面形は橢円形である。断面形はゆるやかなU字状である。

遺物 土師器が出土した。平底の壺が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SK-040(第 34 図・37 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 1.6 m、短軸 1.4 m、深さ 0.15 m。平面形は橢円形である。段掘りをしており、中心が一段深い。底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SK-041(第 34 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 1.8 m、短軸 1.3 m、深さ 0.2 m。平面形は橢円形である。壁はほぼ垂直に立ち

上がり、底面は平坦である。

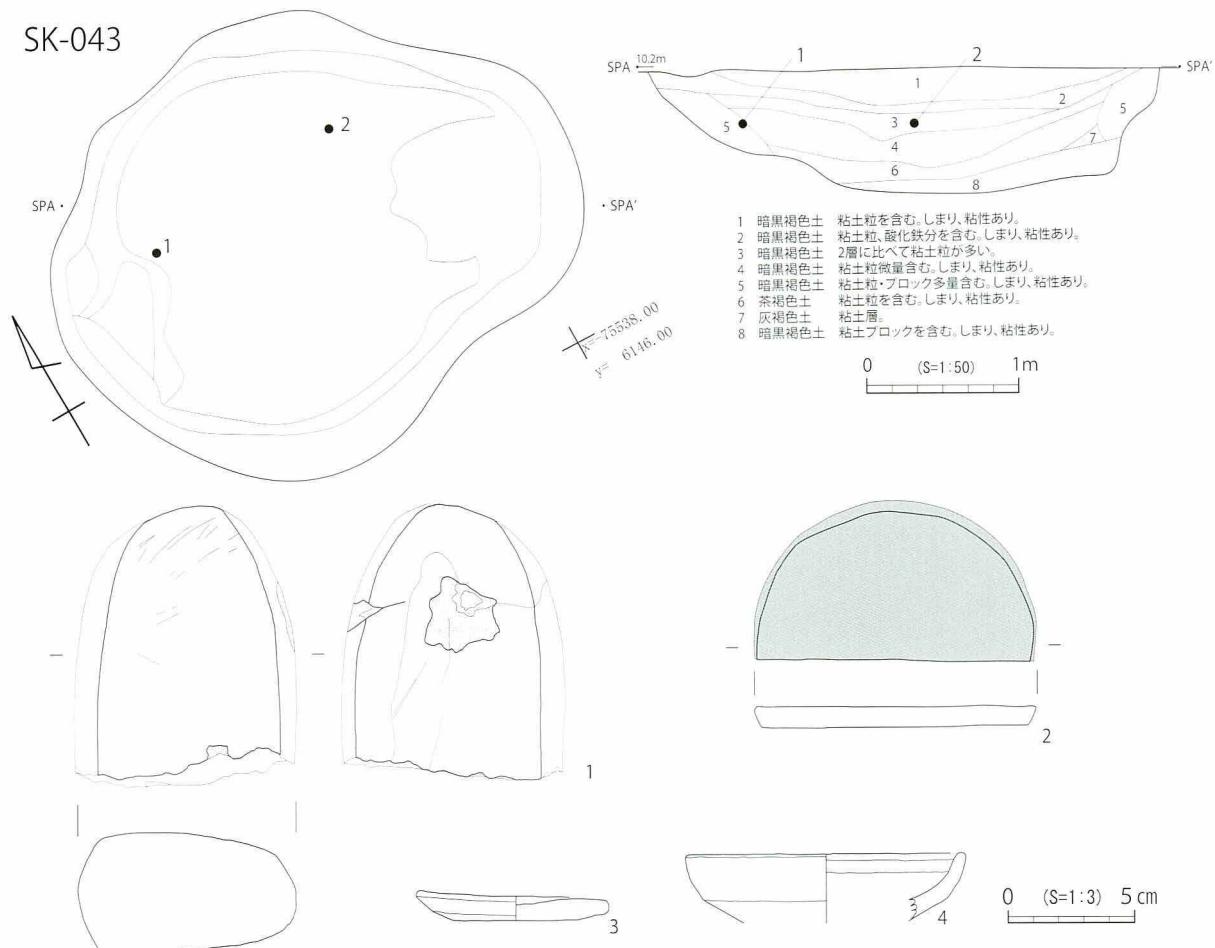
遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SK-043(第27図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸3.5m、短軸3.2m、深さ0.9m。平面形は不整な橢円形である。上面から40cm掘り下げた高さから湧水がある。東西にテラスをもち、底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器、桶底、礫や桃の種子などの有機物が多数出土した。奈良・平安時代に帰属する土器と桶底、使用痕がある礫を図示した。鉄滓が10点出土し、総重量は1,150g出土である。また、有機物の多くは底面から出土した。これらは、遺構の下部の自然堆積層から検出した倒木に由来するものである。



第27図 SK-043 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	礫	一部欠損	長さ 10.6 cm 最大幅 9.0 cm 最大厚 5.6 cm 重量 858.83g	平坦面に摩耗痕あり。全面に被熱を受けた痕跡がある。		
2	桶底(木製品)	2/3 残存	直径 11.9 cm 最大厚 0.7 cm	全面を黒色に塗着。	黒色	
3	土師質土器	完形	口径 7.2 cm 底径 5.0 cm 器高 1.2 cm	非常に粗雑な作りで、一枚の粘土板をくぼませて成形。摩耗激しい。	淡黄色 不良	赤色粒・砂
4	壊(土師器)	口縁部 1/6	口径 11.2 cm 現存高 2.7 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 良好	赤色粒・石英粒・金雲母

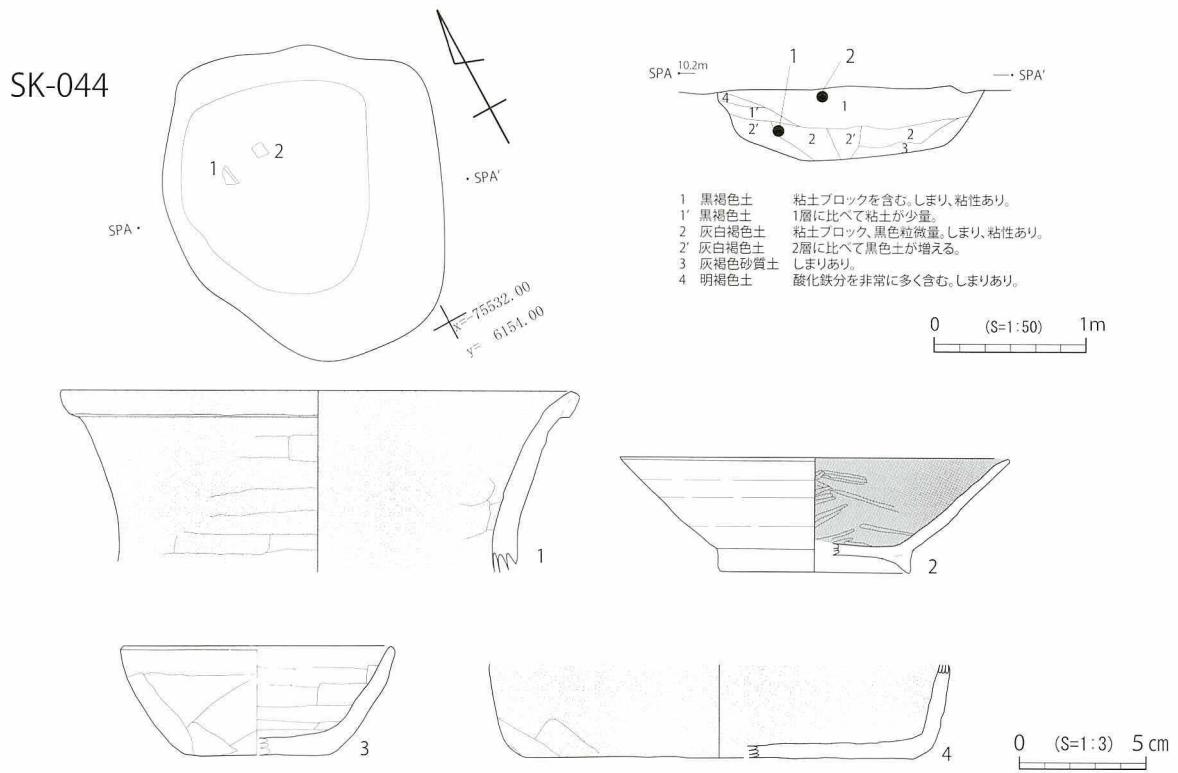
表16 SK-043 出土遺物観察表

## SK-044( 第 28 図 )

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸 1.8 m、短軸 1.3 m、深さ 0.48 m。底面から 20 cm 上の高さで湧水する。平面形は不整な橢円形である。壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 遺物は上層に集中し、土師器、須恵器が出土した。鉄滓が 14 点出土し、総重量は 500g である。



第 28 図 SK-044 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(土師器)	口縁部～頸部 1/6	口径 20.8 cm 現存高 7.3 cm	折り返し口縁。内外面ともヘラナデ。全面に黒色処理を施す。	黒色 良好	小石・砂粒
2	高台付坏(土師器)	口縁部～底部 1/3	口径 15.7 cm 底径 7.7 cm 器高 4.6 cm	ロクロ成形。内外面ともヨコ方向にミガキ。底部、内面を特に丁寧にミガキ。内黒。	(内) 黒色 (外) にぶい黄橙色 良好	白色粒・赤色粒・小石
3	坏(土師器)	口縁部～底部 1/2	口径 10.8 cm 底径 6.0 cm 器高 4.4 cm	外面は上部ヨコナデ。体部～底部はヘラケズリ。内面はヨコナデ。	橙色 良好	白色粒・赤色粒・小石
4	内耳土器	底部 1/8	底径 15.6 cm 器高 3.8 cm	外面体部ヘラケズリ。内外面ともスス付着。	黒色 良好	赤色粒・白色粒

表 17 SK-044 出土遺物観察表

## SK-045( 第 26 図 )

重複関係 (新)SD-025 → (旧)SK-045

規模・形態・構造 直径 2.11 m、深さ 0.26 m。平面形は円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 陶磁器、土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

## SK-050( 第 34・37 図 )

重複関係 なし

**規模・形態・構造** 長軸 3.9 m、短軸 3.5 m、深さ 0.48 m。平面形は不整な橢円形である。西壁はほぼ垂直に、東壁はゆるやかに立ち上がる。底面は平坦である。

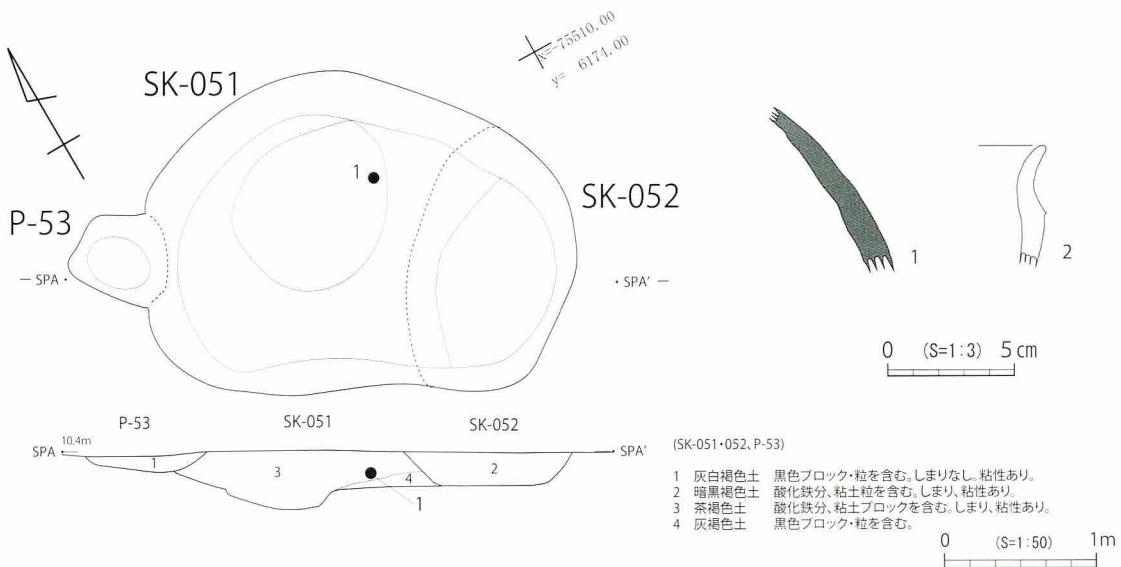
**遺物** 土師器、須恵器、陶磁器が出土した。鉄滓が 2 点出土し、総重量は 35g である。

#### SK-051・052(第 29 図)

**重複関係** (新)SK-052、P-53 → (旧)SK-051

**規模・形態・構造** (SK-051) 検出部分の長軸 1.7 m、短軸 2.05 m、深さ 0.35 m。平面形は不整な橢円形であつた可能性が高い。両壁は確認できないが、底面をピット状に掘り込む。(SK-052) 長軸 1.6 m、短軸 1.05 m、深さ 0.2 m。平面形は橢円形である。両壁はゆるやかに立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** (SK-051) 土師器、須恵器、陶磁器が出土した。



第 29 図 SK-051・052 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(須恵器)	胴部片	現存高 6.7 cm	ロクロ成形。上部に自然釉付着。	灰色 良好	黒色粒・白色粒
2	甕(土師器)	口縁部片	現存高 4.95 cm	外面上面にナデ。内面は摩耗激しく調整不明。	橙色 良好	細かい。白色粒・小石

表 18 SK-051 出土遺物観察表

#### SK-053(第 30 図)

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 長軸 3.1 m、短軸 1.5 m、深さ 0.7 m。平面形は不整な橢円形である。東側にテラスをもち、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はゆるやかな皿状である。

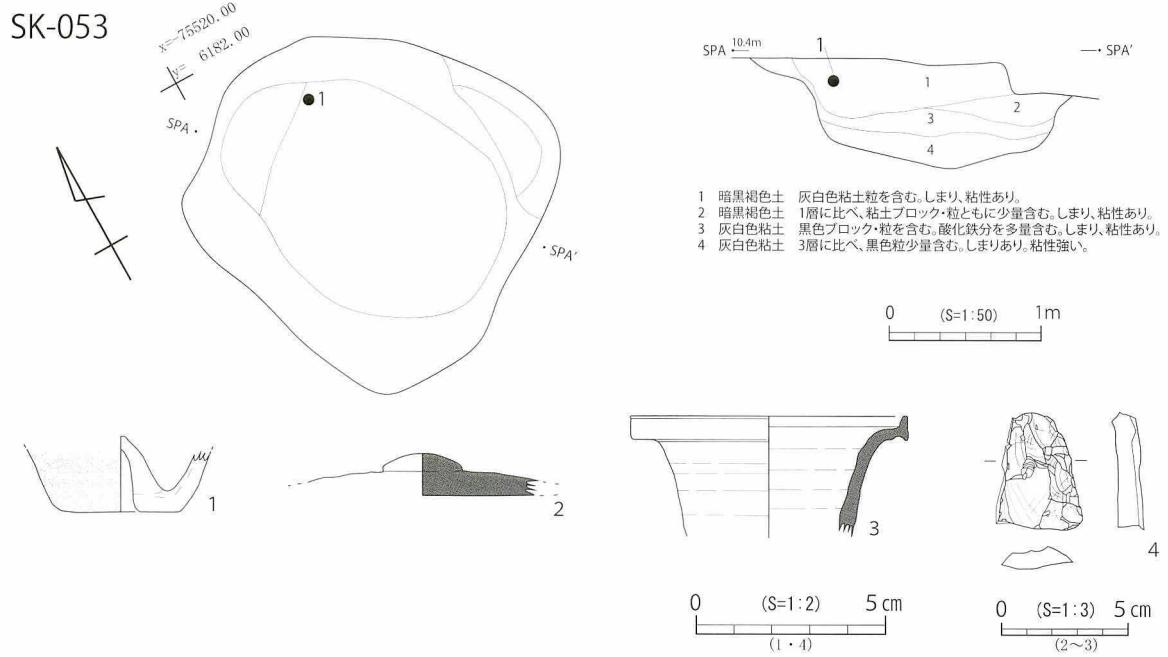
**遺物** 石器、土師器、須恵器、陶磁器、骨が出土した。骨は 1 層から検出しており、獸骨と考えられるが遺存状況は悪い。中世以降の遺物は 1 層を中心出土した。

#### SK-054(第 31 図)

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 直径 2.4 m、深さ 0.6 m。平面形は円形である。断面形は U 字状である。

**遺物** 1 層と 2 層上層を中心に須恵器、土師器が出土した。鉄滓は 1 点出土し、重量は 10g である。小片



第30図 SK-053 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	秉擣	口縁部欠損	底径 3.0 cm 器高 2.1 cm	全面に施釉。	橙色 良好	細かい。白色粒・赤色粒
2	蓋(須恵器)	体部片	現存高 1.7 cm	ロクロ成形。ボタン状のツマミ貼り付け。	灰色 良好	白色粒・小石
3	壺(須恵器)	口縁部～頸部 1/6	口径 4.9 cm 現存高 11.2 cm	ロクロ成形。口唇部ヨコナデ。	灰色 良好	砂・白色粒・小石
4	剥片		長さ 3.1 cm 最大幅 2.3 cm 重量 5.78g	黒曜石		

表19 SK-053 出土遺物観察表

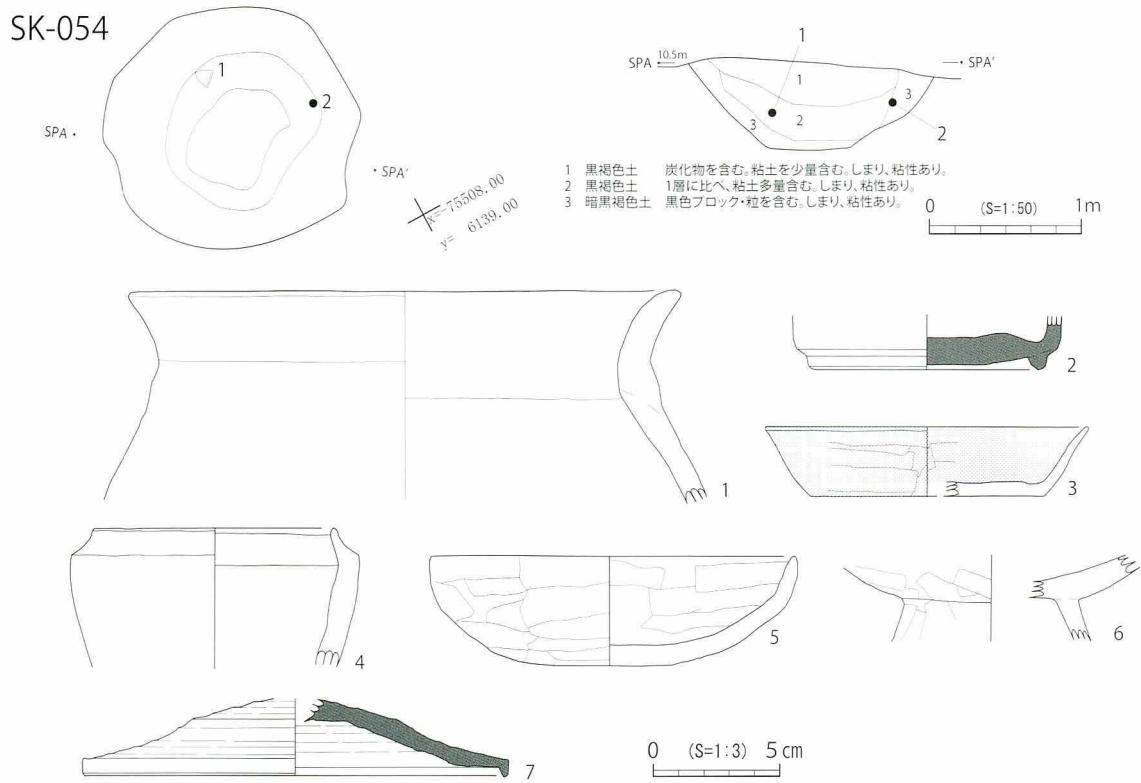
のため図示し得なかったが、甕は別個体で3点、土師器壺も図示したものとは別個体で4点以上出土した。非常に多くの個体の破片が遺構の上層から出土している。

#### SK-056(第32・33図)

重複関係 (新)SK-056 → (旧)SD-017

規模・形態・構造 長軸 2.0 m、短軸 1.6 m、深さ 0.75 m。平面形は不整な円形である。壁はゆるやかに立ち上がり、底面には凹凸がある、底面から 20 cm 上の高さで湧水する。遺構底面で板を2枚向かい合わせて立てた状態で検出した。板を立てるために底面にわずかな掘り込みは確認できた。調査時の確認では、板材には加工痕はなく、2枚とも長さ 60 cm、幅 30 cm、厚さ 5 ~ 6 cm のおおよそ同じ規格であった。また、高壺と紡錘車が板の間から出土した。

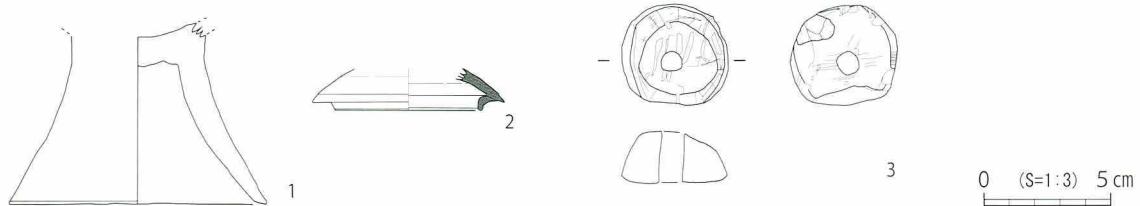
遺物 土師器、須恵器、紡錘車、桃の種子が出土した。前述したが、1高壺と3紡錘車は、おおよそ同一所から出土しており、高壺の下部から紡錘車が出土した。



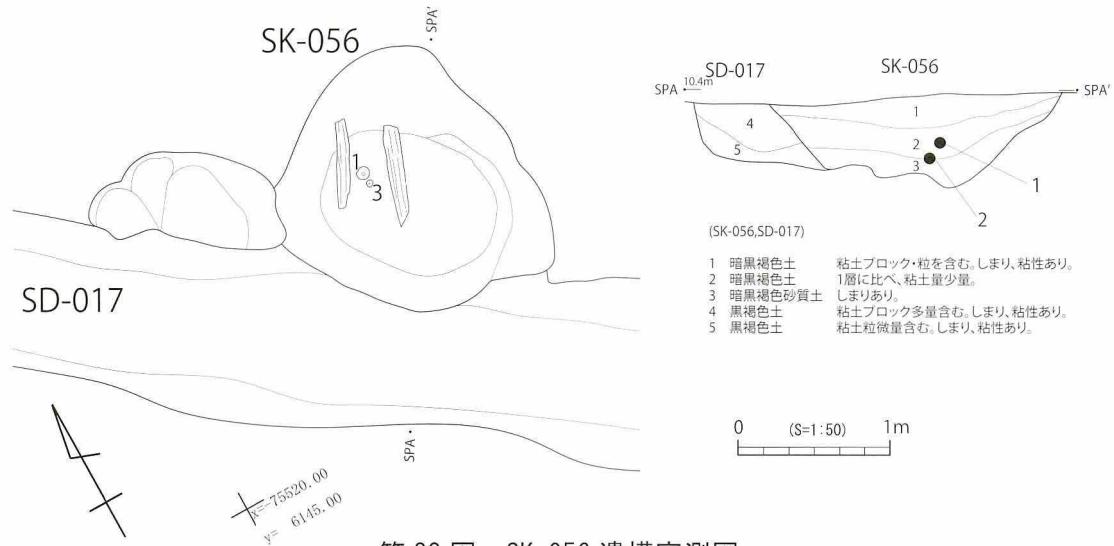
第31図 SK-054 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(土師器)	口縁部1/8	口径 22.0 cm 現存高 8.4 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	細かい。白色粒・赤色粒・砂
2	高台付甕(須恵器)	底部1/4	底径 9.6 cm 現存高 2.0 cm	高台部はヨコナデ。	灰色 良好	細かい。白色粒・砂
3	甕(土師器)	口縁部～底部1/6	口径 13.0 cm 底径 9.4 cm 器高 2.8 cm	内外面ともヘラナデ。全面に赤彩。	赤色 良好	細かい。砂・石英
4	甕(土師器)	口縁部1/6	口径 9.6 cm 現存高 5.6 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 良好	赤色粒・小石
5	甕(土師器)	全体の1/2	口径 14.6 cm 底径 6.0 cm 器高 4.5 cm	口縁部ヨコナデ。外面は底部～体部ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	にぶい黄褐色 良好	赤色粒・石英
6	高甕(土師器)	脚部1/4	頸径 7.0 cm 現存高 3.5 cm	甕部に脚部を取り付け。外面ヘラナデ。内面ミガキ。	橙色 良好	細かい。砂粒・赤色粒
7	蓋(須恵器)	口縁部～体部4/5	口径 17.0 cm 現存高 4.1 cm	ロクロ成形。内面ナデ。	灰白色 良好	細かい。白色粒

表20 SK-054 出土遺物観察表



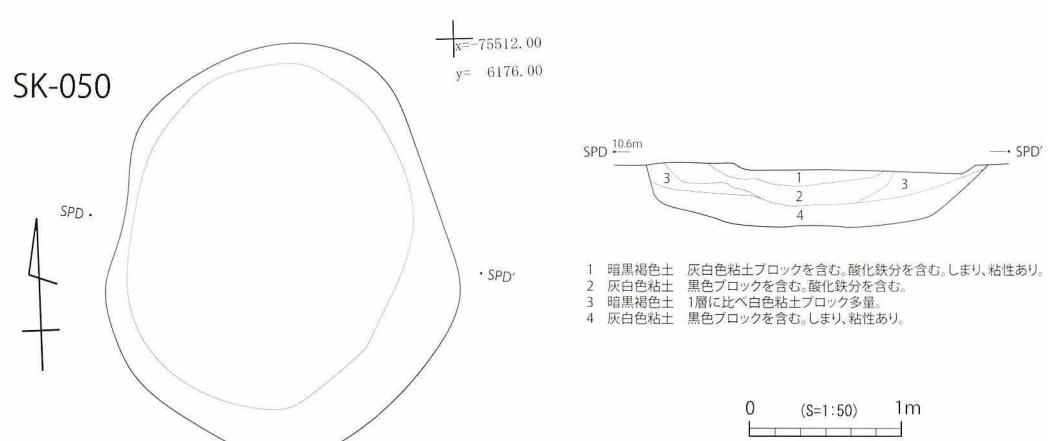
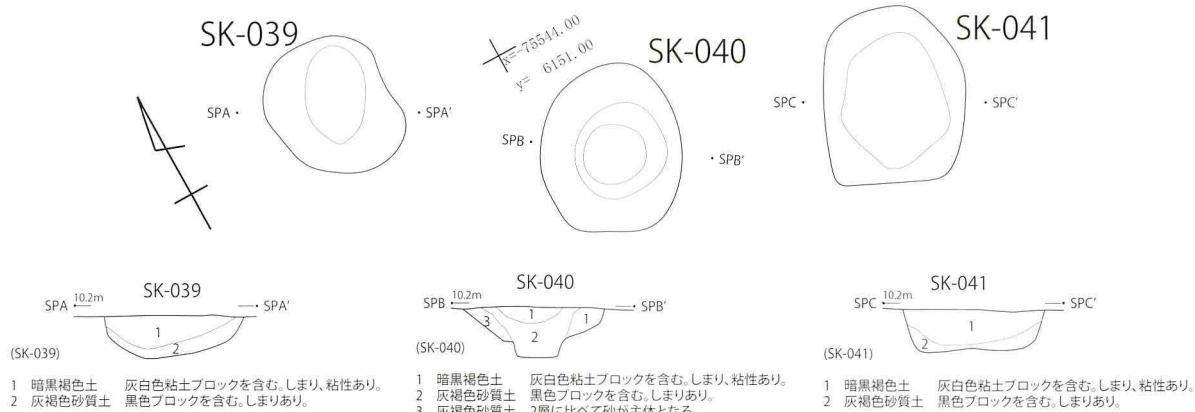
第32図 SK-056 出土遺物実測図



第33図 SK-056 遺構実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	高壺(土師器)	脚部4/5	底径 10.4 cm 現存高 7.2 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	赤色粒・白色粒・小石
2	蓋(須恵器)	口縁部1/8	径 7.8 cm 現存高 2.0 cm	ロクロ形成。口縁部ヨコナブ。	褐灰色 良好	細かい。白色粒
3	紡錘車(石製)		最大径 4.5 cm 最大厚 2.0 cm 孔径 0.9 cm 重量 53.51g	側面縦方向の研磨。チャート。		

表21 SK-056 出土遺物観察表



第34図 IV区土坑実測図

## 井戸

SE-004(第25図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.7 m。平面形は円形である。重機により裁ち割ったところ、深さは 1.9 m あり、3 点の桶を組み合わせていた。年代を示す遺物は出土していないが、形状的には近世以降の井戸である可能性が高い。

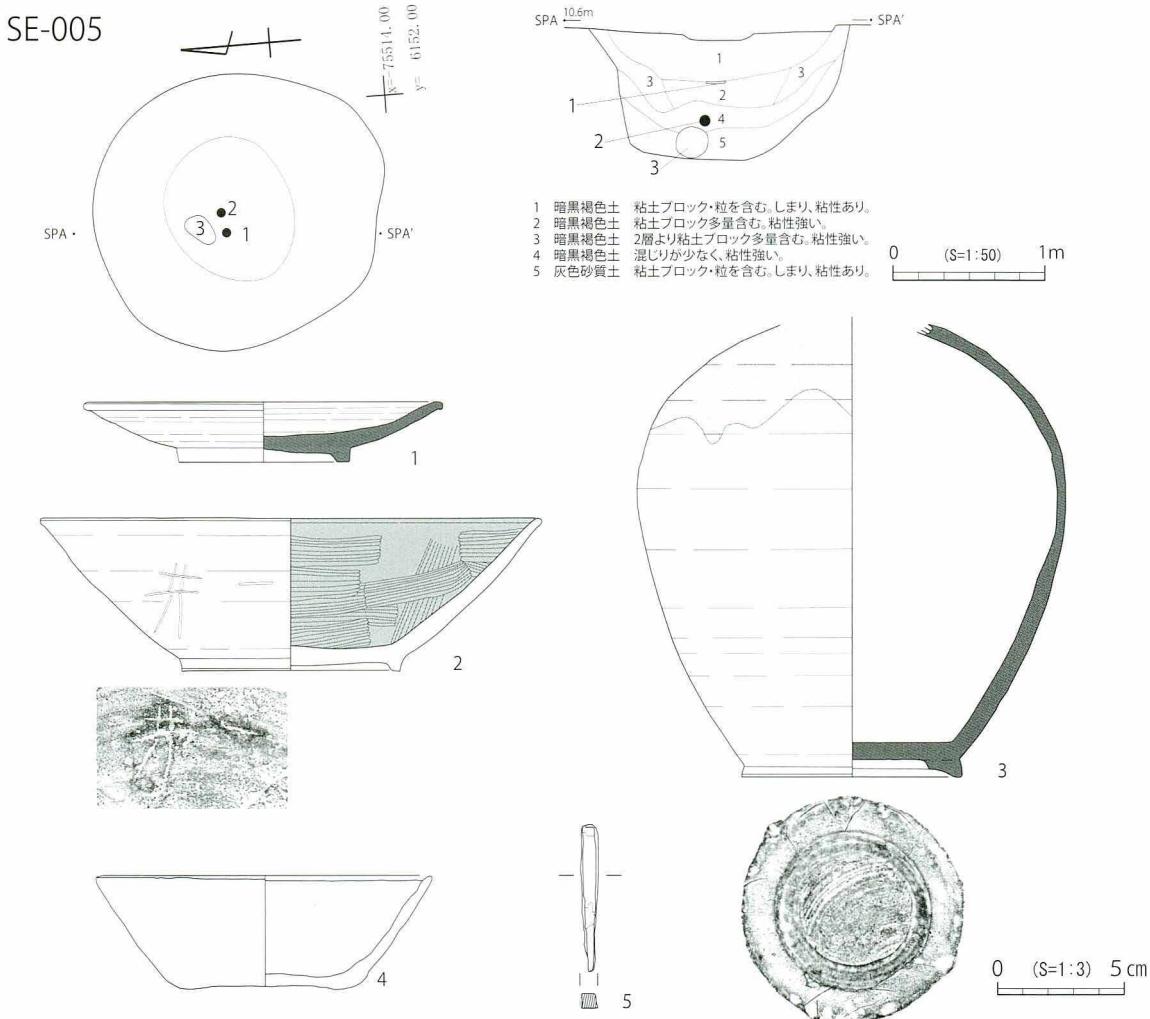
遺物 なし

SE-005 (旧)SB-002f(第35図)

重複関係 (新)SE-005 → (旧)SB-002

規模・形態・構造 直径 1.9 m、深さ 0.9 m。平面形は円形である。前述したが、SB-002 の柱穴と同地点にある。断面及び平面でも確認できなかったため、SB-002 の使用終了後、SE-005 を掘削したと考える。湧水は激しく、上面より 30 cm 下で水位が下がることはなかった。

遺物 土師器、須恵器、鉄製品、桃の種子が出土した。鉄滓は 14 点出土し、総重量は 510g である。土器片の多くは 1 ~ 2 層から出土した。3 長頸壺は底面直上から、その上部で 2 高台付壺が出土した。1 須恵器皿は 2 層上層から出土した。長頸壺の口縁～頸部分の破片は確認できなかった。



第35図 SE-005 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	調整	色調・焼成	胎土
1	皿(須恵器)	全体の1/2	口径 14.4 cm 底径 6.8 cm 器高 2.3 cm	ロクロ成形。高台部分は貼り付けてナデ。	灰白色 良好	白色粒・砂
2	高台付坏(土師器)	全体の2/3	口径 20.0 cm 底径 8.7 cm 器高 6.1 cm	ロクロ成形。内面は黒色処理、1単位8本のハケ状工具でミガキ。外面は口縁部ヨコナデ。刻書2か所あり。焼成後に刀子等で線刻を行う。「#」もしくは「#」か。縦2本を引いた後、横2本を引き、下2本を引く。「一」は横1本のみ。	(内) 黒色 (外) 明黄褐色 良好	赤色粒・白色粒・石英
3	長頸壺(須恵器)	頸部～口縁部欠損	底径 8.8 cm 現存高 18.1 cm	ロクロ成形。肩部に自然釉が散見。	にぶい黄橙色 不良	細かい。赤色粒・石英
4	坏(土師器)	口縁部～底部1/5	口径 13.4 cm 底径 6.5 cm 器高 4.4 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 良好	石英粒・白色粒
5	釘(鉄製品)		長さ 5.7 cm 最大幅 0.5 cm 最大厚 0.6 cm 重量 4.70g	断面形態は方形である。		

表 22 SE-005 出土遺物観察表

## ピット

P-62(第22・37図)

重複関係 (新)P-63 → (旧)P-62

規模・形態・構造 長軸 1.2 m、短軸 0.9 m、深さ 0.44 m。平面形は不整な橢円形である。柱痕は確認できなかった。

遺物 土師器が出土した。

P-66(第22・37図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.7 m、深さ 0.37 m。平面形は円形である。柱痕を確認した。

遺物 土師器が出土した。

P-69(第22・37図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.7 m、深さ 0.36 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。

遺物 土師器が出土した。

P-73・74(第36図)

重複関係 (新)P-74 → (旧)P-73

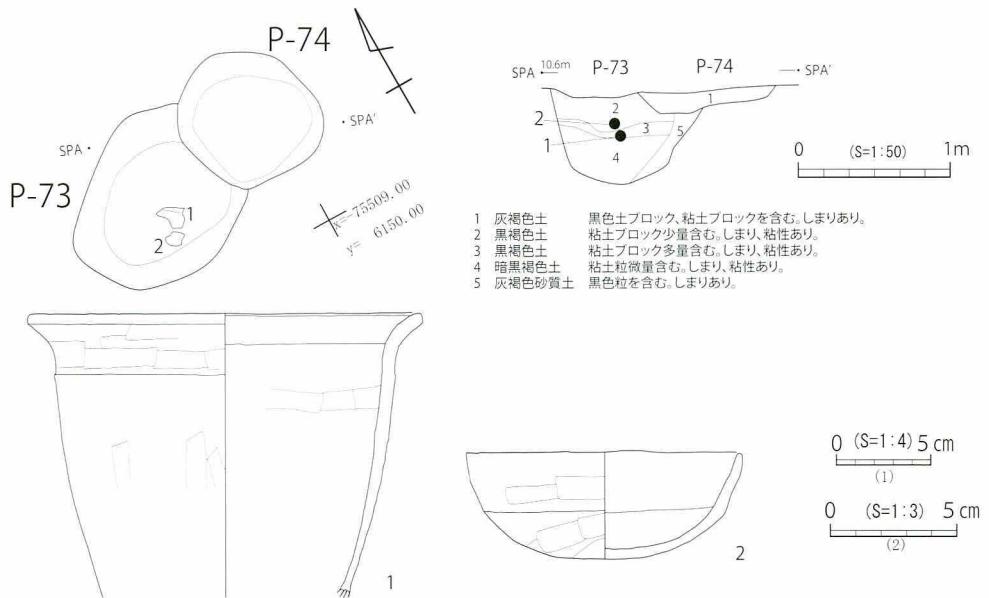
規模・形態・構造 (P-73) 検出部分の長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.55 m。平面形は不整な橢円形である。

底面より 20 cm 上の高さで湧水する。 (P-74) 直径 0.9 m、深さ 0.1 m。平面形は円形である。

遺物 (P-73) 土師器が出土した。

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(土師器)	口縁部1/5	口径 11.2 cm 現存高 15.3 cm	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	赤褐色 良好	赤色粒・小石・石英粒
2	坏(土師器)	全体の3/4	口径 11.0 cm 器高 4.2 cm	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面ヨコナデ。底部にスス付着。	浅黄色 良好	細かい。砂・赤色粒・金雲母

表 23 P-73 出土遺物観察表



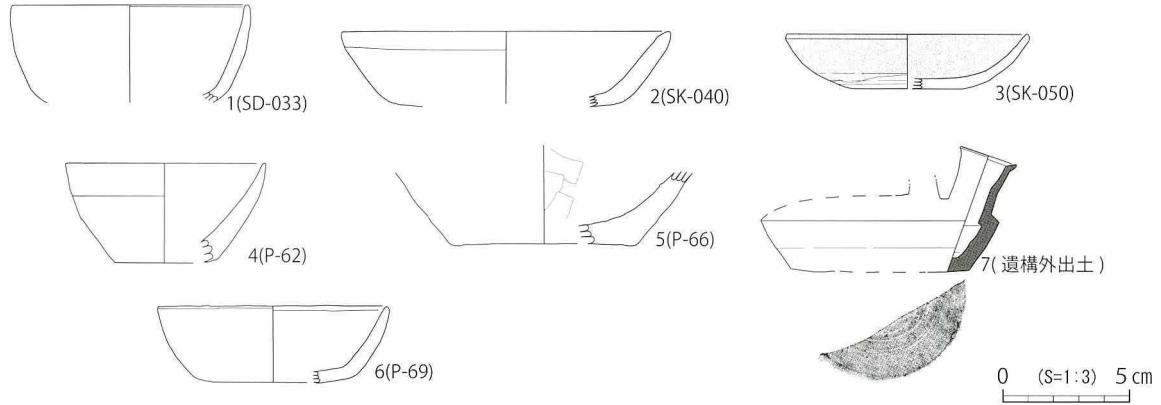
第36図 P-73・74実測図

遺構	重複	規模・形態・構造	出土遺物
P-22	なし	直径 0.9 m、深さ 0.18 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-24	なし	直径 0.8 m、深さ 0.23 m。平面形は円形である。柱痕を確認した。	土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-27	なし	直径 0.7 m、深さ 0.16 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-28	なし	直径 0.7 m、深さ 0.2 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-31	なし	直径 0.6 m、深さ 0.12 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-33	なし	長軸 0.8 m、短軸 0.4 m、深さ 0.17 m。平面形は橢円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器、須恵器が出土した。土師器坏片を含むが小片のため図示し得るものはない。
P-34	なし	直径 0.8 m、深さ 0.17 m。平面形は円形である。柱痕を確認した。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-35	なし	直径 0.7 m、深さ 0.18 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-36	なし	長軸 0.7 m、短軸 0.4 m、深さ 0.21 m。平面形は橢円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。土師器坏片を含むが小片のため図示し得るものはない。
P-37	なし	直径 0.8 m、深さ 0.23 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-46	なし	直径 0.4 m、深さ 0.27 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器、須恵器が出土した。土師器坏片を含むが小片のため図示し得るものはない。
P-61	なし	直径 0.4 m、深さ 0.23 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器、須恵器が出土した。土師器甕頸部片を含むが小片のため図示し得るものはない。
P-70	なし	直径 0.9 m、深さ 0.34 m。平面形は円形である。柱痕を確認した。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-72	(新)SD-034 →(旧)P-72	直径 0.4 m、深さ 0.21 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-76	なし	直径 0.4 m、深さ 0.18 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-77	なし	直径 0.4 m、深さ 0.1 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-78	なし	直径 1.0 m、深さ 0.13 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-79	なし	直径 0.5 m、深さ 0.15 m。平面形は円形である。柱痕を確認した。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-80	なし	長軸 0.86 m、短軸 0.2 m、深さ 0.1 m。平面形は橢円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

表24 IV区ピット観察表 (1)

P-81	なし	長軸 1.2 m、短軸 0.8 m、深さ 0.44 m。平面形は橢円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-82	なし	直径 1.0 m、深さ 0.13 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-86	なし	直径 1.0 m、深さ 0.29 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

表 24 IV区ピット観察表 (2)



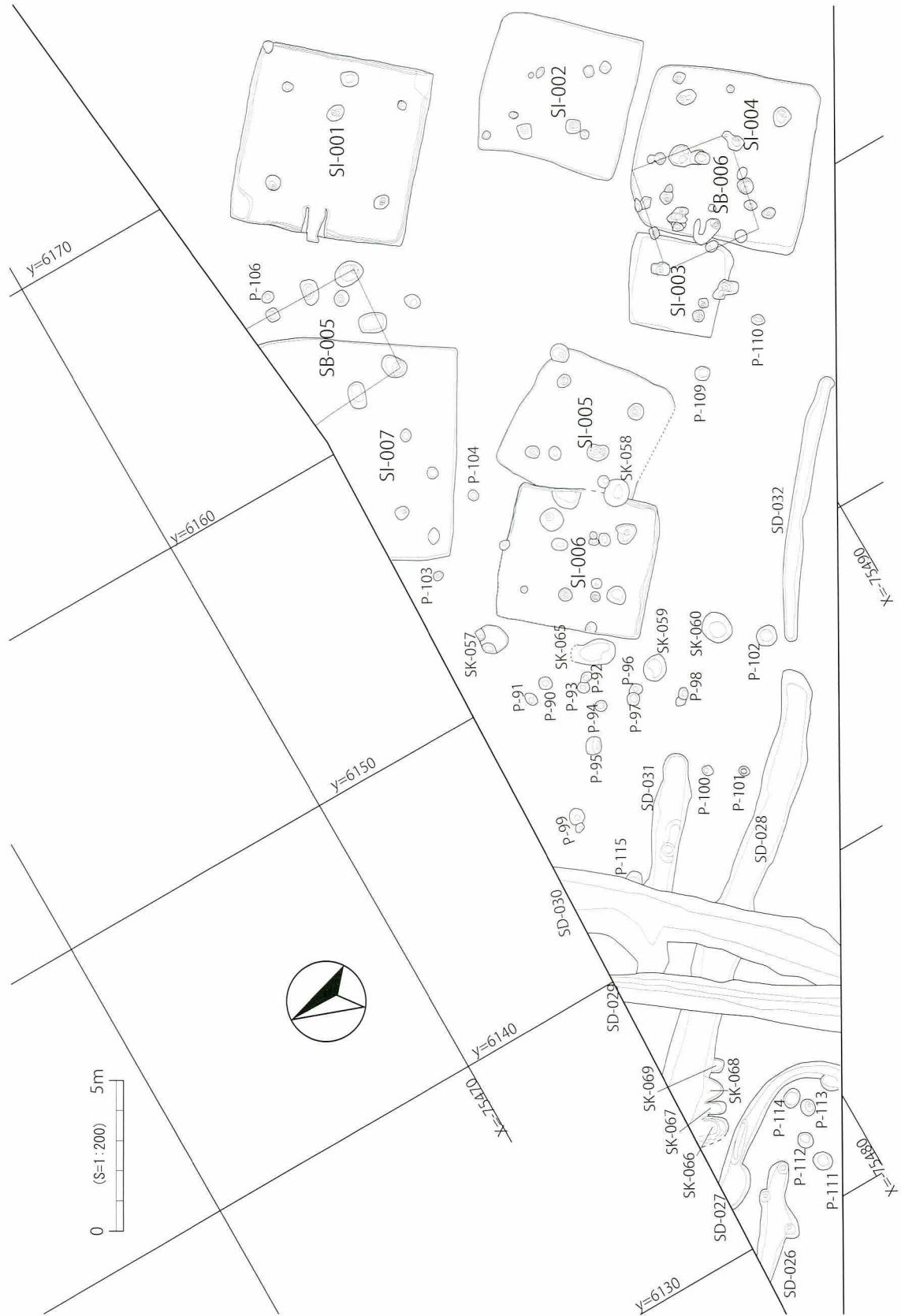
第37図 IV区出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(土師器) SD-033	口縁部 1/6	口径 9.6 cm 現存高 3.9 cm	摩耗激しく調整不明。	明赤褐色 不良	細かい。白色粒・砂
2	壺(土師器) SK-040	口縁部～底 部 1/6	口径 12.9 cm 底径 8.8 cm 器高 2.7 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	小石・白色粒・赤色 粒
3	燈明皿(磁器) SK-050	口縁部～底 部 1/6	口径 9.6 cm 底径 4.8 cm 器高 2.2 cm	口クロ成形。外面上部、内面に鉄釉を施釉。	灰白色 良好	細かい。砂・白色粒
4	壺(土師器) P-62	口縁部～底 部 1/6	口径 8.0 cm 底径 4.2 cm 器高 3.9 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	赤色粒・砂・金雲母
5	壺(土師器) P-66	底部 1/4	底径 7.4 cm 現存高 3.0 cm	外面ヨコナデ。内面横方向ヘラケズリ。	明赤褐色 不良	赤色粒・砂・石英
6	壺(土師器) P-69	口縁部～底 部 1/6	口径 9.2 cm 底径 4.3 cm 器高 3.0 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	砂・金雲母
7	小型平瓶(須恵器) 遺構外出土	全体の 1/3	口径 2.4 cm 底径 7.2 cm 器高 5.0 cm	口クロ成形。外面上部、口唇部に施釉。	灰色 良好	小石・白色粒

表 25 IV区出土遺物観察表

6 V区(第38図~第52図)

第38図 V区遺構配置図



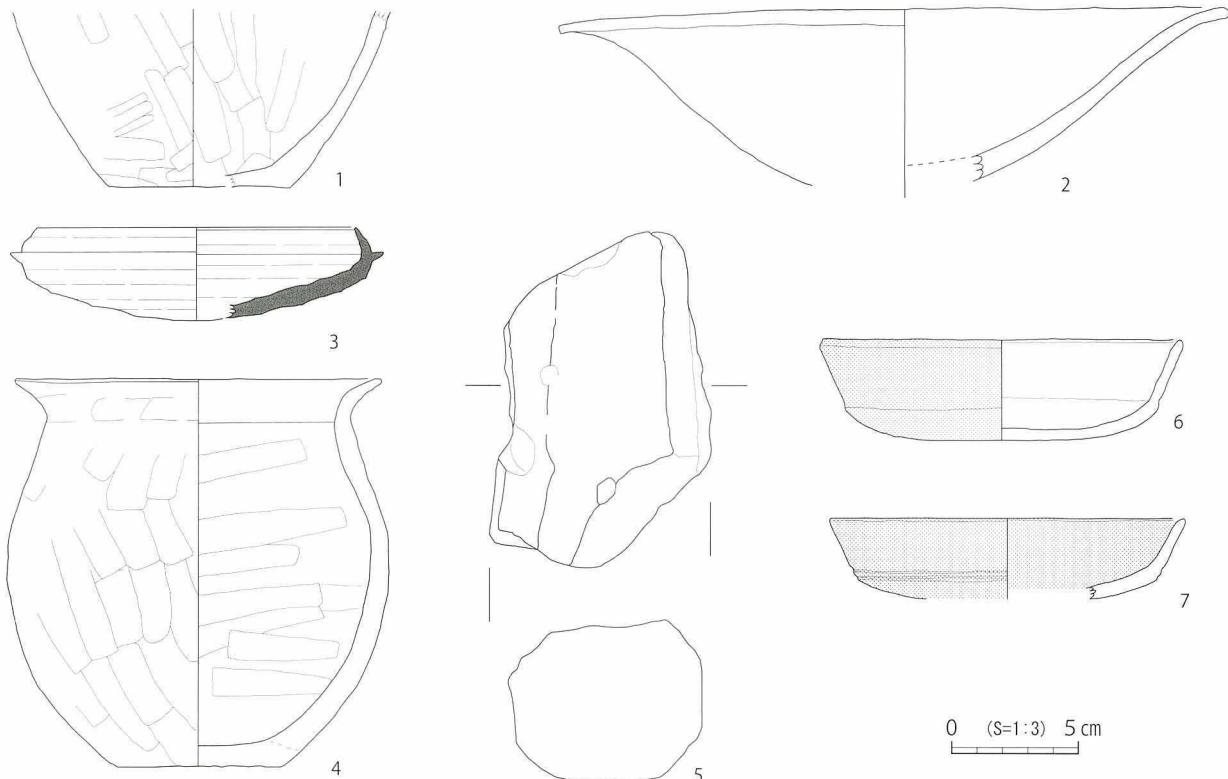
## 豊穴住居跡

SI-001(第 39・40 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 1辺 5.8 m、深さ 0.11 m である。平面形は正方形である。遺構上部は大きく削平を受けており、本来の掘り込みは深かったと考えられる。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は全面で検出した。床面は平坦であるが、硬化面は確認されなかった。主柱穴は P-1 ~ 4、はしご穴は P-5 である。P-1・3・4 では柱痕跡を確認した。はしご穴は P-5 の可能性が高いが掘方が大きい。カマドは粘土で構築した両袖の一部と支脚が残る。カマドの周囲からは焼土を検出した。貯蔵穴は確認できなかった。

遺物 古墳時代後期の須恵器壺、土師器壺・高壺・小型壺等が出土し、図示した。遺物はカマド周囲にのみ集中している。



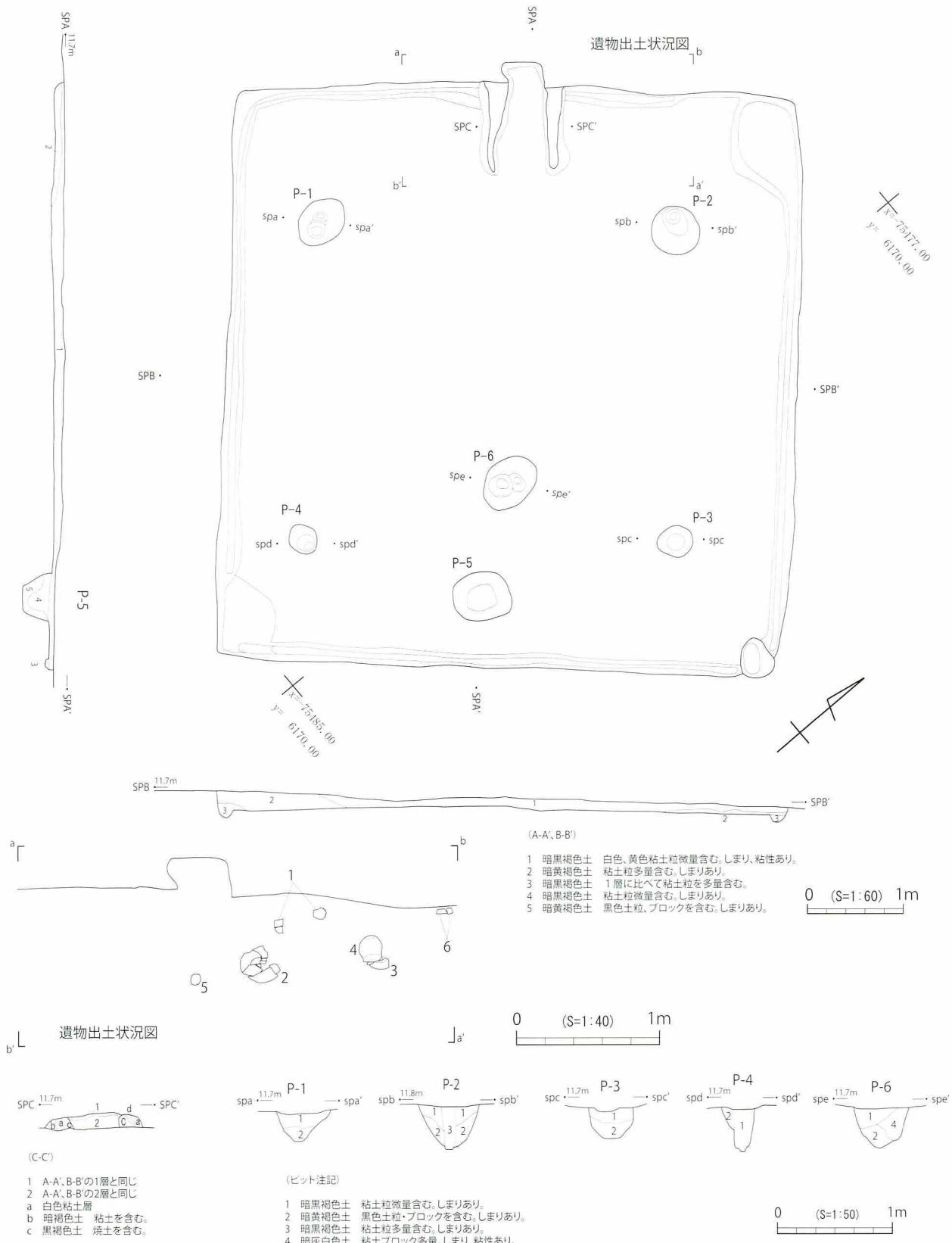
第 39 図 SI-001 出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	鉢(土師器)	体部～底部 1/3	底径 7.8 cm 現存高 7.1 cm	内外面ともヘラケズリ。	にぶい黄橙色 良好	赤色粒・小石・石英粒
2	高壺(土師器)	壺部 2/3	口径 26.8 cm 現存高 7.6 cm	摩耗激しく調整不明。一部にヨコナデ、赤彩確認。	橙色 不良	赤色粒・白色粒・金雲母
3	壺(須恵器)	口縁部～底部 1/3	口径 12.9 cm 現存高 3.6 cm	ロクロ成形。口縁部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。	灰色 良好	小石・白色粒・砂
4	小型壺(土師器)	全体の 1/2	口径 14.5 cm 底径 6.6 cm 現存高 15.6 cm	外面ヘラケズリ。内面横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。	にぶい赤褐色 良好	石英・小石・赤色粒
5	支脚	全体の 2/3	最大幅 7.4 cm 最大厚 6.2 cm 現存高 11.7 cm	非常にろく、調整等確認できず。	橙色 不良	細かい。砂
6	壺(土師器)	全体の 1/3	口径 14.6 cm 底径 5.0 cm 器高 4.1 cm	内外面とも上部ヨコナデ。外面は赤彩を施す。	(内) 明黄褐色 (外) 赤色 良好	石英・赤色粒・砂

表 26 SI-001 出土遺物観察表 (1)

7	壺(土師器)	口縁部1/6	口径 14.4 cm	内外面にヨコナデ、赤彩を施す。外面稜部分に沈線2本。	赤色 良好	赤色粒・砂
---	--------	--------	------------	----------------------------	----------	-------

表 26 SI-001 出土遺物観察表 (2)



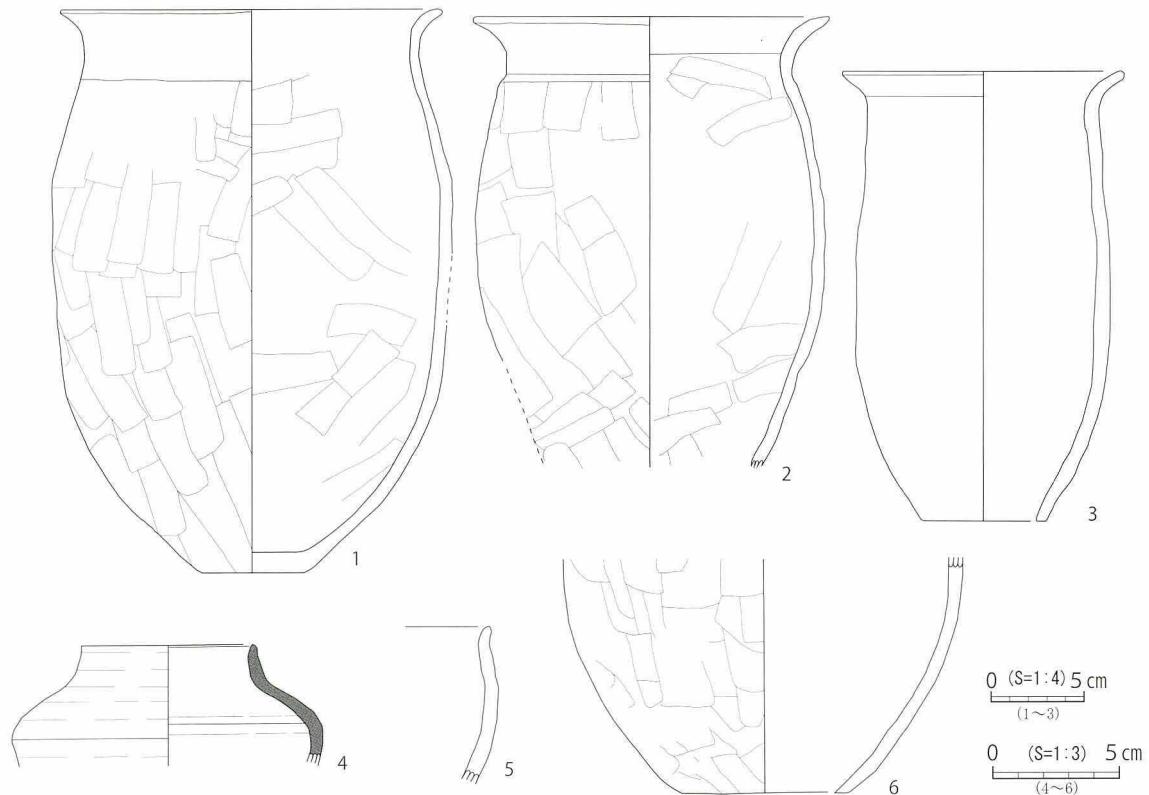
第 40 図 SI-001 遺構実測図

## SI-002(第41・42図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 1辺4.7～4.5m、深さ0.05～0.07mである。平面形は正方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。SI-001と同様で遺構上部は、大きく削平を受けており、一部では壁も確認できなかった。壁溝は確認できなかった。床面は平坦であるが、硬化面は確認されなかった。主柱穴はP-2・4・7である。P-2は1辺0.22m、深さ0.32m。平面形は方形で、柱痕跡を確認した。P-4は長軸0.2m、短軸0.3m、深さ0.15m。平面形は橢円形である。P-7は長軸0.38m、短軸0.32m、深さ0.17m。平面形は橢円形である。カマド、貯蔵穴は確認できなかった。焼土や粘土も検出されなかった。

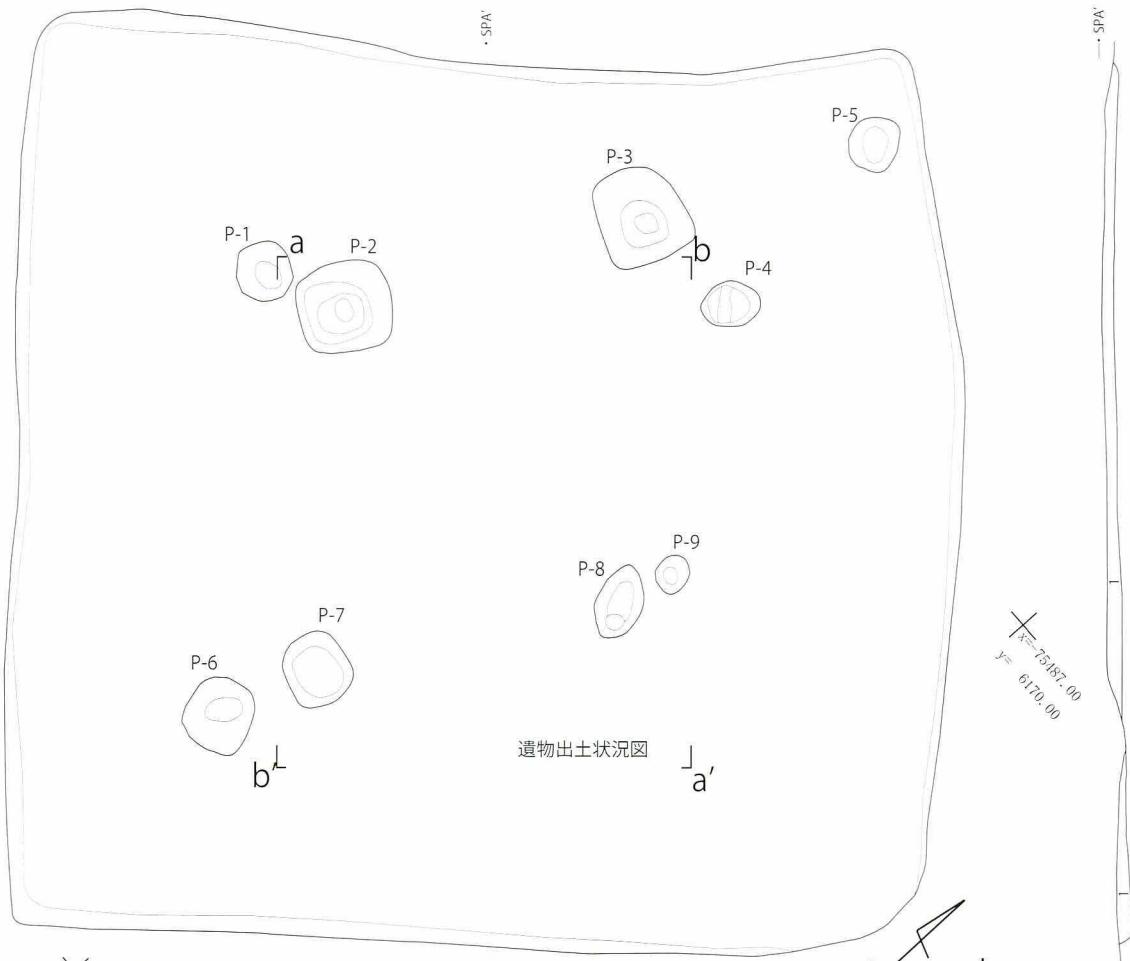
遺物 土師器、須恵器が出土した。遺物は住居中央で出土した。出土状況図から同一器種が、一か所にまとまっていることがわかる。個体は長胴甕と瓶が2セット、須恵器短頸壺、土師器壺が出土した。図示していないものも含めて壺が他器種に比べて少ない。



第41図 SI-002出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	長胴甕（土師器）	全体の2/3	口径 20.4 cm 底径 5.6 cm 器高 30.0 cm	内外面上部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。	明赤褐色 良好	赤色粒・石英・小石
2	長胴甕（土師器）	口縁部～体部 1/3	口径 19.2 cm 現存高 24.0 cm	内外面上部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	橙色 良好	赤色粒・石英・小石
3	瓶（土師器）	全体の2/3	口径 15.2 cm 底径 6.6 cm 器高 24.0 cm	摩耗激しく調整不明。外面スス付着。	橙色 不良	赤色粒・石英・小石
4	短頸壺（須恵器）	口縁部～肩部 1/3	口径 7.0 cm 現存高 4.9 cm	ロクロ成形。外面頸部～肩部にかけ自然釉が散見。	灰色 良好	白色粒・砂
5	壺（土師器）	口縁部～体部 片	現存高 6.4 cm	口縁部ヨコナデ。外面体部ヘラケズリ。	橙色 良好	小石・石英
6	瓶（土師器）	体部～底部 1/3	口径 6.6 cm 現存高 9.4 cm	外面ヘラケズリ。内面下方向ナデ。外面スス付着。	明黄褐色 良好	小石・赤色粒・石英

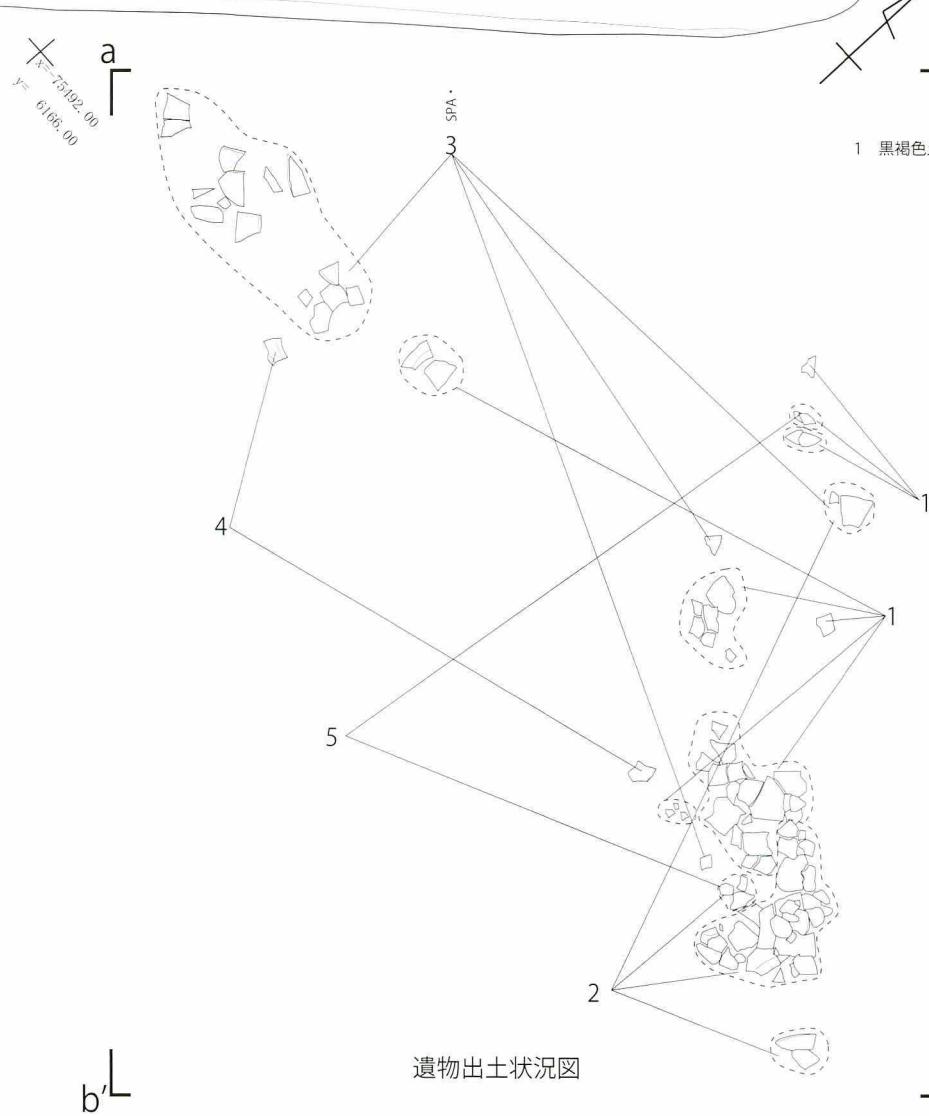
表27 SI-002出土遺物観察表



遺物出土状況図

1 黒褐色土 白色粘土粒を微量含む。しまり、粘性あり。

0 (S=1:40) 1m



遺物出土状況図

第 42 図 SI-002 遺構実測図

### SI-003(第43・44図)

重複関係 (新)SB-006 → (旧)SI-003

規模・形態・構造 1辺2.7～3.0m、深さ0.08mである。平面形は正方形である。遺構上部は、大きく削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出されなかった。床面は平坦で、掘方には粘土に黒色ブロック・粒を混ぜた土を貼っている。主柱穴はP-3である。直径0.4m、深さ0.41m。平面形態は円形で、柱痕跡を確認した。他にもピットを検出したが、住居に伴うものは不明である。カマド、貯蔵穴は確認できなかった。焼土や粘土が覆土に少量混じるが、明瞭な堆積は確認できなかった。

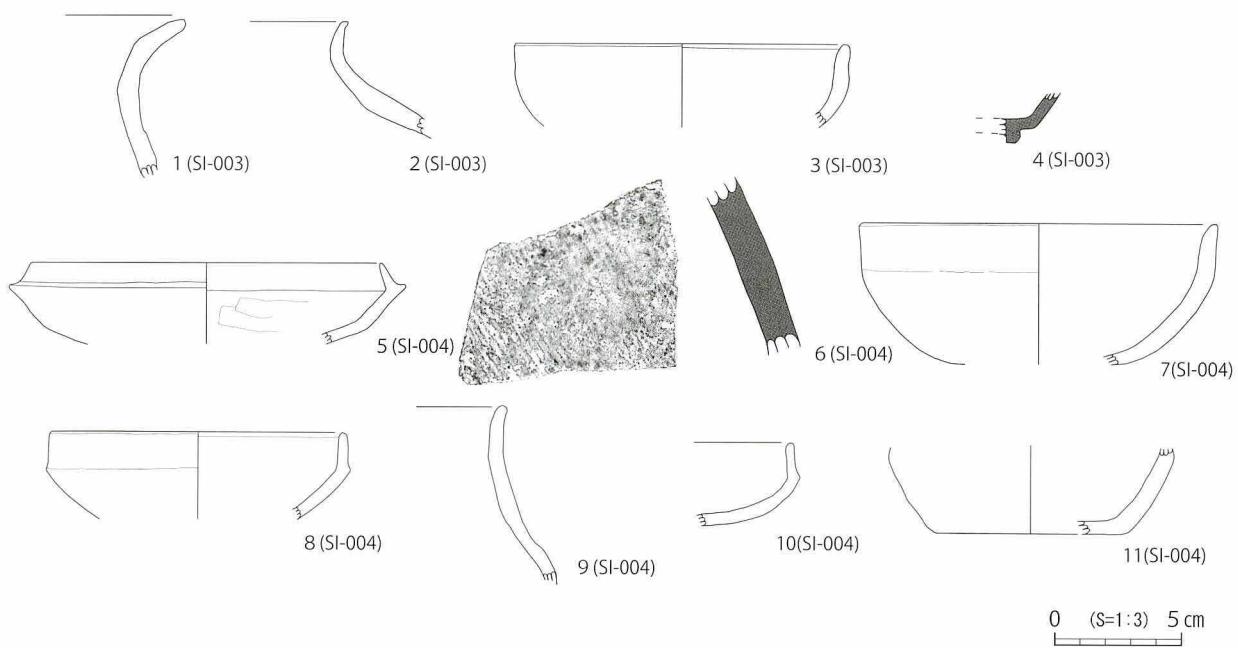
遺物 土師器、須恵器が出土した。鉄滓は5点出土し、総重量は10gである。1はP-3直上の住居覆土から出土した。

### SI-004(第43・44図)

重複関係 (新)SB-006 → (旧)SI-004

規模・形態・構造 1辺5.6～5.8m、深さ0.13mである。平面形はほぼ正方形である。遺構上部は、大きく削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出されなかった。床面は平坦で、SI-003同様、床土を掘方に貼っている。主柱穴はP-1～4である。主柱穴すべてで柱痕跡を確認した。P-1は長軸0.45m、短軸0.3m、深さ0.38m。平面形は不整な橢円形である。P-2は直径0.4m、深さ0.52m。平面形は円形である。P-3は長軸0.6m、0.45m、深さ0.44m。平面形は橢円形である。P-4は直径0.6m、深さ0.4m。平面形は円形である。はしご穴はP-5で、直径0.25m、深さ0.15m。平面形は円形で、柱痕跡は確認できなかった。北西壁中央部の焼土が集中した部分が、カマドであった可能性が高い。貯蔵穴は確認できなかった。

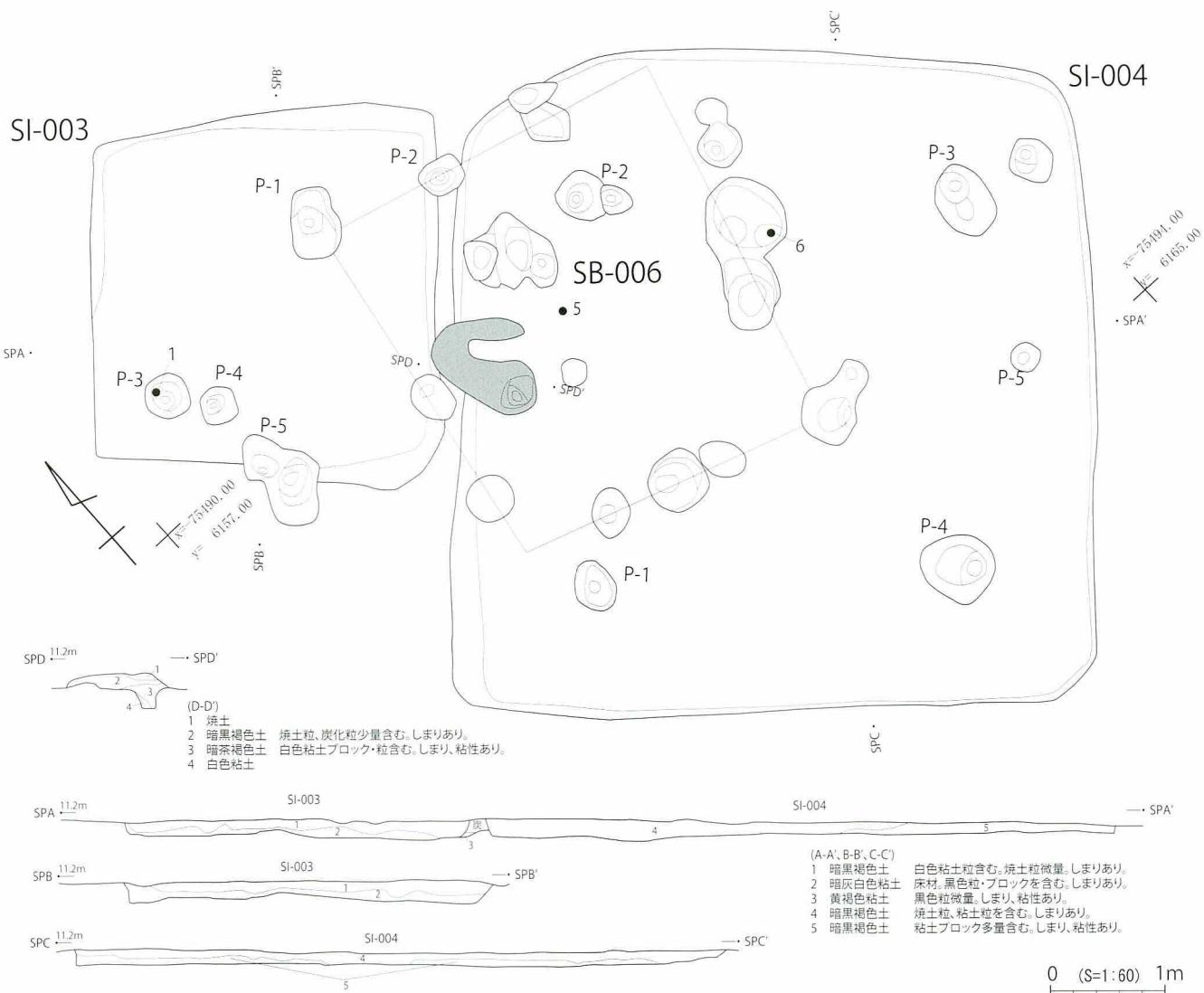
遺物 土師器、須恵器が出土した。鉄滓は8点出土し、総重量は20.2g出土である。土師器壺や甕、須恵器甕が2層直上から出土した。6はピット直上の住居覆土から出土した。



第43図 SI-003・004出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(土師器) SI-003	口縁部片	現存高 6.0 cm	内外面上部ナデ。	明黄褐色 不良	赤色粒・白色粒
2	甕(土師器) SI-003	口縁部片	現存高 3.9 cm	摩耗激しく調整不明。	黄褐色 不良	赤色粒・石英
3	壺(土師器) SI-003	口縁部 1/5	口径 13.4 cm 現存高 3.4 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	砂・白色粒
4	高台付壺(須恵器) SI-003	底部片	現存高 1.85 cm	口クロ成形。	黄灰色 良好	細かい。白色粒・砂
5	壺(土師器) SI-004	口縁部 1/6	口径 14.0 cm 現存高 3.3 cm	口縁部ヨコナデ。内面ミガキ。	明黄褐色 良好	細かい。赤色粒・砂・白色粒
6	甕(須恵器) SI-004	胴部片	現存高 6.8 cm	外面平行タタキ。内面ヘラナデ。外面に施釉。	灰白色 良好	白色粒・黒色粒・砂
7	壺(土師器) SI-004	口縁部 1/6	口径 14.4 cm 現存高 5.6 cm	摩耗激しく調整不明。	にぶい黄褐色 不良	細かい。白色粒・砂
8	壺(土師器) SI-004	口縁部 1/5	口径 11.8 cm 現存高 3.5 cm	口縁部ヨコナデ。外面下部にスス付着。	黄褐色 良好	赤色粒・砂
9	短頸壺(土師器) SI-004	口縁部～頸部	現存高 7.2 cm	摩耗激しく不明。	褐色 不良	小石・赤色粒
10	壺(土師器) SI-004	口縁部片	現存高 3.3 cm	口縁部ヨコナデ。底部スス付着。	明黄褐色 不良	赤色粒・砂
11	壺(土師器) SI-004	底部 1/5	底径 7.6 cm 器高 3.5 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	赤色粒・白色粒・石英

表 28 SI-003・004 出土遺物觀察表



第44図 SI-003・004 遺構実測図

### SI-005(第45・46図)

重複関係 (新)SI-006→(旧)SI-005、SK-058

規模・形態・構造 1辺4.5～4.7m、深さ0.09mである。平面形は正方形である。遺構上部は、大きく削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は全検出されなかった。床面は平坦で、掘方に粘土に黒色ブロック・粒を混ぜた土を貼っている。主柱穴はP-1～3・7である。P-1は長軸0.5m、短軸0.35m、深さ0.59m。平面形は橢円形で、柱痕を確認した。P-2は直径0.5m、深さ0.33m。平面形は円形で、柱痕を確認した。P-3は長軸0.45m、短軸0.3m、深さ0.28m。平面形は橢円形で、柱痕を確認した。P-7は直径0.35m、深さ0.52m。平面形は円形である。他にもピットを検出したが、住居に伴うものかは不明である。カマド、貯蔵穴は確認できなかった。

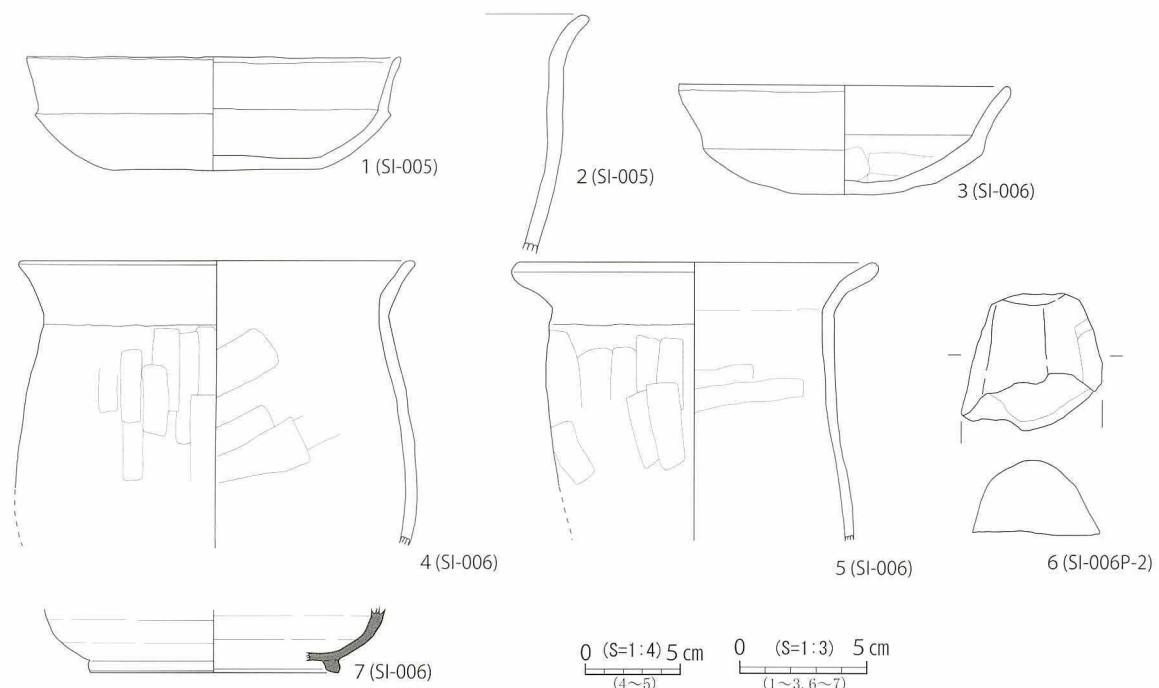
遺物 土師器、須恵器が出土した。鉄滓は2点出土し、総重量は30.1gである。1は住居覆土からの出土である。

### SI-006(第45・46図)

重複関係 (新)SI-006→(旧)SI-005、SK-058

規模・形態・構造 1辺4.4～4.7m、深さ0.08mである。平面形はほぼ正方形である。遺構上部は、大きく削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁溝は南壁で検出された。床面は平坦で、SI-005同様床土を掘方に貼っている。主柱穴はP-1・3・9・10である。P-1は直径0.3m、深さ0.31m。平面形は円形である。P-3は1辺0.7m、深さ0.4m。平面形は隅丸方形で、柱痕を確認した。P-9は直径0.6m、深さ0.34m。平面形は不整な円形である。P-10は長軸0.75m、短軸0.5m、深さ0.38m。平面形は不整形な橢円形で東側に突出部をもつ。柱痕を確認した。カマド、貯蔵穴は確認できなかった。

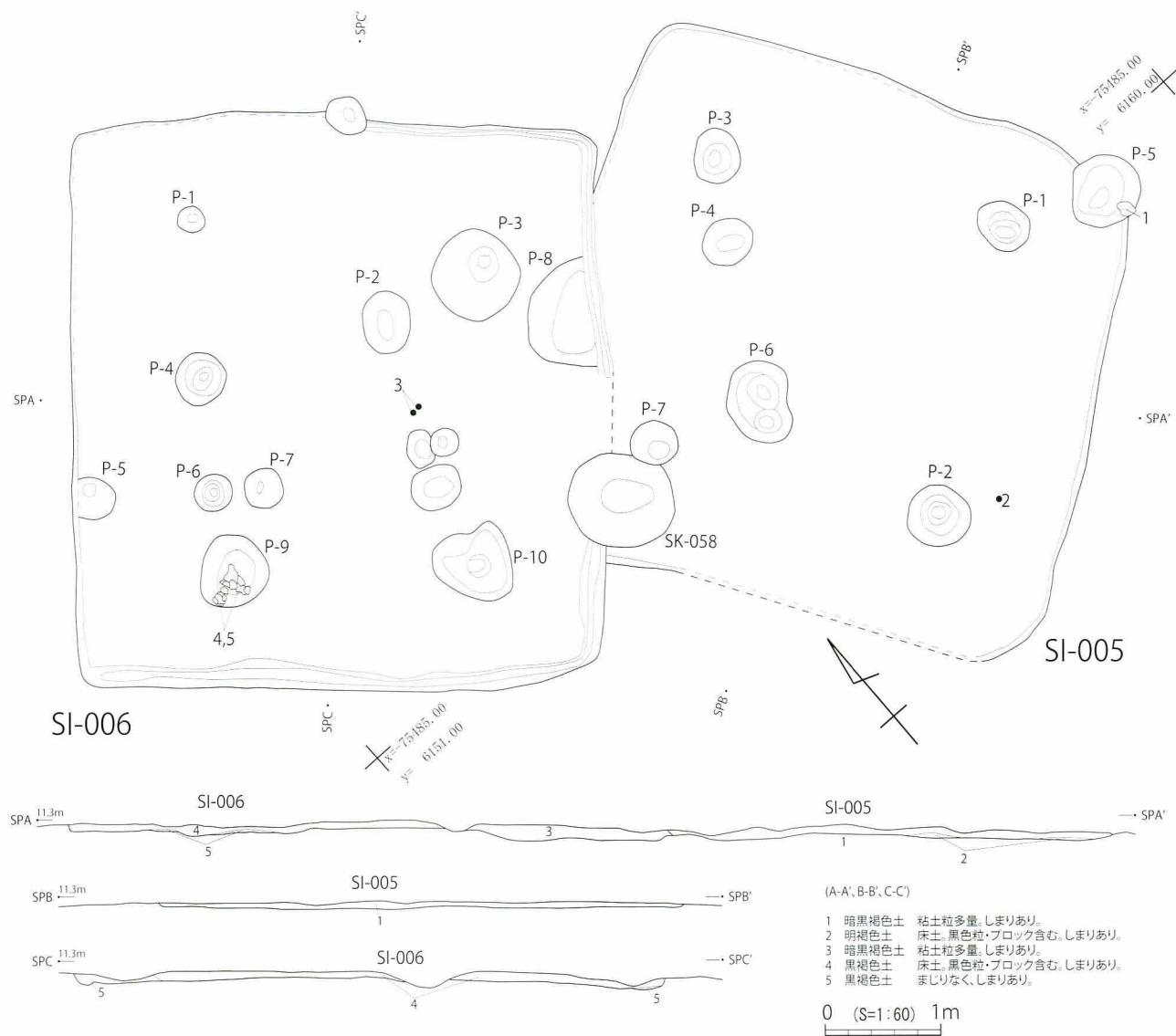
遺物 土師器、須恵器が出土した。鉄滓は1点出土し、重量は0.2gである。4・5土師器の長胴甕は住居覆土中からまとめて出土した。6支脚はP-2覆土からの出土である。



第45図 SI-005・006出土遺物実測図

N0	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	壺(土師器) SI-005	口縁部～底部 1/3	口径 15 cm 器高 4.6 cm	摩耗激しく調整不明。	黄褐色 不良	赤色粒・砂
2	甕(土師器) SI-005	口縁部片	現存高 9.6 cm	口縁部ヨコナデ。	橙色 不良	白色粒・小石・石英
3	壺(土師器) SI-006	口縁部～底部 1/3	口径 13.2 cm 器高 4.4 cm	外面口縁部ヨコナデ。内外面とも体部～底部へラケズリ。	明黄褐色 良好	細かい。砂・赤色粒
4	甕(土師器) SI-006	口縁部～胴部 1/3	口径 20.6 cm 残存高 15.3 cm	外面口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。内面横方向へラケズリ。	赤褐色 不良	赤色粒・砂・小石
5	長胴甕(土師器) SI-006	口縁部～胴部 1/2	口径 19.3 cm 残存高 14.8 cm	土器が非常に薄い。内外面とも口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。	明赤褐色 良好	赤色粒・白色粒
6	支脚(土製) SI-006 P-2		最大厚 5.3 cm 残存高 5.5 cm	側面ヨコナデ。	橙色 良好	砂・赤色粒
7	高台付壺(須恵器) SI-006	底部 1/6	底径 10.5 cm 残存高 2.6 cm	ロクロ成形。高台部分へラケズリ。	灰色 良好	黒色粒・白色粒

表 29 SI-005・006 出土遺物観察表



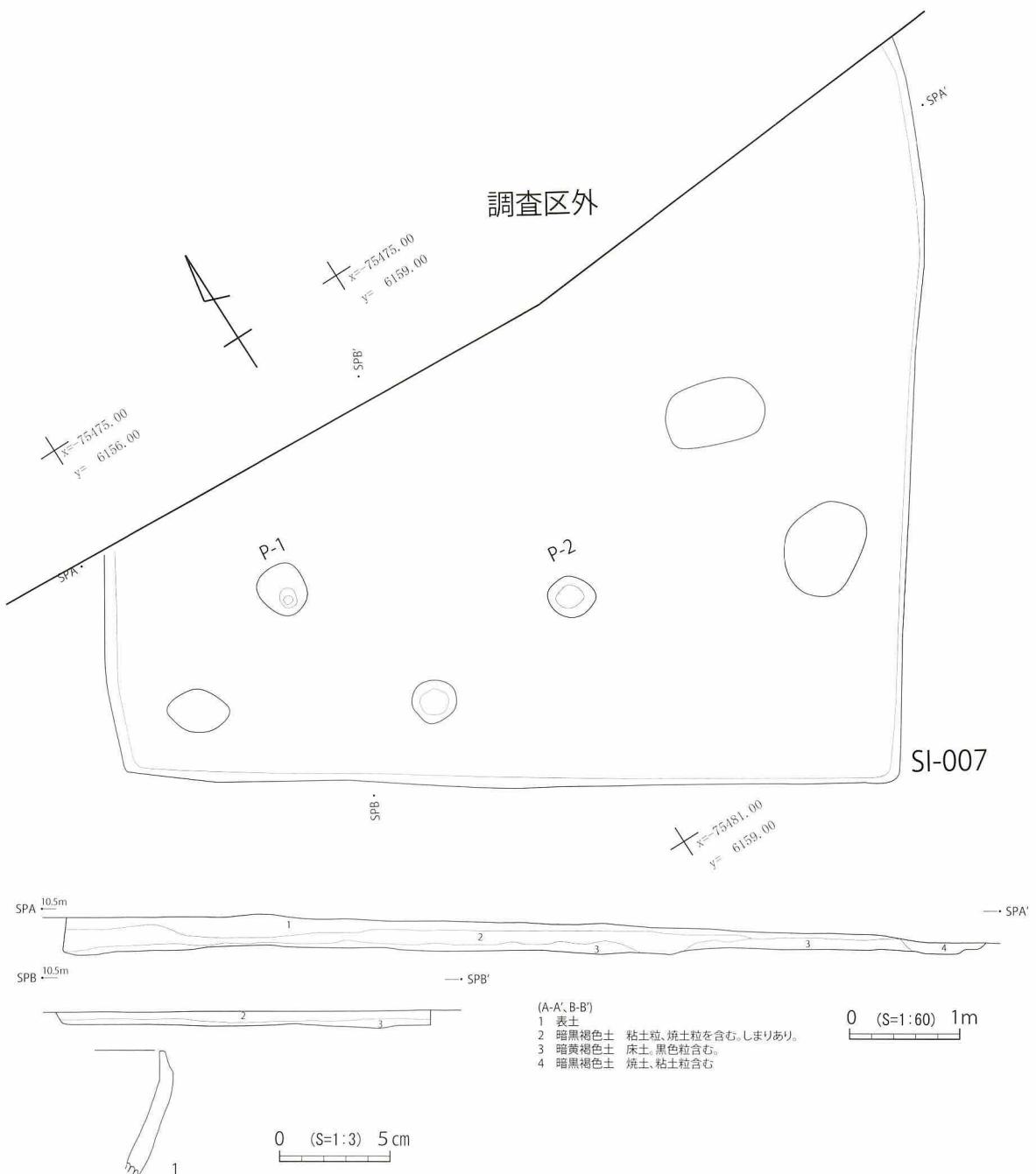
第 46 図 SI-005・006 遺構実測図

SI-007(第47図)

重複関係 (新)SI-007 → (旧)SB-005

規模・形態・構造 検出部分で1辺7.0m、深さ0.08mである。平面形はほぼ正方形と推定される。遺構上部は、大きく削平を受けている。確認できた壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は検出されなかつた。床面は平坦で、掘方にブロックを含んだ土を貼っている。検出部分では、カマド、貯蔵穴は確認できなかつた。A-A'の東側で焼土が集中した箇所が確認できたため、調査区外にカマド等の施設がある可能性が高い。

遺物 土師器、須恵器が出土した。鉄滓は1点出土し、重量は0.05gである。



第47図 SI-007 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	境(土師器)	口縁部片	残存高 5.9cm	摩耗激しく調整不明。	明赤褐色 不良	赤色粒・白色粒

表30 SI-007 出土遺物観察表

## 掘立柱建物跡

SB-005 (旧) SK-061 ~ 63・070・071、P-108 (第 48 図)

重複関係 (新) SI-007 → (旧) SB-005

規模・形態・構造 北側が調査区外で、確認できたのは桁行 2 間、梁行 2 間。柱間は梁行で 3.5 m である。桁行を基準に主軸は、N - 2° - W である。柱穴の平面形は、楕円形及び円形である。平面図からの観察で、b・d・c で柱痕を確認した。P-1 が c と主軸が合う。P-1 は直径 0.5 m、深さ 0.4 m で平面形は円形である。北側が調査区外となっているため対の柱が確認できていないが、独立棟持柱の可能性もある。

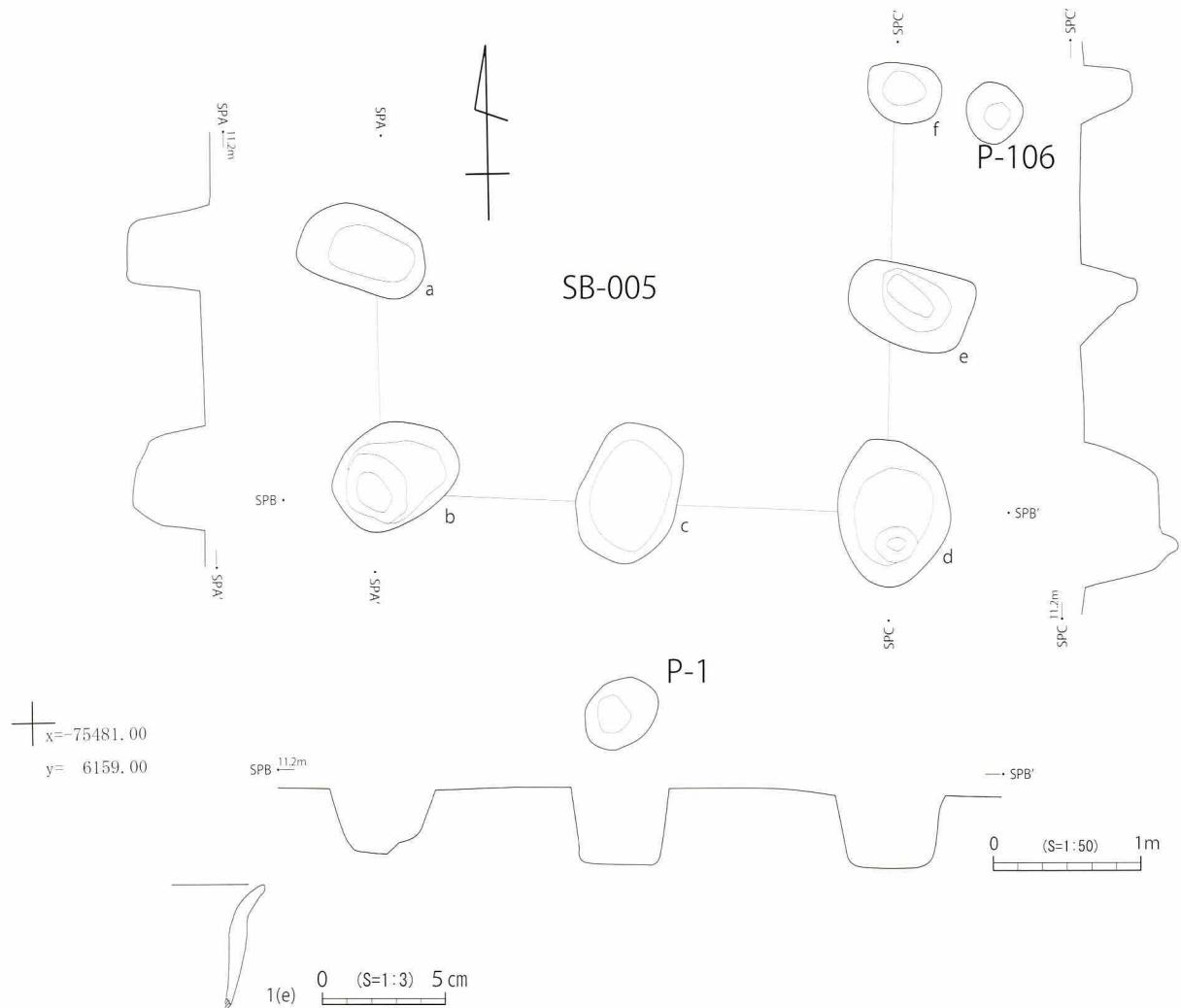
遺物 土師器、須恵器が出土した。1 は e の覆土から出土した。

SB-006 (第 44 図)

重複関係 (新) SB-006 → (旧) SI-003・004

規模・形態・構造 北東面と南西面の柱穴は確認できなかったが、桁行 3 間、梁行 3 間。柱間は桁行で 3.2 m、梁行で 3.2 m である。桁行を基準に主軸は、N - 10° - E である。

遺物 なし



第 48 図 SB-005 実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(土師器)	口縁部片	残存高 5.1 cm	外面は摩耗激しく調整不明。内面はヨコナデ。	橙色 不良	赤色粒・砂

表 31 SB-005 出土遺物観察表

## 溝跡

SD-026(第49・50図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.7～1.3m、深さ0.11～0.20m、検出部分の長さ3.7m。南東～北西方向に走る溝で、断面形は皿状である。底面にピット状の掘り込みがある。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SD-027(第49・50図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.5～1.0m、深さ0.15m、検出部分の長さ6.5m。北西～南東方向に蛇行した溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SD-028(第49・50図)

重複関係 (新)SD-029・030→SD-028→(旧)SK-66～069

規模・形態・構造 幅1.13m、深さ0.26m、検出部分の長さ15.4m。南東～北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。土師器の長胴甕は破片の状態で一か所に集中して出土した。臼玉は、溝の東側で出土した。

SD-029(第49・50図)

重複関係 (新)SD-029→(旧)SD-028・031

規模・形態・構造 幅1.0～1.6m、深さ0.4m、検出部分の長さ7.6m。南西～北東方向に走る溝で、西側にテラスがあり、底面は平坦である。

遺物 土師器、須恵器が出土した。

SD-030(第49図)

重複関係 (新)SD-030→(旧)SD-028・031、P-115

規模・形態・構造 幅1.5～2.0m、深さ0.55m、検出部分の長さ9.7m。南西～北東方向に走る溝で、SD-029と平行している。断面形は皿状である。

遺物 土師器が出土した。土師器甕が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SD-031(第49図)

重複関係 (新)SD-029・030→(旧)SD-031

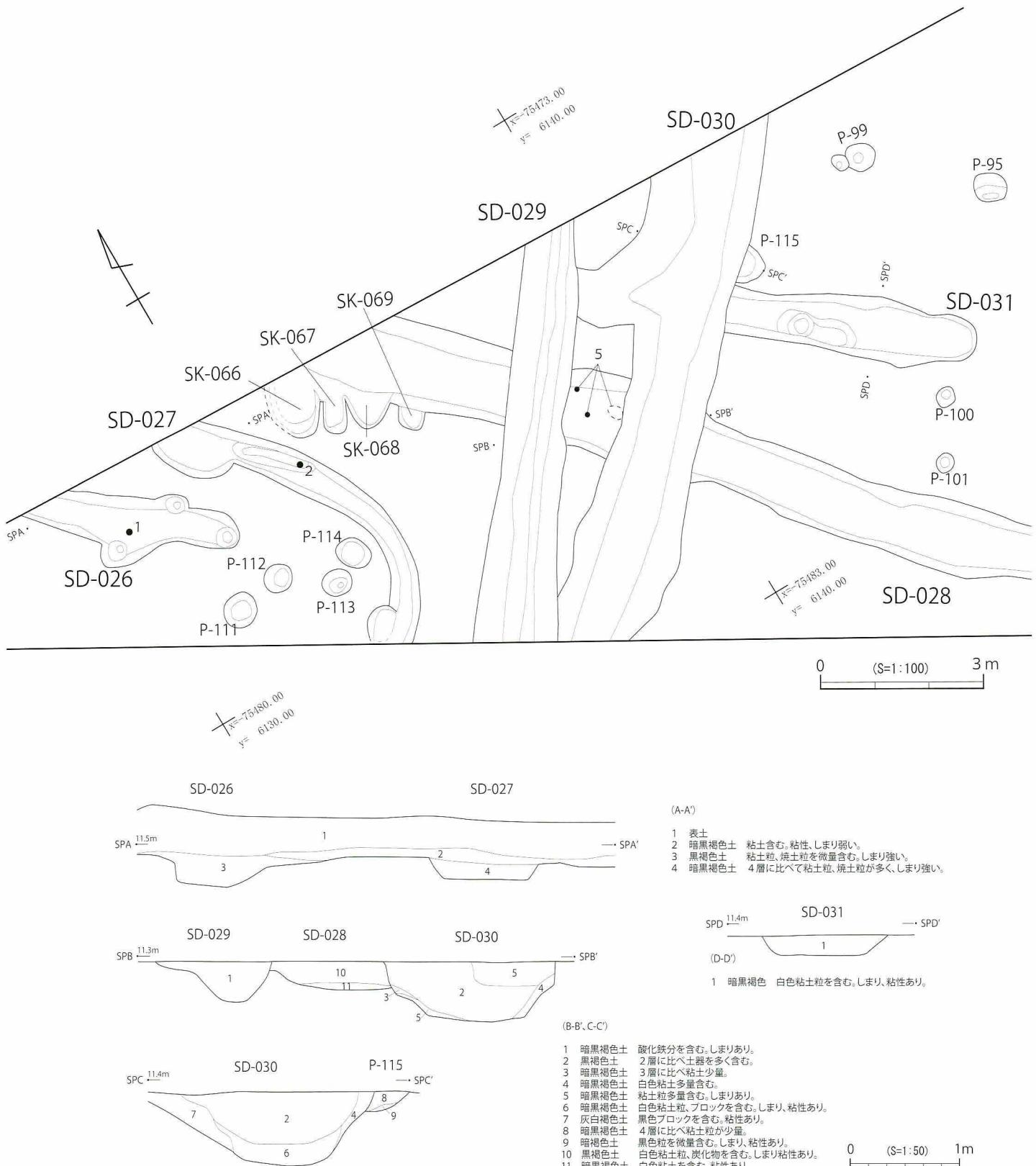
規模・形態・構造 幅0.9～1.2m、深さ0.2m、検出部分の長さは4.6m。南西～北東方向に走る溝で、SD-028と平行している。断面形は逆台形状である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

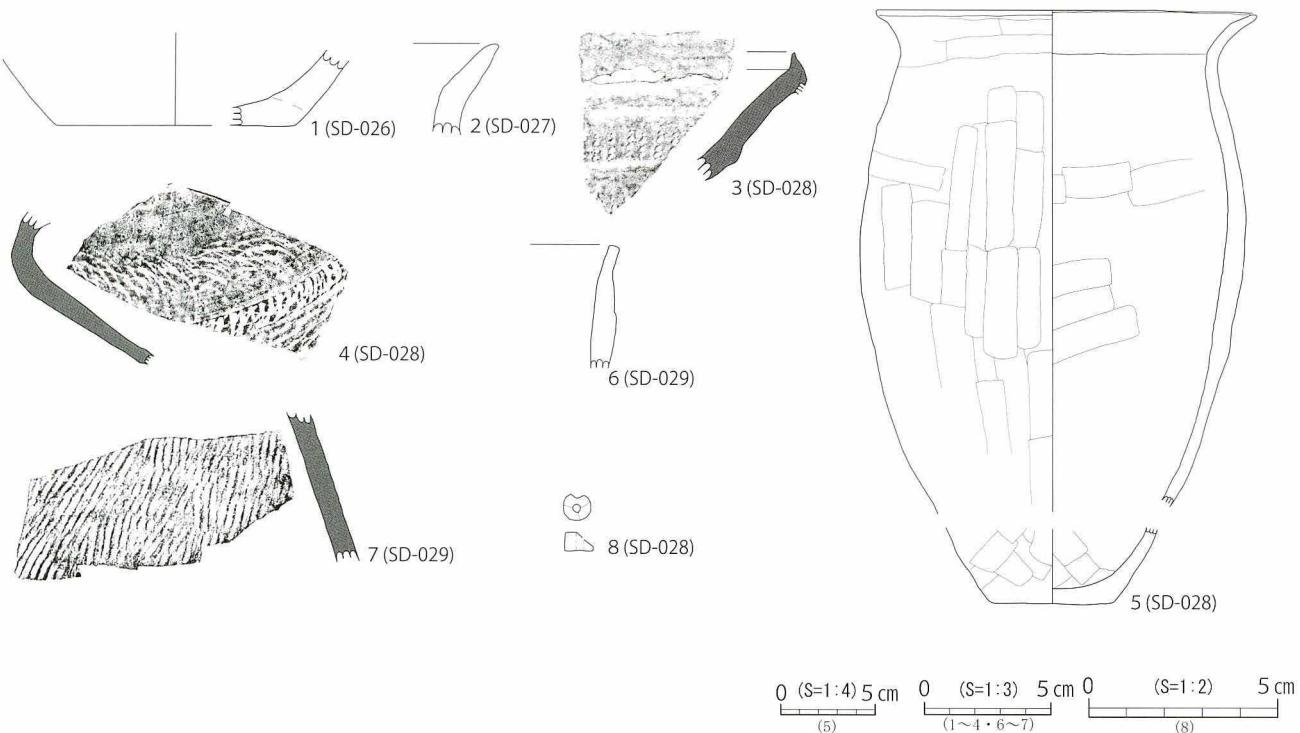
SD-032(第38図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 幅0.5m、深さ0.15m、長さ9.0m。南東-北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。



第49図 V区西部遺構実測図



第 50 図 SD-026 ~ 029 出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕(土師器) SD-026	底部 1/3	底径 9.6 cm 現存高 2.5 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	赤色粒・小石・石英
2	甕(土師器) SD-027		口縁部片	外面ともヨコナデ。	明赤褐色 不良	赤色粒・小石・石英
3	壺(須恵器) SD-028		口縁部片	ロクロ成形。口唇部ヨコナデ。外面に刺突痕あり。	灰色 良好	白色粒・砂・黒色粒
4	甕(須恵器) SD-028		頸部~肩部	ロクロ成形。頸部ヨコナデ。外面に平行タタキ。内面にあて具痕が残る。自然釉が散見。	灰色 良好	赤色粒・砂・小石
5	長胴甕(土師器) SD-028	口縁部~体 部 1/3 底部 1/2	口径 19.3 cm 現存高 14.8 cm	土器が非常に薄い。内外面とも口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	明赤褐色 良好	黒色粒・砂・白色粒
6	壺(土師器) SD-029		口縁部片	口縁部ヨコナデ。	橙色 不良	小石・赤色粒
7	甕(須恵器) SD-029		胴部片	ロクロ成形。外面に平行タタキ。内面ナデ。	灰白色 良好	白色粒・黒色粒・小石
8	臼玉(石製) SD-028	一部欠損	直径 0.75 cm 孔径 0.25 cm 最大高 0.5 cm	側面縦方向の研磨。緑色凝灰岩。		

表 32 SD-026 ~ 029 出土遺物観察表

遺物 土師器が出土した。壺の口縁部片が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

## 土坑

SK-057(第 38 図)

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.9 m、深さ 0.15 m。平面形は不整な円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、ピット状の掘り込みが 2 か所ある。底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。平底の壺が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。

SK-058(第 51・52 図)

重複関係 (新)SI-006・007 → (旧)SK-058

**規模・形態・構造** 直径 0.9 m、深さ 0.45 m。平面形は円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器が出土した。鉄滓が 2 点出土し、総重量は 0.5g である。

**SK-059(第 51・52 図)**

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 直径 1.0 m、深さ 0.2 m。平面形は不整な円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器が出土した。

**SK-060(第 38 図)**

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 直径 0.95 m、深さ 0.36 m。平面形は円形である。壁はゆるやかに立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器が出土した。鉄滓が 1 点出土し、重量は 0.5g である。小片のため図示し得るものはない。

**SK-065(第 51・52 図)**

**重複関係** なし

**規模・形態・構造** 長軸 1.89 m、短軸 1.02 m、深さ 0.2 m。平面形は不整な橢円形である。北東壁は攪乱のため検出できなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器が出土した。遺物は 1 層もしくは 2 層上層で出土した。

**SK-066(第 49 図)**

**重複関係** (新)SD-028 → (旧)SK-066

**規模・形態・構造** 検出部分の長軸 1.0 m、短軸 0.59 m、深さ 0.2 m の土坑。平面形は橢円形であると推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。SK-067～069 と主軸が同じであり、関連性が考えられる。

**遺物** 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

**SK-067(第 49・52 図)**

**重複関係** (新)SD-028 → (旧)SK-067

**規模・形態・構造** 検出部分の長軸 0.8 m、短軸 0.4 m、深さ 0.12 m。平面形は橢円形であると推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

**遺物** 土師器、須恵器が出土した。遺物は、床面直上より出土した。

**SK-068(第 49 図)**

**重複関係** (新)SD-028 → (旧)SK-068

**規模・形態・構造** 検出部分の長軸 0.8 m、短軸 0.7 m、深さ 0.12 m の土坑で北側を SD-028 に切られる。平面形は不整な橢円形であると推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

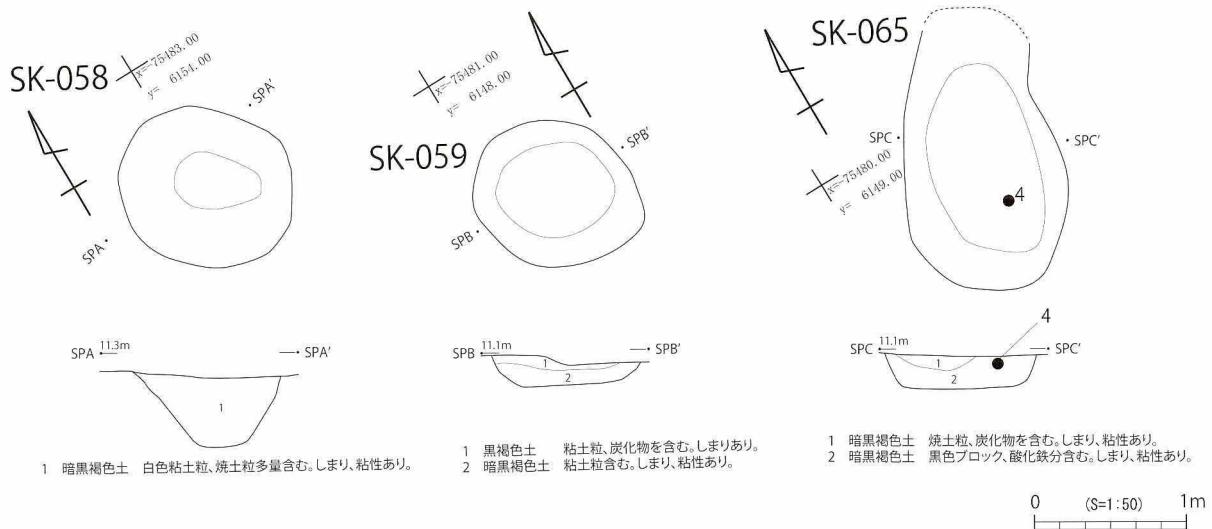
**遺物** 土師器、須恵器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

**SK-069(第 49 図)**

重複関係 (新)SD-028 → (旧)SK-069

規模・形態・構造 検出部分の長軸 0.4 m、短軸 0.49 m、深さ 0.14 m。北側を SD-028 に切られる。平面形は橢円形であると推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

遺物 土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。



第 51 図 SK-058・059・065 実測図

## ピット

P-109 (第 38・52 図)

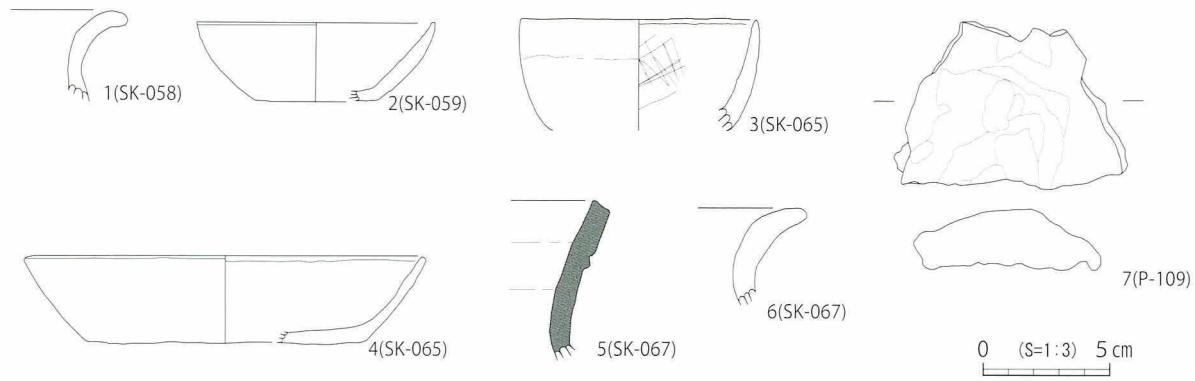
重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.48 m、深さ 0.15 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。

遺物 底面直上から鉄滓が出土した。

遺構	重複	規模・形態・構造	出土遺物
P-90	なし	直径 0.11 m、深さ 0.45 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。壺の口縁部片が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。
P-92	(新)P-92 → (旧)P-93	直径 0.3 m、深さ 0.27 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。甕が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。
P-93	(新)P-92 → (旧)P-93	直径 0.4 m、深さ 0.34 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-94	なし	直径 0.4 m、深さ 0.17 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-95	なし	直径 0.5 m、深さ 0.28 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。甕の胴部が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。
P-99	(新)P-115 → (旧)P-99	直径 0.5 m、深さ 0.3 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。平底の壺が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。
P-102	なし	直径 0.65 m、深さ 0.15 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-103	なし	直径 0.3 m、深さ 0.4 m。平面形は円形である。柱痕を確認した。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。
P-106	なし	直径 0.34 m、深さ 0.39 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。壺が含まれるが、小片のため図示し得るものはない。
P-111	なし	直径 0.6 m、深さ 0.12 m。平面形は円形である。柱痕は確認できなかった。	土師器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

表 33 V 区ピット観察表



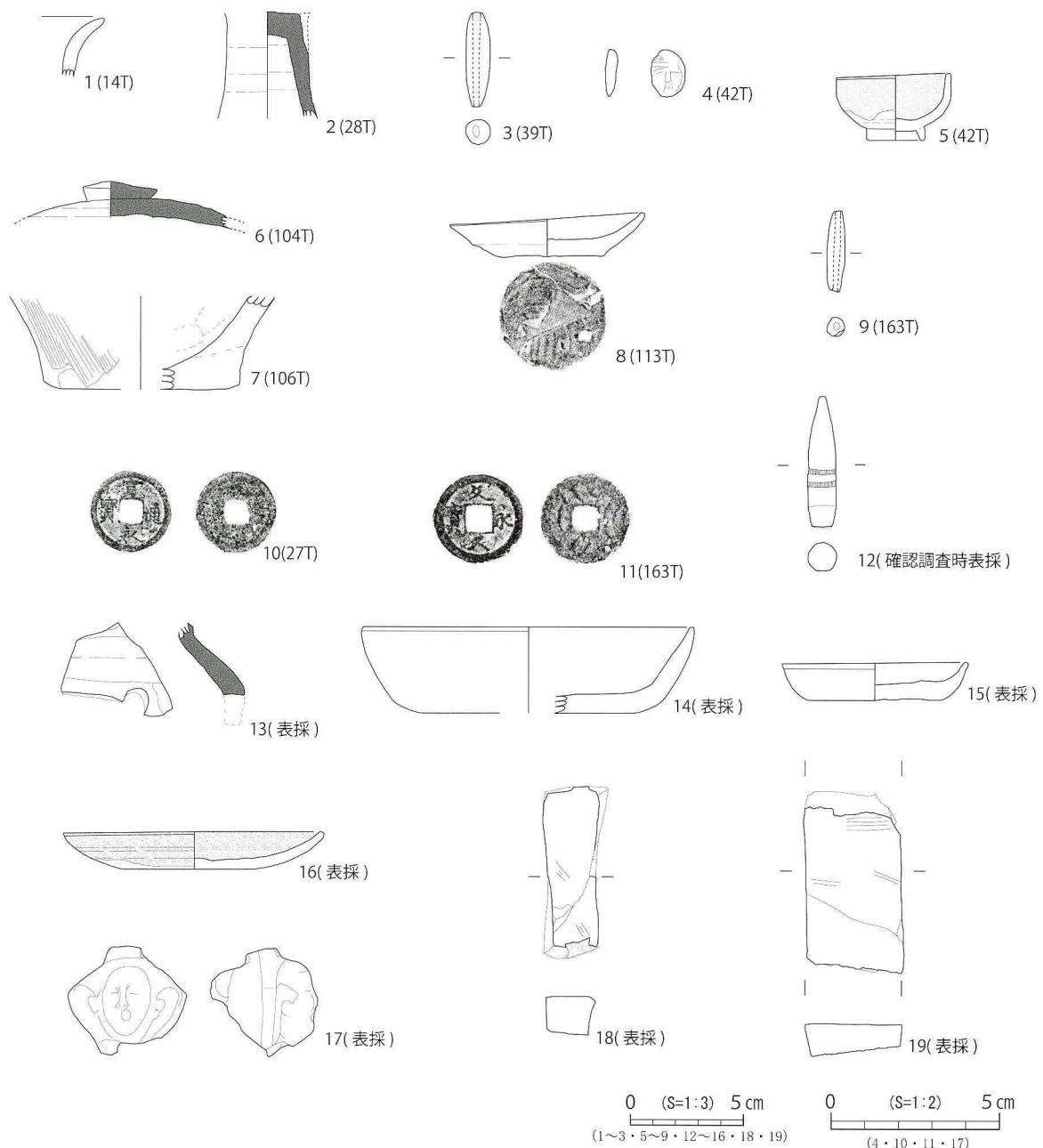
第52図 V区出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1 SK-058	甕(土師器)	口縁部片	現存高 3.1 cm	内外面ともヨコナデ。	明黄褐色 良好	赤色粒・小石・石英
2 SK-059	壺(土師器)	口縁部 1/6	口径 9.6 cm 底径 5.0 cm 現存高 3.2 cm	摩耗激しく調整不明。	明黄褐色 不良	細かい。砂・赤色粒・ 白色粒
3 SK-065	壺(土師器)	口縁部 1/6	口径 9.5 cm 現存高 4.5 cm	口縁部ヨコナデ。内面は格子状暗文。	橙色 良好	細かい。砂・小石
4 SK-065	壺(土師器)	底部 1/2	口径 15.9 cm 底径 11.0 cm 現存高 3.3 cm	口縁部ヨコナデ。摩耗激しい。	明黄褐色 良好	赤色粒・金雲母・石 英
5 SK-067	甕(須恵器)	口縁部片	現存高 6.5 cm	口クロ成形。釉が付着。	灰色 良好	白色粒・小石
6 SK-067	甕(土師器)	口縁部片	現存高 3.4 cm	摩耗激しく調整不明。	(内)灰色 (外)黄褐色 不良	細かい。砂・赤色粒
7 P-110	鉄滓		全長 6.6 cm 最大幅 8.7 cm 重量 209.38g			

表34 V区出土遺物観察表

## 7 その他出土遺物（第 53 図）

確認調査での出土遺物が 1～12 である。年代は、弥生時代から近現代まで確認した。表採遺物は 13～19 である。年代は奈良・平安時代から近世までの遺物を確認した。



第 53 図 その他出土遺物実測図

NO	器種・種類	遺存率	大きさ	特徴	色調・焼成	胎土
1	甕（土師器）	口縁部片	現存高 2.6 cm	内外面ともハケ状工具ナデ。	にぶい黄橙色 良好	白色粒・石英・砂
2	高壺（須恵器）	脚部	最大幅 3.7 cm 現存高 4.8 cm	ロクロ成形。	灰色 良好	白色粒・石英
3	土錘	完形	最大幅 1.1 cm 長さ 4.1 cm	外面ナデ。	明赤褐色 良好	白色粒

表 35 その他出土遺物観察表 (1)

4	泥めんこ (42T)		幅 5.5 cm 最大厚 0.4 cm 長さ 1.5 cm	型入れ	橙色 良好	細かい。砂
5	猪口(磁器) (42T)	完形	口径 8.9 cm 底径 4.5 cm 器高 2.0 cm	ロクロ成形。内外面に灰白色釉が施釉。	灰色 良好	白色粒・砂
6	蓋(須恵器) (104T)	1/4	現存高 2.2 cm	ロクロ成形。上部ヘラケズリ。自然釉が散見。	灰色 良好	白色粒・石英
7	壺(弥生土器) (106T)	底部1/6	底径 8.4 cm 現存高 4.2 cm	外面ハケ状工具で下方向にナデ。内面はナデ。	にぶい褐色 良好	白色粒・砂・小石
8	かわらけ(土師質) (113T)	完形	口径 8.9 cm 底径 4.5 cm 器高 2.0 cm	ロクロ成形。内外面ともヘラケズリ。底部糸切り痕。	にぶい黄色 良好	細かい。砂・白色粒・赤色粒
9	土錘 (163T)	完形	最大幅 0.85 cm 長さ 3.8 cm	外面ナデ。	明赤褐色 良好	細かい。石英粒・砂・赤色粒
10	古銭 (27T)	完形	直径 2.7 cm 重量 0.01g	寛永通寶 近世～近代初		
11	古銭 (163T)	完形	直径 2.7 cm 重量 0.01g	文久永寶 1863年以降		
12	銃弾(鉄製) (確認調査時表採)		長さ 6.0 cm 最大幅 1.27 cm 重量 39.94g	下方の刻みを2段持つ。真鎗製である。		
13	甕(須恵器) 表採		孔直径 1.3 cm 現存高 3.8 cm	ロクロ成形。	(外) 黒褐色 (内) 灰色 良好	白色粒・小石
14	壺(土師器) 表採	口縁部～底部 1/5	口径 15.0 cm 底径 7.8 cm 器高 3.9 cm	摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	細かい。白色粒・石英・赤色粒
15	かわらけ(土師質) 表採	完形	口径 8.4 cm 底径 6 cm 器高 1.7 cm	内外面とも摩耗激しく調整不明。	橙色 不良	赤色粒・砂・小石
16	燈明皿(磁器) 表採	完形	口径 11.6 cm 底径 5.0 cm 器高 1.7 cm	ロクロ成形。内面、外面上部に鉄釉が施釉。	灰白色 良好	細かい。黒色粒・砂
17	土人形 表採	頭部のみ	最大幅 3.6 cm 最大厚 3.2 cm 現存高 3.3 cm	口は棒状のもので穴をあける。 鼻にも穴をあけている。	橙色 良好	白色粒・赤色粒
18	砥石 表採	ほぼ完形	最大幅 2.8 cm 最大厚 2.6 cm 遺存長 7.8 cm 重量 70.8g	4面に砥石面を持つ。安山岩。		
19	砥石 表採	一部欠損	最大幅 4.4 cm 最大厚 1.7 cm 遺存長 8.0 cm 重量 101.64g	3面に砥石面をもつ。安山岩。		

表35 その他出土遺物観察表(2)

## 第3章　まとめ（第54図）

今回は、広大な面積を対象に確認調査を実施し、引き続いて本調査を行った。確認調査では、調査区の南側で遺構確認面が検出されず、植物腐食層が広がっており、旧来は沼地のような地形であったことが判明した。調査した結果、弥生時代中期から中近世まで、幅広い時代の遺物が出土した。

上湯江遺跡IVで検出した遺構の多くは、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて、7世紀末～9世紀の時期が中心である。調査区全体では南北が高く中心が下がる地形であるが、本調査範囲は南から北側にむけて、ゆるやかに上がっていき、最も北側であるV区では微高地が広がる。微高地上では竪穴住居跡を検出し、集落が営まれていたことが判明した。各時代ごとに以下のとおりまとめる。

### 1 縄文時代・弥生時代

今回の調査では、遺構は確認されなかったが、黒曜石の剥片と弥生土器が出土した。これまでの調査では、古墳時代以前の遺物は出土していないが、今後は、縄文時代、弥生時代の遺構の可能性も念頭に置く必要がある。

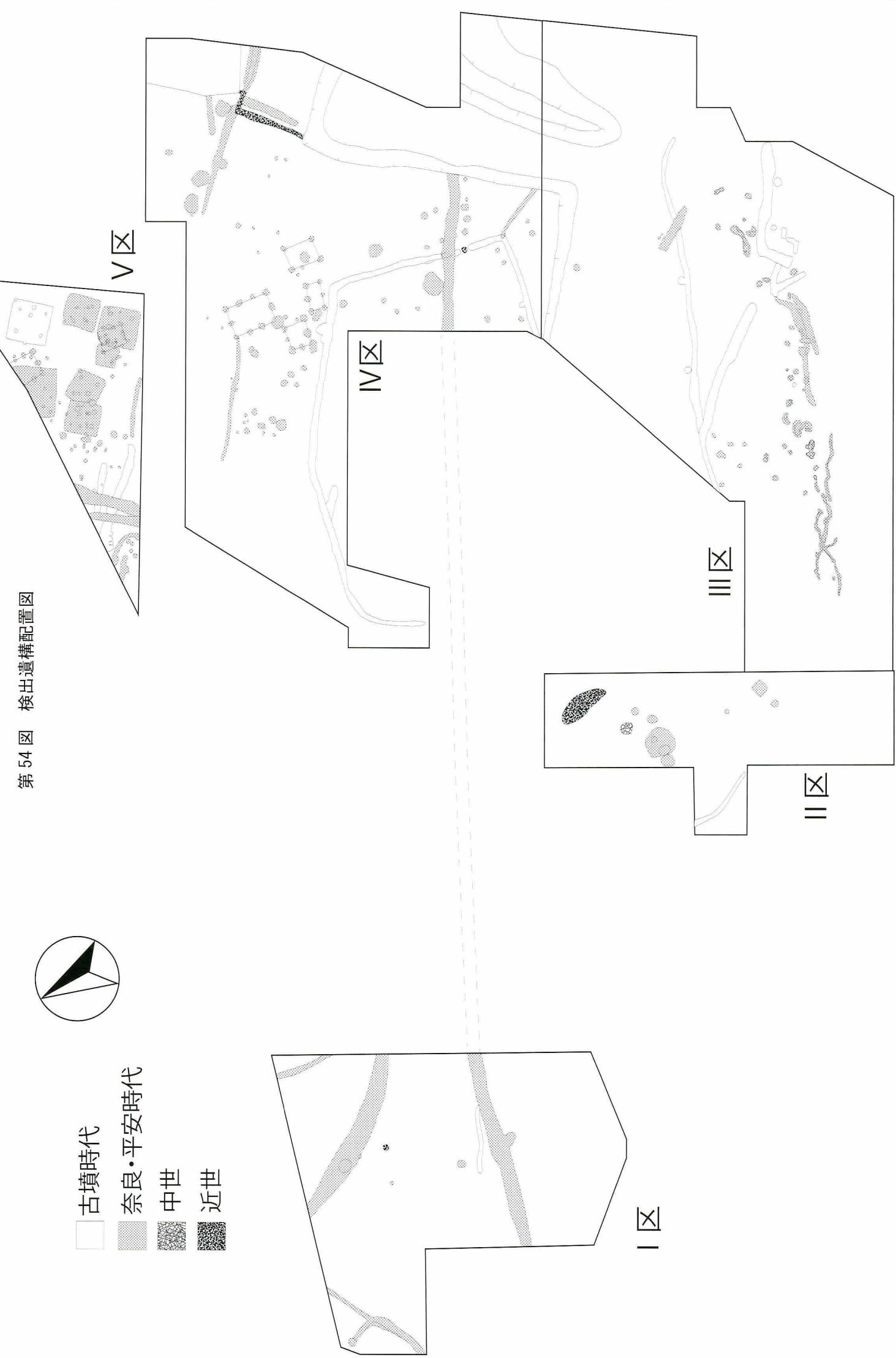
### 2 古墳時代

平成26年度調査で古墳の周溝が検出されていることから、周溝がある可能性を念頭に置いて調査したが、今回の調査では検出されなかった。調査区全体で古墳時代後期の遺物が出土しているが、遺構は少ない。古墳時代の遺構はI区溝跡1条、II区溝跡1条、III区溝跡4条・土坑6基・ピット2基、IV区溝跡2条・土坑1基・ピット2基、V区竪穴住居跡1軒・溝跡2条・土坑4基・ピット2基である。IV区のSK-056からは、桃の種子や古墳時代の高壙の脚部と、その下部から紡錘車が出土している。また、遺物を挟む状態で板材を検出した。板材と板材の間は狭く、井戸や暗渠排水といった生活のための施設ではなく、祭祀的な意図のあるものと想定したが、類例をみつけることができなかつたため断定はできない。SD-017は、調査区の東側を区画するようにまわる溝である。残念ながら、区画の中心部分は後世の攢乱により、遺構は検出されなかった。V区では、SI-001とSD-028である。SI-001は、検出した竪穴住居跡の中で唯一カマドを確認した住居である。SD-028からは、古墳時代の石製の臼玉が1点出土している。

### 3 奈良・平安時代

当該時代が、上湯江遺跡IVの中心の時期である。出土遺物では、土師器壙が最も多い。多くの土師器片は、摩耗が激しく調整等は不明だが、器形などの特徴から上総型壙が多く含まれている。奈良・平安時代の遺構はI区溝跡6条・土坑2基・井戸2基・ピット2基、II区土坑7基・ピット1基・性格不明遺構1基、III区溝跡5条・土坑25基・ピット27基、IV区掘立柱建物跡4棟・溝跡8条・土坑11基・井戸1基・ピット52基、V区竪穴住居跡6軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡5条・土坑5基・ピット53基である。I区とIV区のSD-007は調査区の東西方向を走る。加工痕のある木製品が出土しており、IV区で出土した遺物から奈良時代に帰属すると考える。今回出土した木製品の類似品は確認できていない。IV区のSE-005からは、高台付壙や長頸壺、須恵器皿などの遺物が出土した。出土した高台付壙は、体部正位に焼成後に刻書されている。刻書が鮮明ではない部分もあり、断言はできないが、書かれている文字は「ヰ」もしくは「ヰ」の可能性がある<sup>(1)</sup>。横に書かれた「一」は、文字と断言はできないが、同じタイミングで刻まれて

第54図 檢出遺構配置図



いる。遺構の堆積は、自然堆積で埋没しており、図示した遺物は、遺構の中心で各層ごとに出土した。また、SB-003 の f ピットと同一地点にあり、SB-003 の使用中止後に SE-005 を掘削したことが分かる。竪穴住居跡は 6 軒検出した。どの住居もカマドは検出されなかった。焼土を検出している住居跡もあるため、上層の攪乱で壊されてしまっている可能性が高い。V 区の SI-002 からは長胴甕と甕が 2 セット、SI-006 からも長胴甕などの生活用品が出土している。これまでの上湯江遺跡の調査では、竪穴住居跡などの居住のための遺構は検出されておらず、集落の存在が確認できなかったが、今回の調査で奈良・平安時代の集落の存在が明らかになった。また、遺構外ではあるが、水滴の可能性がある小型平瓶が出土している。出土地点は SB-004 の近接地であるが、小型平瓶が伴う遺構とは断定できない。周辺遺跡での出土例は袖ヶ浦市の永吉台遺跡<sup>(2)</sup> があげられるが、君津市では初めての出土である。小型平瓶は、8 世紀代に帰属する。この遺物の出土により墨書き土器等の文字資料が含まれていることを念頭に整理作業を実施したが、墨書き土器などは確認されなかった。

#### 4 中近世以降

中世の遺構は、II 区の SE-003 であり、常滑系甕の口縁部を含む遺物が出土した。近世の遺構は I 区で座棺 1 基、II 区で性格不明遺構 1 基、IV 区で溝跡 1 条、井戸 1 基である。I 区の SZ-001 は、出土遺物から 18 世紀末～19 世紀の座棺であると考えられる。上湯江遺跡内では、上湯江遺跡 III<sup>(3)</sup> で近世に伴う可能性が高い土坑を検出した。SZ-001 からは櫛が出土したが、被葬者は女性とは限らない<sup>(4)</sup>。また、生活用品ではない餌猪口が出土していることも特徴としてあげられる。近代以降であるが、確認調査で出土した銃弾について触れておく。銃弾は口径が 12.7 mm<sup>(5)</sup> で、太平洋戦争期のものである。

上湯江遺跡は、これまで小規模な調査を進め、多くの調査成果を残してきた。大規模な調査は今回が初めてである。今回の調査では非常に時期幅のある遺構、遺物を検出した。微高地上から今まで明らかになっていなかった集落が発見され、貞元小学校に向かって北側に広がっていると考えられる。遺跡の中心は、奈良・平安時代で、小型平瓶や刻書き土器の出土や、掘立柱建物跡が検出されたことから、識字層がいる官衙や寺院などの施設が展開していた可能性も示唆する結果となった。上湯江・貞元地区は、古代周淮郡「湯坐郷」に属したと推定され、「貞元親王」が土着した伝説も残されている。また、過去の確認調査では、龍泉窯の青磁片が出土したことから、中世には鎌倉とのつながりが分かっている<sup>(6)</sup>。その前段階の時代から都との直接的な関わりがある地域であった可能性も考えられる。近世以降の遺構、遺物も出土し、今後の調査への重要なデータを残すことができた。しかし、官衙遺構の有無や集落の広がり、古墳の存在など様々な事項が考えられるが、どれもまだ断定するには早急である。今後の調査で、新たな発見を待ちたい。

註 (1) 刻書き土器については君津市文化財審議会委員の宮本敬一氏にご教授を頂いた。

(2) 『永吉台遺跡』 1985 財團法人君津郡市文化財センター

(3) 『平成 26 年度君津市内遺跡発掘調査報告書』 2015 君津市教育委員会

(4) 木更津市教育委員会の松本勝氏にご教授を頂いた。

- (5) 袖ヶ浦市教育委員会の能城秀喜氏にご教示を頂いた。
- (6) 『富吉遺跡群確認調査報告書』1996 君津市教育委員会

#### 参考文献

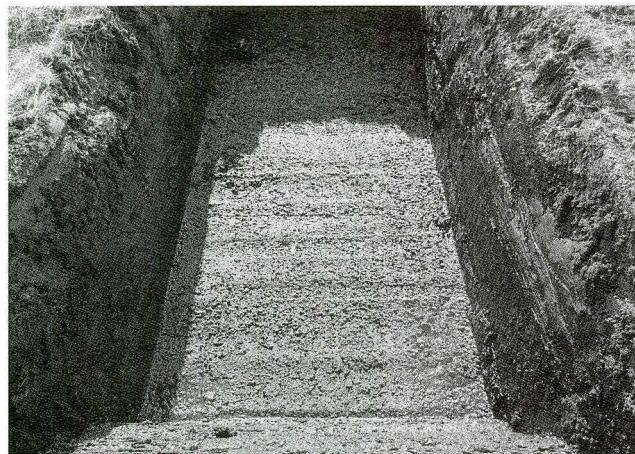
- 鐘方正樹『井戸の考古学』2003 株式会社同成社
- 高島英之『古代出土文字資料の研究』2000 株式会社東京堂出版
- 土生田純之『辞典 墓の考古学』2013 株式会社吉川弘文館
- 平川南『墨書き土器の研究』2000 株式会社吉川弘文館
- 『平成17年度企画展 平和60年 戦時下の記憶』2005 君津市立久留里城址資料館
- 『房総における奈良・平安時代の出土文字資料 I』1991 房総歴史考古学研究会



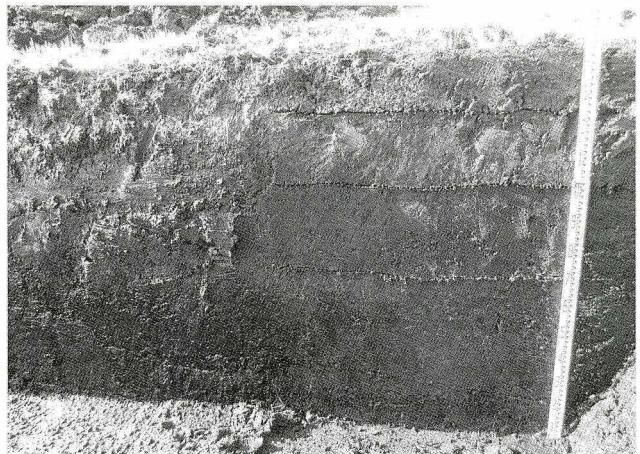
1. 調査前(西→)



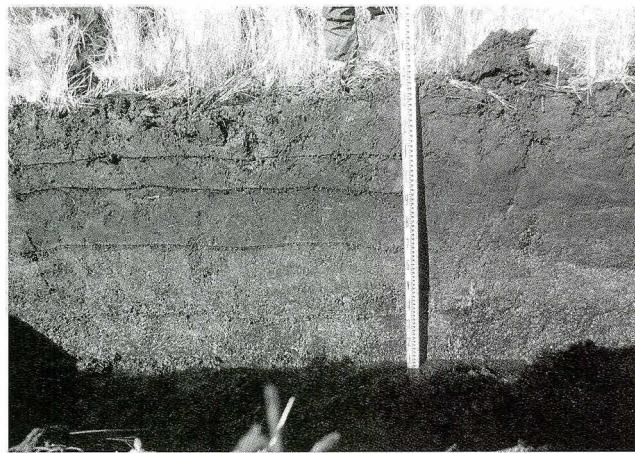
2. 調査前(北→)



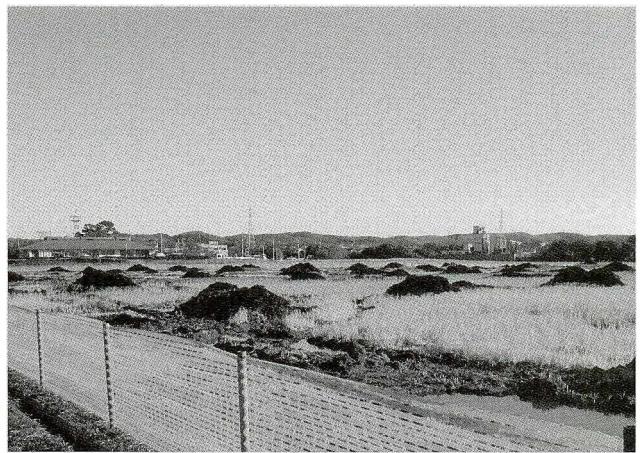
3. 19T(北→)



4. 19T断面(東→)



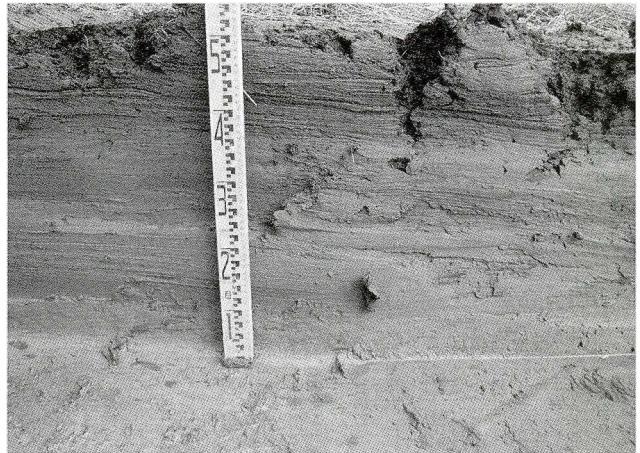
5. 26T断面(西→)



6. 確認調査トレンチ掘削(南西→)



7. 13T(南→)



8. 確認調査トレンチ(南西→)

## 図版 2



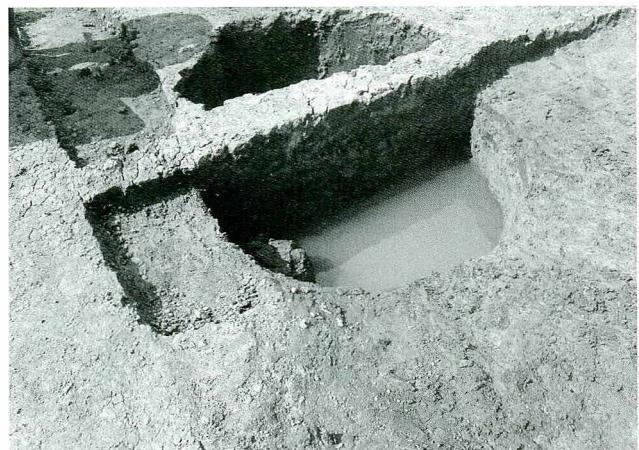
1. I 区西侧遺構確認状況(南→)



2. SD-001～003断面(南→)



3. SD-001・002・003完掘(南東→)



4. SD-004、SE-001断面(南東→)



5. SZ-001断面(南→)



6. SZ-001完掘(南→)



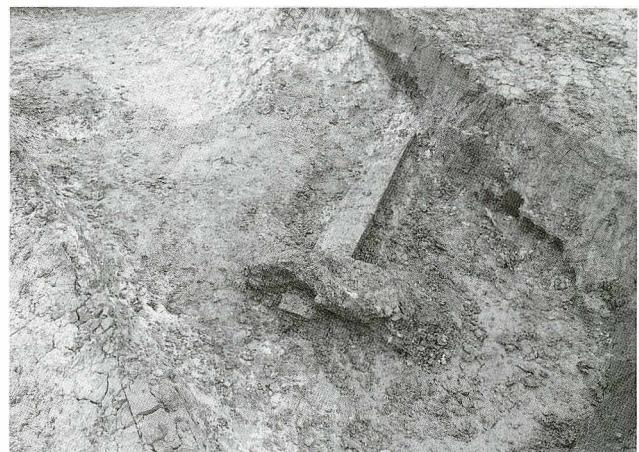
7. SD-006・007断面(西→)



8. SD-007、SK-003断面(東→)



1. SD-007作業風景(南西→)



2. SD-007遺物出土状況(南東→)



3. SD-007(東→)



4. SD-006・007完掘(南西→)



5. II区遺構確認(北西→)



6. SX-001断面(南東→)

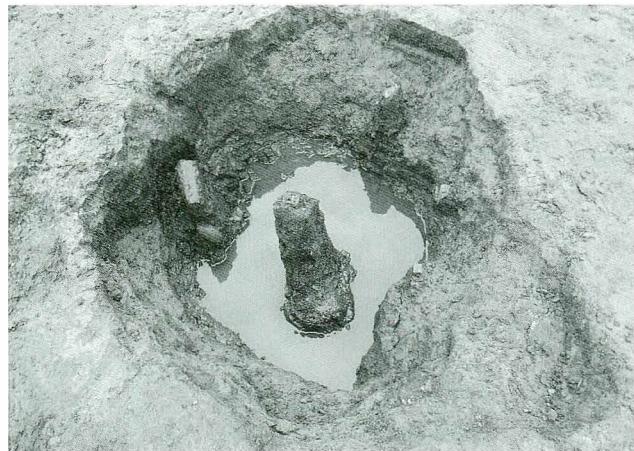


7. SX-001完掘(東→)



8. SE-003断面(南→)

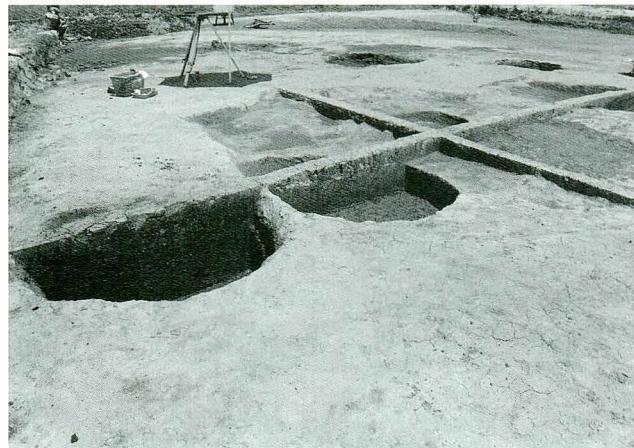
図版 4



1. SE-003遺物出土状況(南→)



2. SE-003完掘(南→)



3. SK-008・006・007、SX-002断面(南西→)



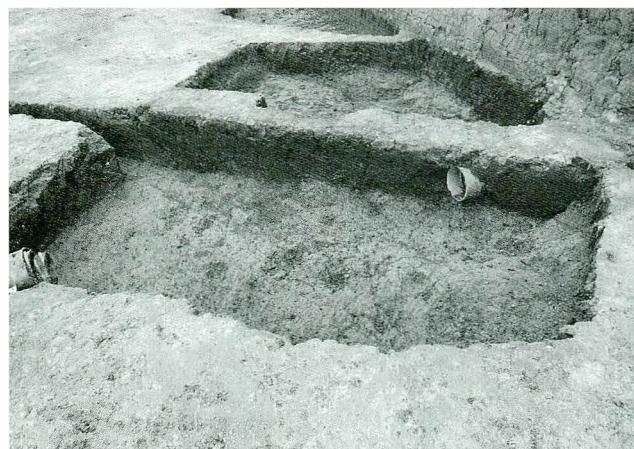
4. SK-008・006・007、SX-002完掘(南西→)



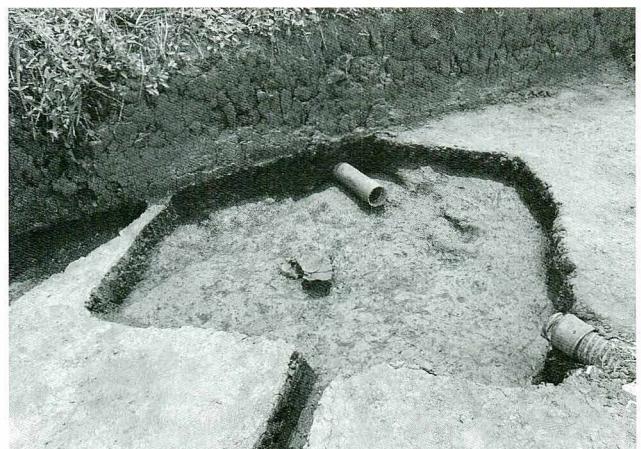
5. SD-008断面(南東→)



6. SD-008完掘(南→)



7. SK-011断面(南西→)



8. SK-011遺物出土状況(北西→)



1. III区遺構確認(西→)



2. SD-010断面(南西→)



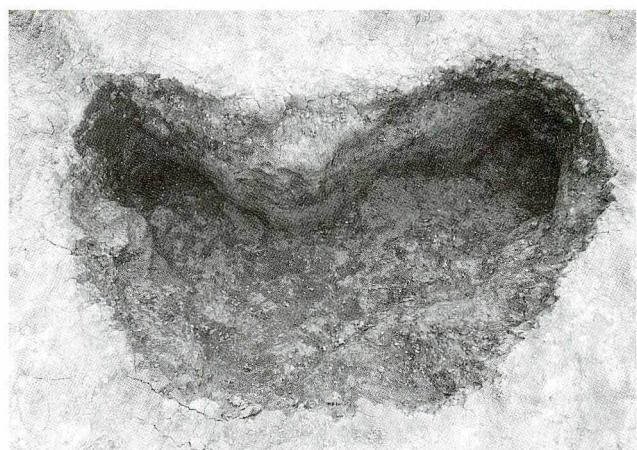
3. SD-010遺物出土状況(南西→)



4. SD-010完掘(南→)



5. SK-024断面(東→)



6. SK-024・025完掘(東→)



7. SK-027・028断面(東→)



8. SK-027・028完掘(東→)

## 図版 6



1. SK-029・032・033完掘(東→)



2. SD-015断面(西→)



3. SD-016、SK-036断面(東→)



4. Ⅲ区全景(南東→)



5. SD-016完掘(南東→)



6. SD-018完掘(南東→)



7. Ⅲ区作業風景(南東→)



8. Ⅲ区水没状況(南→)



1. IV区遺構確認(北東→)



2. IV区南東側全景(南東→)



3. SD-017、P-26 断面(東→)



4. SD-017・019断面(南西→)



5. SD-007・017断面(西→)



6. SD-007遺物出土状況(南東→)

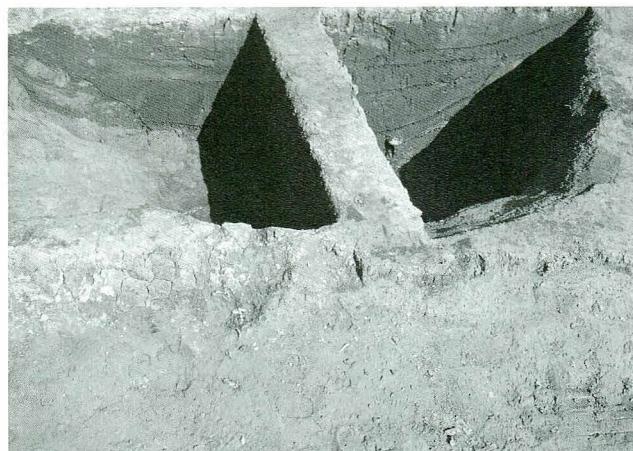


7. SE-004断面(東→)

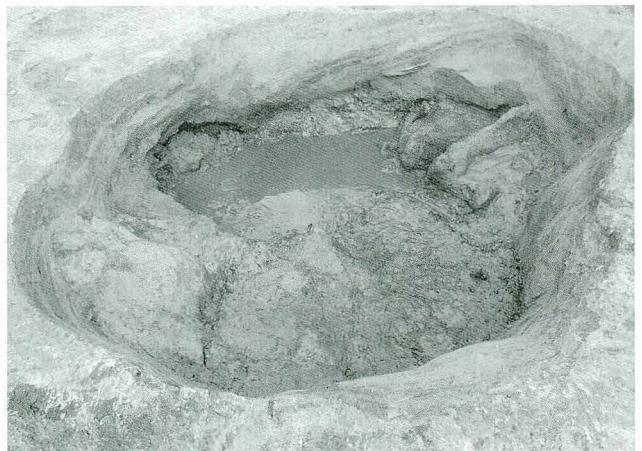


8. SE-004全景(東→)

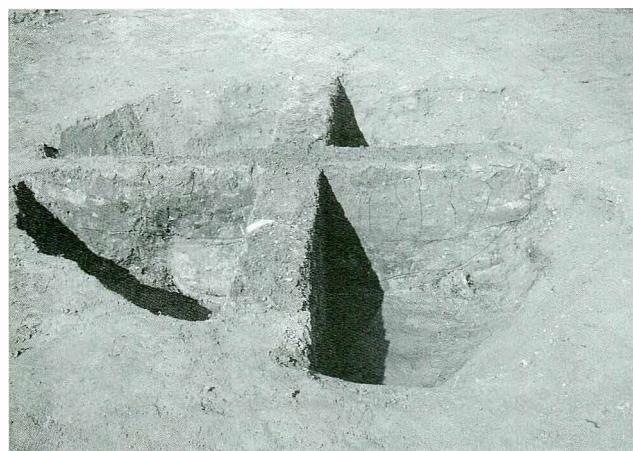
## 図版 8



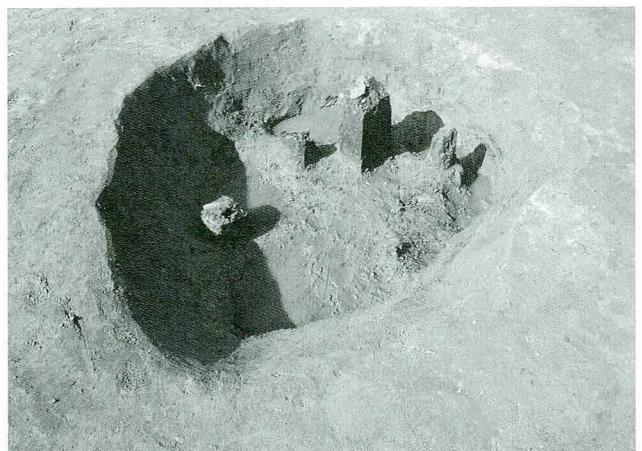
1. SK-043東西断面(南→)



2. SK-043完掘(南→)



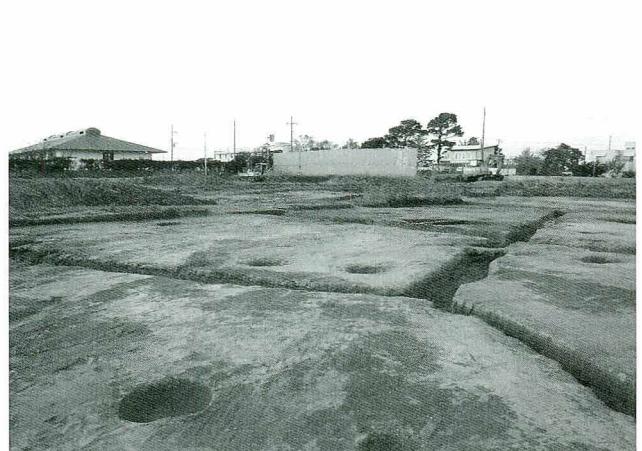
3. SK-044東西断面(南→)



4. SK-044遺物出土状況(南東→)



5. SK-044完掘(東→)



6. IV区南側完掘(南東→)



7. SD-020・023・025断面 (西→)



8. SD-020～025完掘(東→)



1. 小型平瓶出土状況(北西→)



2. P-73・74断面(南→)



3. P-73遺物出土状況(北→)



4. SB-001a柱材残存状況断面(北→)



5. SB-001完掘(北西→)



6. SB-002完掘(北→)



7. SE-005断面(東→)



8. SE-005遺物出土状況近景(北→)

## 図版 10



1. SE-005長頸壺出土状況(西→)



2. SK-054遺物出土状況(南→)



3. SD-017、SK-056断面(東→)



4. SK-056高壺出土状況(南→)



5. SK-056紡錘車出土状況(西→)



6. SD-017完掘(西→)



7. IV区北部全景(北西→)



8. 作業風景(北東→)



1. V区遺構確認(東→)



2. SI-001断面A-A'(南→)



3. SI-001断面B-B'(北東→)



4. SI-001遺物出土状況(東→)



5. SI-001カマド近景(東→)



6. SI-001完掘(南東→)



7. SI-002断面(東→)



8. SI-002遺物出土状況(南東→)

## 図版 12



1. SI-002遺物出土状況(北東→)



2. SI-002完掘(東→)



3. SI-003・004遺物出土状況(東→)



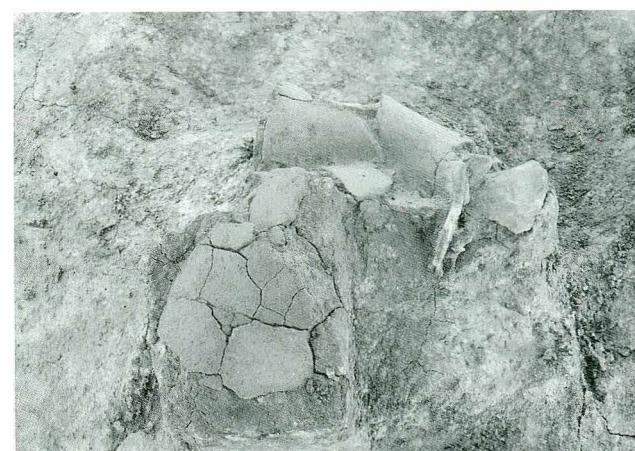
4. SI-003・004完掘(東→)



5. SI-005完掘(南西→)



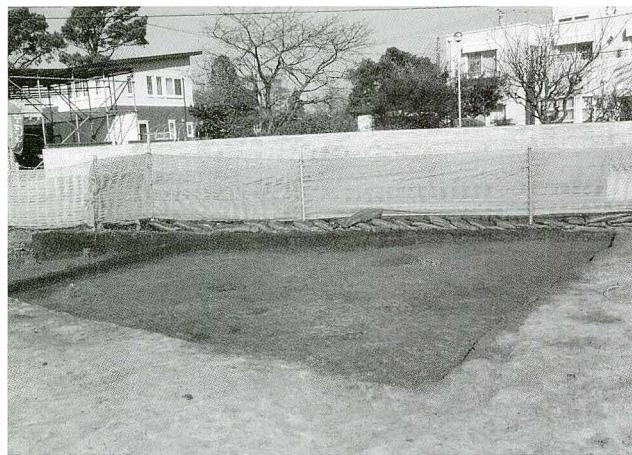
6. SI-006遺物出土状況(北東→)



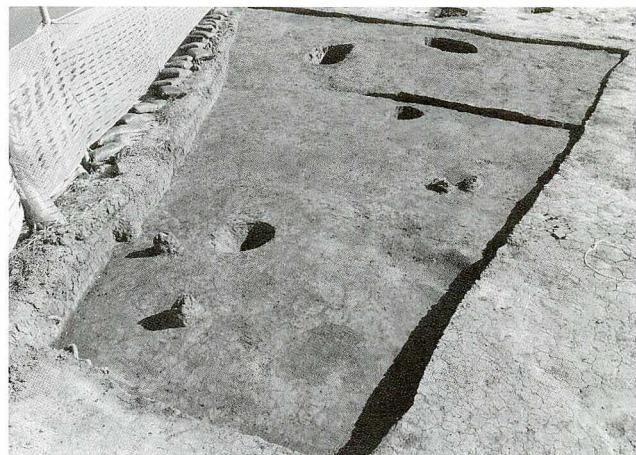
7. SI-006遺物出土状況(南→)



8. SI-005・006完掘(南東→)



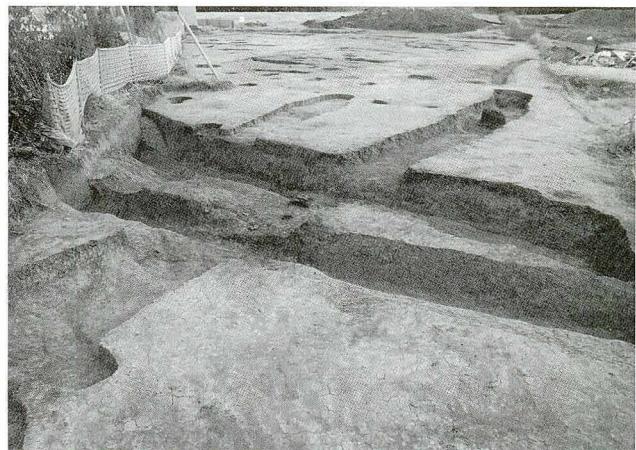
1. SI-007断面(南→)



2. SI-007全景(西→)



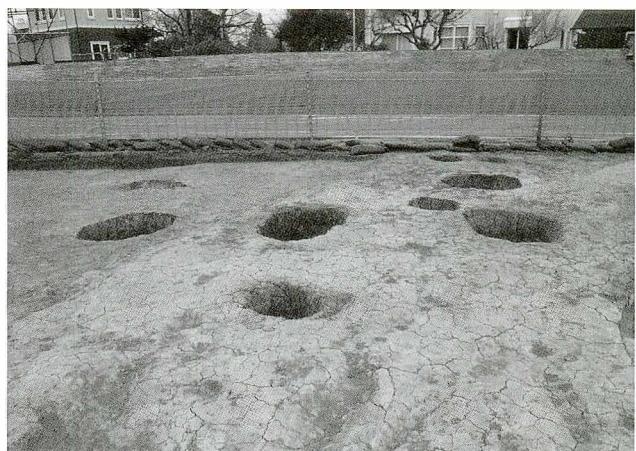
3. V区西部全景(東→)



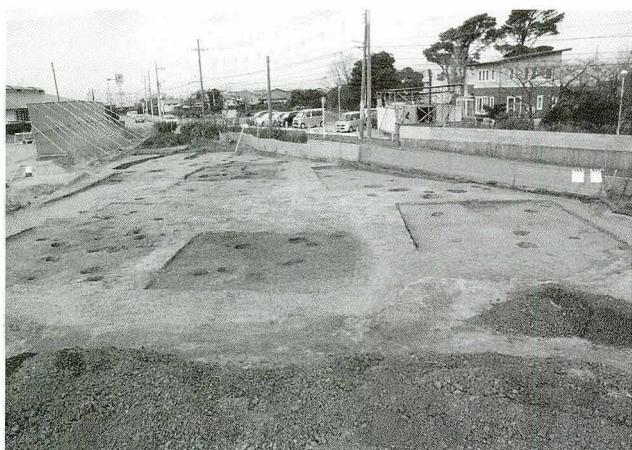
4. SD-028・031遺物出土状況(南東→)



5. SD-028遺物出土状況近景(南西→)



6. SB-005完掘(南→)



7. V区全景(東→)



8. V区作業風景(東→)

## 図版 14



1. SD-007出土遺物 8図-1



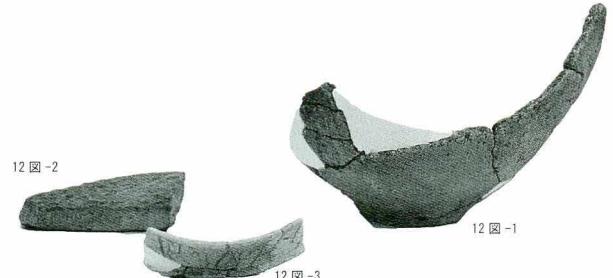
2. SZ-001出土遺物



3. SZ-001出土遺物 9図-4



4. SZ-001出土遺物



5. SK-011出土遺物



6. SE-003出土遺物



7. SD-010出土遺物



1. SD-007出土遺物 25図-1



26図-1

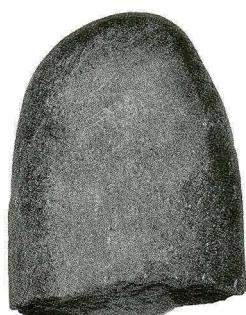


26図-5



26図-2

2. SD-020・024出土遺物



27図-1



27図-3



28図-2



28図-4

3. SK-043出土遺物



31図-2



31図-3



31図-1



31図-4

5. SK-053出土遺物



32図-4



32図-1

6. SK-054出土遺物



32図-5

32図-7



33図-2



33図-1

7. SK-054出土遺物

8. SK-056出土遺物

## 図版 16



1. SK-056出土 紡錘車 33図-02

図 35-3



図 35-4



図 35-1

2. SE-005出土 遺物



3. SE-005出土 高台付壺 35図-2

4. SE-005出土 長頸壺 35図-3



5. P-73出土 遺物 36図-1

6. P-73出土 遺物 36図-2



7. SB-004出土 遺物及び、小型平壺

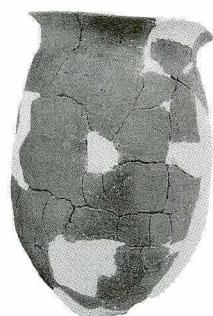
8. IV区遺構外出土 小型平壺 37図-7



1. SI-001出土遺物



2. SI-002出土遺物



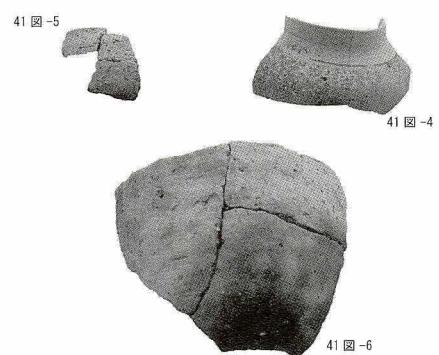
3. SI-002出土遺物 41図-1



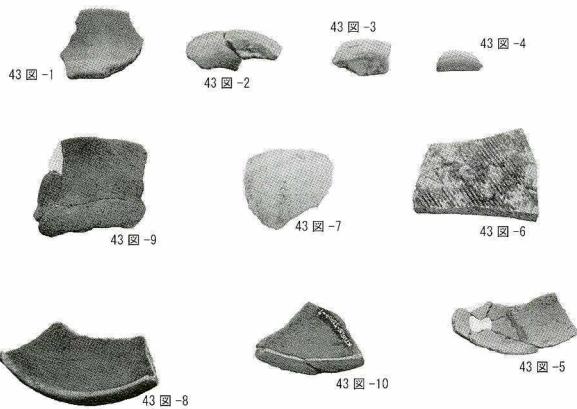
4. SI-002出土遺物 41図-2



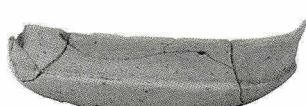
5. SI-002出土遺物 41図-3



6. SI-002出土遺物



7. SI-003・004出土遺物



8. SI-005出土遺物 45図-1

## 図版 18



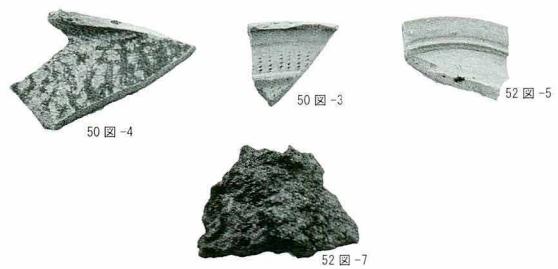
1. SI-006出土遺物



2. SD-028出土遺物 50図-8



3. SD-028出土遺物 50図-5



4. SD-028・SK-067・P-109出土遺物



5. 確認調査出土遺物



6. 確認調査出土遺物



7. 表採遺物

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	きみつし かみゆえいせき							
書名	—君津市— 上湯江遺跡IV							
副書名	トマト栽培施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	曾我 真実子							
編集機関	君津市教育委員会							
所在地	〒 299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号							
発行年月日	西暦2019年(平成31年)3月29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
かみゆえいせき 上湯江遺跡IV	きみつしかみゆえ 君津市上湯江 1287-1ほか	12225	KT056	35° 19' 10"	139° 54' 03"	〔確認〕 2016年11月21日～ 2017年1月19日  2017年5月8日～ 2017年6月22日	1,230 /40,748 m <sup>2</sup>  997 /27,763 m <sup>2</sup>	トマト 栽培施 設建設
						〔本調査〕 2017年7月10日～ 2017年12月27日	8,980 m <sup>2</sup>	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
上湯江遺跡IV	包蔵地	古墳時代	竪穴住居跡1軒 溝跡10条 土坑11基 ピット6基		石器 弥生土器 古墳時代土師器・須 恵器・石製品 奈良・平安時代土師 器・須恵器・鉄製品・ 木製品 中世陶磁器 近世陶磁器・古錢・ 土製品・木製品	今回の調査では、縄文時代～ 近代までの時期幅がある遺物 が出土し、その内、縄文・弥 生時代の遺物出土は初めてで ある。奈良・平安時代の遺構・ 遺物が中心で、水滴の可能性 がある小型平瓶や刻書がある 高台付壇も出土し、掘立柱建 物跡が検出されたことから、 周辺に識字層がいる官衙や寺 院などの施設が存在した可能 性もある。古墳時代後期～奈 良・平安時代の竪穴住居跡を 7軒検出し、集落が微高地に 広がっていることが判明した。		
		奈良・平安 時代	竪穴住居跡6軒 掘立柱建物跡6棟 溝跡24条 土坑50基 井戸3基 ピット136基 性格不明遺構1基					
		中世	井戸1基					
		近世	溝跡1条 井戸1基 墓1基 性格不明遺構1基					





